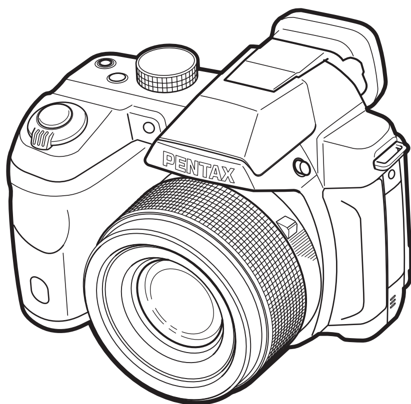
PENTAX



デジタルカメラ

X-5 使用説明書



HDMI™
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE









カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタルカメラX-5をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

SDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。

HDMI、HDMIロゴ、High-Definition Multimedia Interfaceは、米国およびその他の国々における、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

「Eye-Fi」「Eye-Fi *connected*」および Eye-FiロゴはEye-Fi, Inc. の登録商標です。

ArcSoft®の名称およびそのロゴ は、ArcSoft Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。

Intel、Intel Core、PentiumはIntel Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本製品は、お客様が個人使用または報酬を受けないその他の利用で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

（ｉ）AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）

（ii）個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

http：//www.mpegla.comをご参照ください。

その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンターでは、一部機能が反映されません。PRINT Image Matching、PRINT Image Matching II、PRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

本機を使用するにあたって

- テレビ塔など強い電波や磁気を発生する施設の周囲や、強い静電気が発生する場所では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが誤作動を起こす場合があります。
- 画像モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99%以上の有効画素数がありますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび画像モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

本書ではSDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことをSDメモリーカードと表現しています。

ご注意ください

この製品の安全性については充分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。



警告　このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。



注意　このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

⚠ 警告

- カメラの分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- 使用中に煙が出ている、変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止して電池を取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどの恐れがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などの恐れがあります。
- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ち続けると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付いたり、口に入らないよう十分にご注意ください。
- お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異常が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。

ACアダプターについて

⚠ 警告

- ACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外をご使用になったり、指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。AC指定電圧は、100-240Vです。
- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 万一、内部に水などが入った場合は、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグを外し、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よく拭いてください。火災の原因となります。

⚠ 注意

- AC コードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理に曲げたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、AC コードの接続部をショートさせたり、触ったりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。

電池について

⚠ 警告

- 電池は乳幼児の手の届かない所に保管してください。特に、口に含むと感電の恐れがありますのでご注意ください。
- 電池の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠ 注意

- このカメラは、単3形アルカリ電池、単3形リチウム電池、単3形ニッケル水素電池のいずれか4本を使用します。これら以外の電池は使用しないでください。カメラの性能が十分に発揮できない場合や、電池の爆発、発火の原因となることがあります。
- 充電式のニッケル水素電池以外は充電しないでください。爆発・発火の恐れがあります。このカメラに使用できる電池の種類で、ニッケル水素電池以外は充電ができません。
- 電池は分解しないでください。無理に分解をすると、爆発や液漏れの原因となります。

- 電池を交換するときは、メーカー、種類、容量の異なる電池を混ぜて入れないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて入れないでください。電池の爆発、発火の原因となります。
- 電池の「+」と「−」の向きを間違えて入れないでください。電池の爆発、発火の原因となります。
- 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。その際は、やけどに十分注意してください。
- 電池をショートさせたり、火の中へ入れないでください。爆発や発火の原因となります。
- 電池の液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

カメラや付属品は乳幼児の手の届かない場所に

⚠ 警告

- カメラや付属品を、乳幼児の手の届く場所には置かないでください。
  1. 製品の落下や不意の動作により、傷害を受ける恐れがあります。
  2. ストラップを首に巻き付け、窒息する恐れがあります。
  3. 電池や SD メモリーカードなどの小さな付属品を飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。

取り扱い上の注意

お使いになる前に

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像の記録内容の保証はご容赦ください。
- このカメラはレンズ交換式ではありません。レンズの取り外しはできません。

持ち運びとご使用の際のご注意

- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 強い振動、ショック、圧力などを加えないでください。オートバイ、車、船などの振動からは、クッションなどでくるんで保護してください。万が一、強い振動・ショック・圧力などが加わってしまったら、当社のサービス窓口に点検にお出しください。
- カメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥、砂、ほこり、水、有害ガス、塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- 破損や故障の原因になりますので、画像モニターの表面を強く押さないでください。
- 三脚使用時は、ねじの締め過ぎに十分ご注意ください。

お手入れについて

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- レンズのほこりは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロアーは、レンズを破損させる恐れがありますので、使用しないでください。

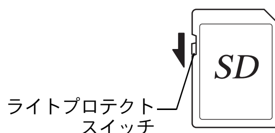
保管について

- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光があたる場所での使用・保管は避けてください。

- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。

その他

- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録できなくなり、カメラやパソコンで削除やフォーマットができなくなります。
  画像モニターには🔒と表示されます。



- カメラを使用した直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合があります。
- SDメモリーカードへのアクセス中は、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データやカードの破損の原因となります。
- SD メモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SDメモリーカードのフォーマット中は絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で失われる場合がありますのでご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  (1) 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  (2) SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  (3) 長期間SDメモリーカードを使用しなかったとき
  (4) SDメモリーカードのアクセス中にカードを取り出したり、電池を抜いたとき
- 長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- SDメモリーカードをご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。
- 未使用品や他のカメラで使用したSDメモリーカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。
- フォーマットしたカードでも、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。廃棄にはSDメモリーカード本体を物理的に破壊し、譲渡の際は市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってSDメモリーカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。
- SDメモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

目次

画像の再生と消去 112

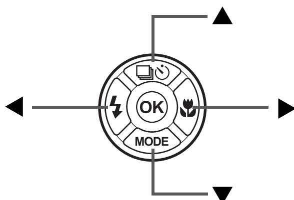
画像の編集と印刷 131

設定 154

パソコンと接続する 175

付録 188

本書では、十字キーの操作を次のように表記しています。



操作説明中で使用されている表記の意味は次のとおりです。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。
📷モード	静止画と動画の撮影をするモードです。本書では、静止画を撮影するモードを「静止画撮影モード」、動画を撮影するモードを「動画モード」と表記します。
▶モード	静止画と動画を再生するモードです。

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 準備 ――

お買い上げ後、写真を撮るまでの準備操作を説明しています。撮影をはじめる前に必ずお読みになり、操作をしてください。

2 機能共通操作 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――

各ボタンの機能やメニューの設定方法など、各機能に共通する操作を説明しています。詳しい内容は、3章以降をご覧ください。

3 撮影 ――

さまざまな撮影方法や、撮影に関する機能の設定方法を説明しています。

4 画像の再生と消去 ――――――――――――――――――――――――――――――――

静止画や動画をカメラやテレビで再生する方法と、カメラから消去する方法を説明しています。

5 画像の編集と印刷 ――――――――――――――――――――――――――――――――

撮影した静止画をカメラで編集する方法や、印刷するときの設定方法を説明しています。

6 設定 ――

カメラの機能の設定方法を説明しています。

7 パソコンと接続する――――――――――――――――――――――――――――――

カメラとパソコンのつなぎ方や、付属ソフトウェアのインストール方法と概要を説明しています。

8 付録 ――

困ったときの対処のしかたや各種資料を掲載しています。

1
2
3
4
5
6
7
8

このカメラの楽しみ方

このカメラでは、一般的な写真撮影のほか、シーンに応じたバリエーションに富んだ撮影がお楽しみいただけます。ここでは、このカメラの特長的な機能とその楽しみ方をご紹介します。詳しい操作方法は、各操作説明のページをご覧ください。

撮影も再生も、カメラがナビゲートしてくれる！

少ないボタンで操作ができるカンタン設計。いろいろな撮影シーンで最適な設定を選べる「撮影モード」（p.65）も、再生・編集を楽しむための「再生モード」（p.116、p.131）も、わかりやすいアイコンを選ぶだけでOK。各モードの機能や使い方は、画像モニターに表示されるガイドで確認できる親切設計です。



- **モードパレットでモードを選ぶと、その説明を表示（p.66、p.116）。**
- **グリーンモードを使うと、標準設定で手軽に撮影可能（p.60）。**

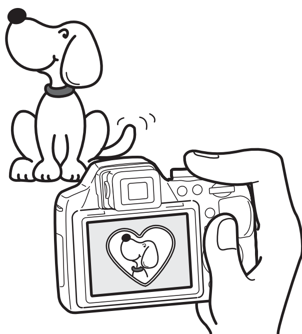
人物撮影が得意！

人物の顔を検出してピントや露出を合わせる「顔検出機能」を搭載。最大で32人の顔を検出（※）するので、グループ写真もキレイに撮影できます。また、人物が笑顔になったら自動的にシャッターを切ったり、まばたきしたことをお知らせすることもできるので、ベストショットがたくさん撮れます。

※ 画面上に表示できる顔検出枠は、最大31個です。

- **人物の顔を検出する顔検出機能（p.59）。**
- **人物をキレイに撮影する様々な撮影モード（p.65）。**

フレームと合成して撮れる！



撮影時にお好みのフレームを選んで合成することができます（p.69）。撮影した写真にあとからフレームを合成するのも、もちろんOK！フレームの形や大きさに合わせて被写体の位置を微調整したり、写真を縮小・拡大して合成することもできます。フレームと被写体のバランスが微妙に合わない・・・なんていうことはありません（p.143）。

- **フレームを使った記念写真に。**

カレンダー形式で表示できる！

撮影した画像や動画を日付ごとにカレンダー形式で表示できます（p.115）。再生したい写真や動画を、すばやく見つけることができます。

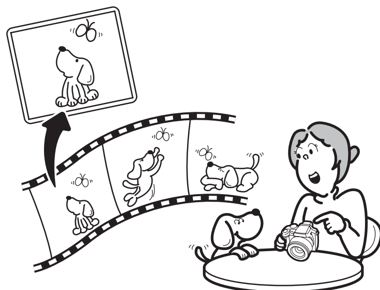
動画撮影の機能が充実！

「Movie SR」機能を使って動画撮影時の手ぶれを補正することができます（p.109）。また、1920×1080ピクセル（16：9）の高画質なフルハイビジョン動画も撮影でき（p.108）市販のHDMIケーブルを使用すれば、AV機器で高画質な動画が楽しめます（p.127）。

- **お子様やペットの成長記録に、躍動感あふれる動画撮影を（p.103）。**

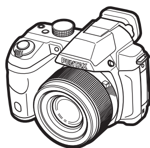
パソコンなしでも、カメラの中で楽しめる様々な機能が充実！

パソコンに接続しなくても画像の再生や編集などが楽しめる様々な機能を搭載。パソコンを起動するのが面倒だな、というときでも、これ一台で撮影から画像加工、動画の編集までできます（p.131）。

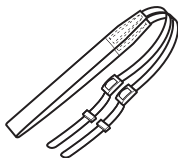


- **リサイズ（p.131）、トリミング（p.132）、デジタルフィルター（p.135）、赤目補正（p.142）などの画像加工が可能。**
- **動画の分割、静止画保存が可能（p.146）。**

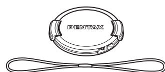
主な同梱品の確認



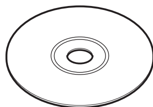
本体
X-5



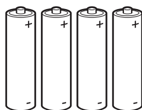
ストラップ
O-ST92（※）



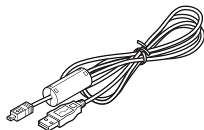
レンズキャップ
O-LC129（※）



ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW129



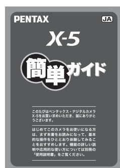
単3形アルカリ電池
（4本）



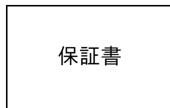
USBケーブル
I-USB7（※）



使用説明書
（本書）



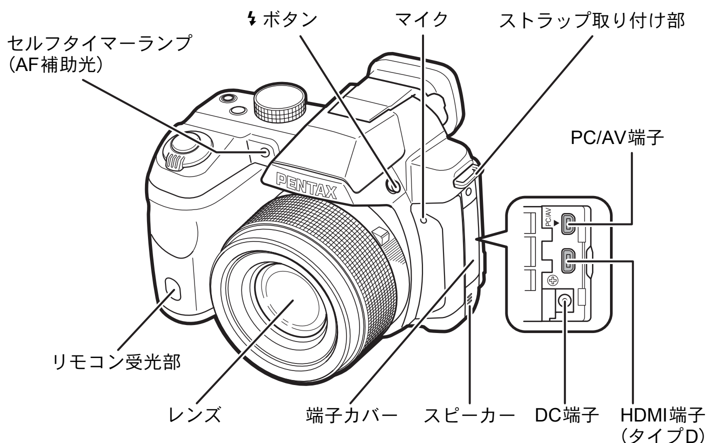
簡単ガイド



（※）の製品は、別売アクセサリーとしてもご用意しております。

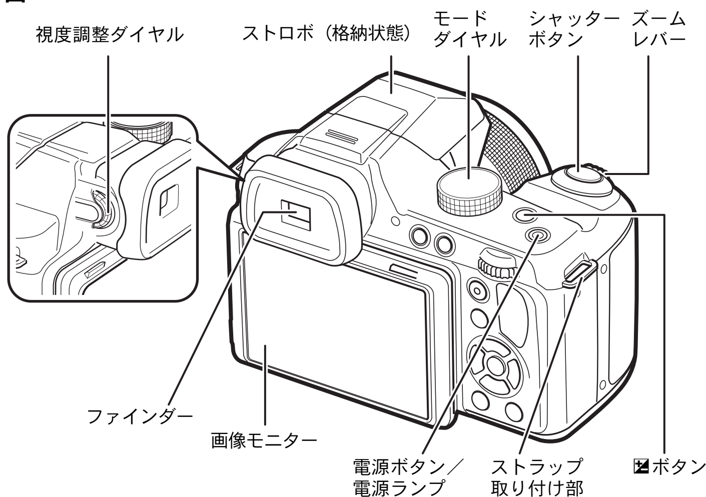
各部の名称

前面



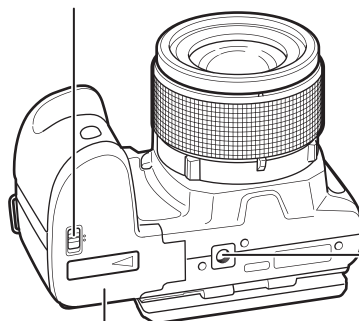
ボタン
マイク
ストラップ取り付け部
セルフタイマーランプ
（AF補助光）
PENTAX
PC/AV端子
PC/AV
リモコン受光部
レンズ
端子カバー
スピーカー
DC端子
HDMI端子
（タイプD）

背面

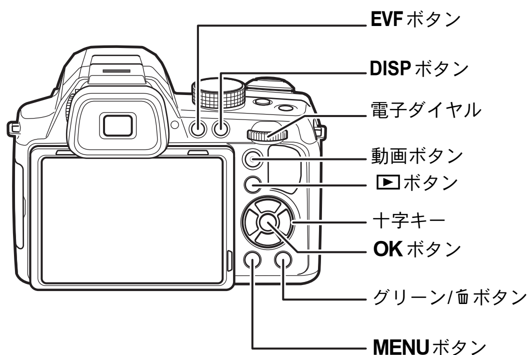


視度調整ダイヤル
ストロボ（格納状態）
モード
ダイヤル
シャッター
ボタン
ズーム
レバー
ファインダー
画像モニター
電源ボタン／
電源ランプ
ストラップ
取り付け部
ボタン

底面



操作部の名称



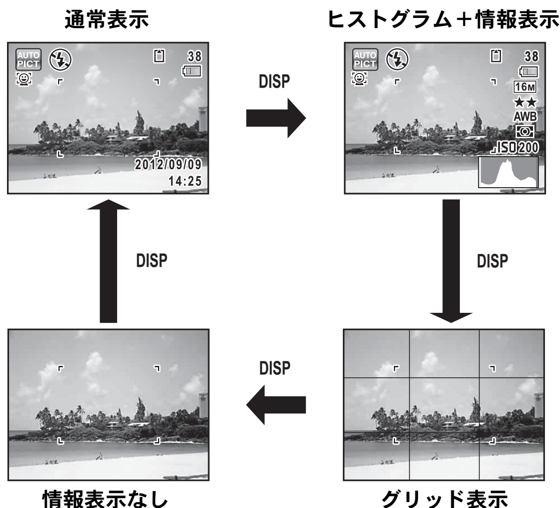


各ボタンの機能は、「ボタンの機能を使用する」（p.42～p.46）をご覧ください。

画像モニターの表示

📷モードの表示

撮影時には、撮影条件などが表示されます。**DISP** ボタンを押すと、画像モニターの表示が「通常表示」「ヒストグラム＋情報表示」「グリッド表示」「情報表示なし」に切り替わります。





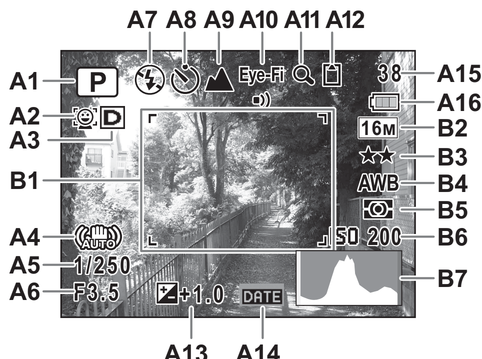
- 撮影モードが ●（グリーン）モードのときは、右のように表示されます。**DISP** ボタンを押して表示を切り替えることはできません。
- ファインダーを使用して撮影するには、**EVF** ボタンを押して画像モニター表示からファインダー表示に切り替えてください。もう一度押すと画像モニター表示に戻ります。



静止画撮影モード

（説明のためにすべてを表示させたイラストで記載しています。）

「通常表示」ではA1～A16・B1が表示されます。「ヒストグラム＋情報表示」ではすべてが表示されます。「情報表示なし」ではB1のみ表示されます。



A1 撮影モード（p.65）
A2 顔検出モード（p.59）
A3 D-Range設定アイコン（p.94）
A4 手ぶれ補正アイコン（p.95）
A5 シャッタースピード
A6 絞り値
A7 ストロボモード（p.79）
A8 ドライブモード（p.81）
A9 フォーカスモード（p.83）
A10 Eye-Fi通信状態（p.167）
A11 デジタルズーム／インテリジェントズーム表示（p.61）
A12 メモリー状態表示（p.34）
A13 露出補正値（p.64）
A14 日付写し込み設定中（p.99）
A15 撮影可能枚数
A16 電池残量表示（p.30）
B1 フォーカスフレーム（p.56）
B2 記録サイズ（p.88）
B3 画質（p.89）
B4 ホワイトバランス（p.90）
B5 測光方式（p.91）
B6 感度（p.92）
B7 ヒストグラム（p.25）

※ A2の表示は、「 撮影」メニューの「顔検出」の設定によって変わります。

（顔検出アイコン）	「顔検出」が「オン」に設定されているとき
（スマイルアイコン）	「顔検出」が「スマイル」に設定されているとき

「オフ」に設定されているときは何も表示されません。

※ A3の表示は、「撮影」メニューの「D-Range設定」の設定によって変わります。

◧H	「ハイライト補正」が☑（オン）に設定されているとき
◧S	「シャドー補正」が☑（オン）に設定されているとき
D	「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が☑（オン）に設定されているとき

「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が□（オフ）に設定されているときは何も表示されません。

※ A4は、「撮影」メニューの「Shake Reduction」が「センサーシフト」または「デュアル」に設定されているときに、シャッターボタンを半押しすると(AUTO)が表示されます。「Shake Reduction」が「オフ」に設定されているときは、が表示されます。

※ A5、A6は、撮影モードがM／USER（撮影モードMで登録されている場合）のときは、常時表示されます。それ以外の撮影モードでは、シャッターボタンを半押ししたときのみ表示されます。

※ A10の表示は、無線LAN機能内蔵SDメモリーカード（Eye-Fiカード）を使用しているときの通信状態によって変わります。

（表示なし）	Eye-Fi非対応
Eye-Fi ■))	通信中
Eye-Fi ●▪▪	通信待機中
Eye-Fi ⊘	Eye-Fi通信禁止
Eye-Fi ⚠	バージョンエラー

※ 撮影モードが AUTO PICT（オートピクチャー）のときは「グリッド表示」、「情報表示なし」でも、シャッターボタンを半押しすると、A1の位置に選択されたモードが表示されます（p.56）。

※「通常表示」ではB7の位置に現在の日時（p.20）が表示されます。

※「通常表示」では、B7の位置にワールドタイム設定中の✈が表示されます。

※ 撮影モードによっては表示されない情報もあります。

▶モードの表示

再生時には、撮影したときの画像の情報が表示されます。**DISP** ボタンを押すと、表示が切り替わります。

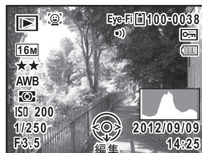
通常表示







ヒストグラム＋情報表示





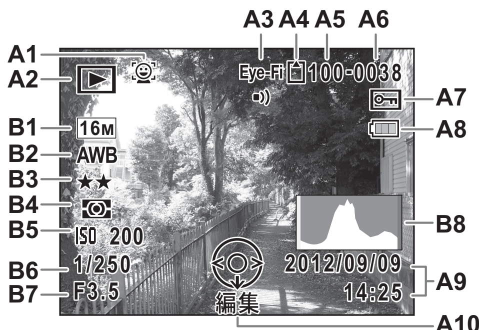
情報表示なし



再生モード

（説明のためにすべてを表示させたイラストで記載しています。）

撮影条件などを表示します。A1～A10は「通常表示」「ヒストグラム＋情報表示」のいずれの場合も表示されます。B1～B8は「ヒストグラム＋情報表示」のときにのみ表示されます。



A1 顔検出アイコン（p.59）
A2 再生モード表示
　：静止画（p.112）
　：早送り動画（p.107）
　：動画（p.113）
　：ハイスピードカメラ（p.107）
A3 Eye-Fi通信状態（p.167）
A4 メモリー状態表示（p.34）
A5 フォルダー番号（p.162）
A6 ファイル番号
A7 画像プロテクト表示（p.124）
A8 電池残量表示（p.30）
A9 撮影日時（p.39）
A10 十字キーガイド表示
B1 記録サイズ（p.88）
B2 ホワイトバランス（p.90）
B3 画質（p.89）
B4 測光方式（p.91）
B5 感度（p.92）
B6 シャッタースピード
B7 絞り値
B8 ヒストグラム（p.25）

※ A1は、撮影時に顔検出した場合のみ表示されます
※ A8、A9は、通常表示時に2秒間何もボタン操作をしないと消えます。
※ A10は「情報表示なし」時でも表示されますが、2秒間何もボタン操作をしないと消えます。また「通常表示」「ヒストグラム+情報表示」時に2秒間何もボタン操作をしないと、「編集」の文字のみ消えます。

ガイド表示

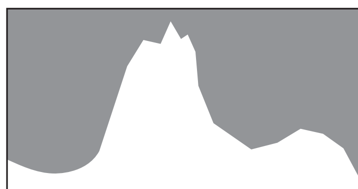
操作中は、画像モニターにボタン操作のガイドが次のように表示されます。

▲	十字キー（▲）
▼	十字キー（▼）
◀	十字キー（◀）
▶	十字キー（▶）
MENU	**MENU** ボタン

Q ／ ⊞	電子ダイヤル
OK	**OK** ボタン
SHUTTER	シャッターボタン
◉ ／ 🗑	グリーン/🗑ボタン
DISP	**DISP** ボタン

ヒストグラム

ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表したグラフです。横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさごとの画素数を示します。
撮影の前後にヒストグラムの形状を見ることで、画像の明るさと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断に利用できます。

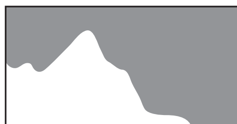


露出を補正する ☞p.64

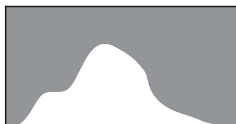
画像の明るさを見る

画像の明るさが適正な画像では、グラフの山は中央にあります。しかし、暗い画像ではグラフの山は左側に偏り、明るい画像では右側に偏ります。

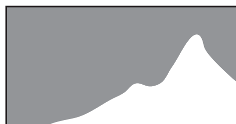
暗い画像



適正な明るさの画像



明るい画像



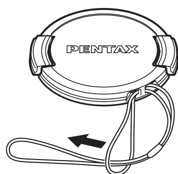
また、画像の中で、暗過ぎてヒストグラムの左端よりも左になる部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明る過ぎてヒストグラムの右端よりも右になる部分は真っ白になってしまいます（白とび）。

明暗差のバランスを見る
明暗差のバランスが取れた画像では、グラフの中央部がなだらかな山のピークになります。しかし、明暗差が激しく、中間的な明るさの部分が少ない画像では、左右に山のピークがあり、中央部分がくぼんだグラフになります。

レンズキャップとストラップを取り付ける

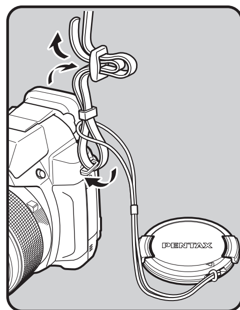
付属のレンズキャップとストラップを取り付けます。

1 レンズキャップに付属のひもを取り付ける

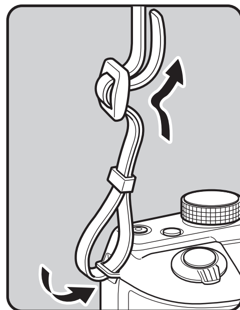


2 ストラップの先端をカメラの吊り金具に通し、留め具の内側に固定する

レンズキャップのひもを図のように通しておくと紛失防止になります。



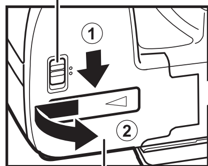
3 もう一方も同様に取り付ける



電源を準備する

電池の入れ方

カメラに電池をセットします。電池は単3形アルカリ電池、単3形リチウム電池、単3形ニッケル水素電池のいずれかを4本使用します。



1 電池／カードカバーを開ける

① 電池／カードカバーロックレバーを矢印の方向にスライドさせてロックを解除します。
② 電池／カードカバーを矢印の方向にスライドさせて、カバーを開きます。

2 電池室内の＋－表示に合わせて、電池を挿入する

注意 電池は必ず向きを確認してください。逆向きに挿入するとカメラの電源が入らないだけでなく、故障の原因にもなります。

3 電池／カードカバーを閉じる

電池／カードカバー全体を両手でしっかり押さえながら、②と反対方向に、カチッと音がするまでスライドさせます。

電池／カードカバーを閉じたら、電池／カードカバーロックレバーを①と反対方向にスライドさせて、ロックします。

電池を取り出すときは、「電池の入れ方」（p.28）の手順1と同じ方法で電池／カードカバーを開け、電池を取り出してください。

注意

- 単3形アルカリ電池、単3形リチウム電池は充電式ではありません。
- 電源ボタンがオンのときは、電池／カードカバーを開けたり、電池を取り出したりしないでください。
- 長い間使わないときは、電池を取り出しておいてください。長期間入れたままにしておくと、電池が液もれすることがあります。
- カメラの購入直後や、電池を取り出して長期間経過してから電池を入れた直後に、電源ボタンを押すと「電池容量がなくなりました」のメッセージが表示されることがありますが、異常ではありません。しばらく待ってから再度電源ボタンを押すと、正常に電源が入ります。また、このとき、日時の設定がリセットされることがあります。
- 電池は正しく入れてください。間違った向きに入れると、故障の原因になります。また、電池の電極をよく拭いてから装填してください。
- カメラを長時間連続で使用した場合、本体や電池が熱くなっていることがありますので、ご注意ください。



- 長時間連続してご使用になるときは、ACアダプターキットK-AC129（別売）をご使用ください（p.30）。

• 静止画撮影可能枚数と動画撮影・再生時間の目安
（単3形アルカリ電池使用時・23℃・画像モニター点灯・電池交換時）

静止画撮影可能枚数※1（ストロボ使用率50％）	動画撮影時間※2	再生時間※2
約330枚	約75分	約420分

※1　撮影可能枚数は CIPA 規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。（CIPA規格抜粋：画像モニターON、ストロボ使用率50％、23℃）

※2　時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。



- 使用環境温度が下がると、電池の性能が低下します。寒冷地で使用する場合は、予備の電池を用意して衣服の中で保温するなどしてご使用ください。なお、低温によって低下した電池の性能は、常温の環境で元に戻ります。
- 単3形アルカリ電池は特性上、低温ではカメラの性能を十分に発揮できないことがあります。低温でご使用の際は、単3形リチウム電池や単3形ニッケル水素電池の使用をお勧めします。
- 海外旅行などの長期のおでかけ、寒冷地で撮影する場合や、大量に撮影する場合は、予備電池をご用意ください。

- **電池の残量表示**

画像モニターの表示で、電池の残量が確認できます。

画像モニターの表示	電池の状態
（緑）	電池がまだ十分に残っています。
（緑）	少し減っています。
（黄）	だいぶ減っています。
（赤）	残量がほとんどありません。
「電池容量がなくなりました」	メッセージ表示後、電源が切れます。

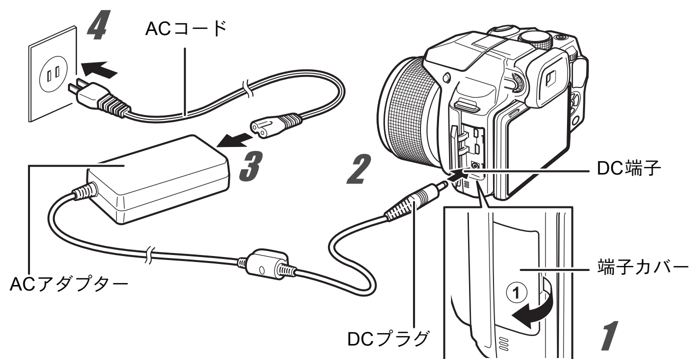
注意

単3形ニッケルマンガン電池は、電池特性の関係で電池残量が正しく表示されないことがあります。残量が少なくなった電池であっても、電池残量表示が になる場合があります。また、表示が のまま、警告なく電源がオフになることがあります。

ご家庭の電源で使うには

長時間ご使用になるときや、パソコンと接続するときは、ACアダプターキットK-AC129（※）（別売）を接続して、家庭用電源でのご使用をおすすめします。

※ ACアダプターキットK-AC129は、ACアダプターD-AC115、ACコードD-CO2のセットです。



1 カメラの電源が切れていることを確認してから、端子カバーを開ける

端子カバーを①の方向に引き出します。

2 ACアダプターのDCプラグをカメラのDC端子に接続する

3 ACコードをACアダプターに接続する

4 電源プラグをコンセントに差し込む

注意

- **AC アダプターの接続／取り外しは、必ず電源がオフの状態で行ってください。**
- **DCプラグはしっかりと差し込んでください。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーにデータを記録中ケーブルが外れると、データが破壊されることがあります。**
- **ACアダプターを使用する場合は、火災や感電に十分ご注意ください。ご使用の前に、必ず「ご注意ください」(p.1)、「ACアダプターについて」(p.2) をお読みください。**
- **ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキットK-AC129の使用説明書をあわせてご覧ください。**

SDメモリーカードをセットする

このカメラでは、市販のSDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードが使用できます。撮影した画像は、カメラにセットしたSDメモリーカードに記録されます。SDメモリーカードをセットしていないときは、内蔵メモリーに記録されます（p.34）。

注意

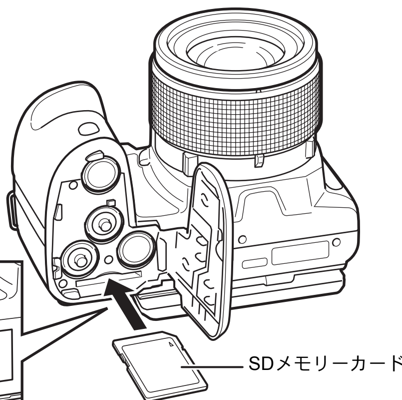
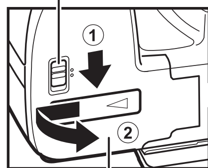
- **未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットについては「フォーマットする」（p.154）をご覧ください。**
- 新しいEye-Fiカードをはじめて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内のEye-Fi Managerのインストールファイルをパソコンにコピーしてからフォーマットしてください。
- SDメモリーカードのセット／取り出しは、必ずカメラの電源を切った状態で行ってください。

メモ

- 撮影できる静止画の枚数や動画の記録時間は、使用するSDメモリーカードの容量と画像の記録サイズや画質、フレームレート（動画の場合）によって異なります。
  - 静止画の記録サイズの設定は、「撮影」メニューで行います。詳しくは「記録サイズを選択する」（p.88）をご覧ください。
  - 動画の記録サイズとフレームレートの設定は「動画」メニューで行います。詳しくは「動画の記録サイズとフレームレートを選択する」（p.108）をご覧ください。
  - SDメモリーカードや内蔵メモリーに記録できる撮影可能枚数／時間の目安については、「主な仕様」（p.203）をご覧ください。
- SDメモリーカードにアクセス中（データの記録や読み出し中）は、電源ランプが点滅します。

データバックアップのお勧め

SDメモリーカードや内蔵メモリーに記録されたデータは、故障などの原因でまれに読み出しができなくなることがあります。大切なデータは、パソコンなどを利用して内蔵メモリーとは別の場所に保存しておくことをお勧めします。

1 カメラの電源が切れていることを確認してから、電池／カードカバーを開ける

① 電池／カードカバーロックレバーを矢印の方向にスライドさせてロックを解除します。
② 電池／カードカバーを矢印の方向にスライドさせて、カバーを開きます。

2 SD メモリーカードのラベル面をカメラのレンズ側に向け、カメラのSDメモリーカードソケットに挿入する

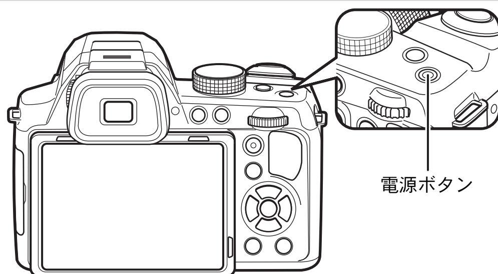
カードはカチッと音がするまでしっかり押し込んでください。カードがしっかり入っていないと、データが正常に記録されないことがあります。
取り出すときは、SDメモリーカードを押し込み、SDメモリーカードが少し飛び出したら、引き抜きます。

3 電池／カードカバーを閉じる

電池／カードカバー全体を両手でしっかり押さえながら、②と反対方向に、カチッと音がするまでスライドさせます。

電池／カードカバーを閉じたら、電池／カードカバーロックレバーを①と反対方向にスライドさせて、ロックします。

電源をON／OFFする



1 レンズキャップを外す

2 電源ボタンを押す

電源が入り、画像モニターが点灯します。
電源を入れると、レンズが前に繰り出します（初期設定を行っていない場合は繰り出しません）。
カメラの電源を入れたときに、「言語設定」あるいは「日時設定」の画面が表示された場合は、p.36の手順に従って設定してください。

3 もう一度電源ボタンを押す

電源が切れ、画像モニターが消灯してレンズが収納されます。

静止画を撮影する ☞p.54

カードチェック

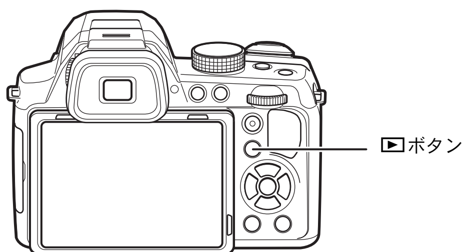
電源を入れると、カードチェックが行われ、メモリーの状態が表示されます。



[SDカードアイコン]	SDメモリーカードがセットされています。画像は、SDメモリーカードに記録されます。
[内蔵メモリーアイコン]	SDメモリーカードがセットされていません。画像は、内蔵メモリーに記録されます。
[ロックアイコン]	SDメモリーカードのライトプロテクトスイッチがLOCKになっています（p.6）。画像の記録はできません。

再生起動モード

再生起動モードは、撮影をしないで、すぐに画像を再生したいときに使用します。



1 ▶ボタンを長押しする

レンズは収納されたまま画像モニターが点灯し、再生モードで起動します。



- 再生モードで起動後に📷モードへ切り替えるときは、必ずレンズキャップを外して、▶ボタンを押すかシャッターボタンを半押ししてください。
- 再生起動モードをオフにしたいときは「🔧設定」メニューの「再生起動」を□（オフ）に設定します（p.173）。

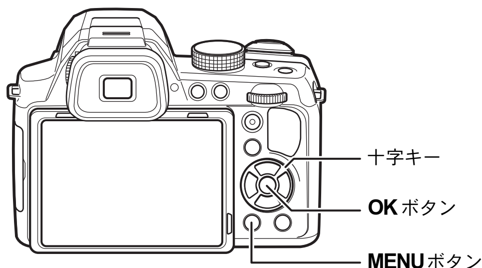
静止画を再生する ☞p.112

初期設定をする

カメラの電源を入れて（p.34）「Language/言語」画面が表示されたら、下記の「言語を設定する」の手順で言語を「日本語」に、「日時を設定する」（p.39）の手順で現在の日時を設定してください。

設定した言語と日時はあとから変更することもできます。操作方法は下記のページをご覧ください。
- 言語を変更したいとき：「表示言語を変更する」（☞p.161）
- 日時を変更したいとき：「日時を変更する」（☞p.156）

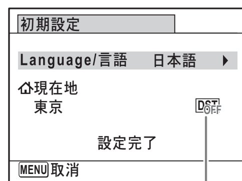
言語を設定する



1 十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ

2 OK ボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。「現在地」が「東京」、「夏時間」が DST OFF に設定されていたら、手順9に進みます。
それ以外の設定になっていたら、手順3に進んでください。



もし誤って日本語以外の言語を選んで次に進んでしまったら、あわてず下記の操作で、日本語の表示に設定し直してください。

●「Language/言語」画面で、日本語以外の言語を選んでOKボタンを押してしまった！

1　十字キー(▶)を押す

2　十字キー(▲▼◀▶)で「日本語」を選んで、OKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。

● 手順2で言語設定を間違えたまま次の画面を表示させてしまった！

1　MENUボタンを押す

設定画面を終了させて、いったん撮影できる状態にします。

2　MENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

3　十字キー（▶）を2回押す

「設定」メニューが表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「Language/言語」を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

「Language/言語」画面が表示されます。

6　十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ

7　OKボタンを押す

日本語の「設定」メニューが表示されます。

現在地と日時を設定し直す必要がある場合は、下記のページを参照してください。

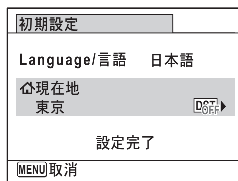
- 現在地を変更したいとき：「ワールドタイムを設定する」（☞p.158）
- 日時を変更したいとき：「日時を変更する」（☞p.156）

3 十字キー（▼）を押す

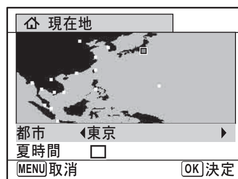
選択枠が「⌂現在地」に移動します。

4 十字キー（▶）を押す

「⌂現在地」画面が表示されます。



5 十字キー（◀▶）で「東京」を選ぶ



6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「夏時間」に移動します。

7 十字キー（◀▶）で□（オフ）に設定する

8 OK ボタンを押す

「初期設定」画面に戻ります。

9 十字キー（▼）で「設定完了」を選ぶ

10 OK ボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。引き続き、日付と時刻を設定します。

初期設定で「現在地」を変更すると、ビデオ出力方式（NTSC／PAL）が選んだ都市の方式に自動的に設定されます。設定されるビデオ出力方式と、初期設定後の変更のしかたについては下記のページを参照してください。

- 初期設定で設定されるビデオ出力方式：「都市名一覧」（☞p.202）
- ビデオ出力方式を変更したいとき：「ビデオ出力方式を選択する」(☞p.166)

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付・時刻を設定します。

1　十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。

2　十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを選ぶ

「年/月/日」／「月/日/年」／「日/月/年」から選択します。

日時設定	
表示スタイル	年/月/日 24h
日付	2012/01/01
時刻	00:00
設定完了	
MENU 取消	

3　十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

4　十字キー（▲▼）で「24h」（24 時間表示）／「12h」（12 時間表示）を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

6　十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

7　十字キー（▶）を押す

選択枠が西暦年に移動します。

8　十字キー（▲▼）で西暦年を設定する

同様に月／日を設定します。
続いて時刻を設定します。
手順4で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

9　十字キー（▶）を押してから、十字キー（▼）で「設定完了」を選ぶ

10 OKボタンを押す

日時が確定します。



手順10でOKボタンを押すと、0秒にセットされます。時報に合わせてOKボタンを押すと、秒単位まで正確に日時が設定できます。



初期設定の途中でMENUボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされて、撮影できる状態になります。この場合は、次回電源を入れたときに再度、初期設定を行う画面が表示されます。

設定した言語／日時／現在地／夏時間はあとから変更することができます。操作方法は下記のページを参照してください。

- 言語を変更したいとき：「表示言語を変更する」（☞p.161）
- 日時を変更したいとき：「日時を変更する」（☞p.156）
- 現在地、夏時間のオン／オフを変更したいとき：「ワールドタイムを設定する」（☞p.158）

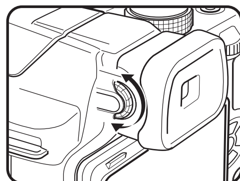
ファインダーの視度を調整する

撮影者の視力に合わせて、ファインダーの視度を調整することができます。
ファインダー内の表示が見づらいときは、視度調整ダイヤルを上下に回して、見やすい位置に調整してください。

1 EVFボタンを押してファインダー表示に切り替える

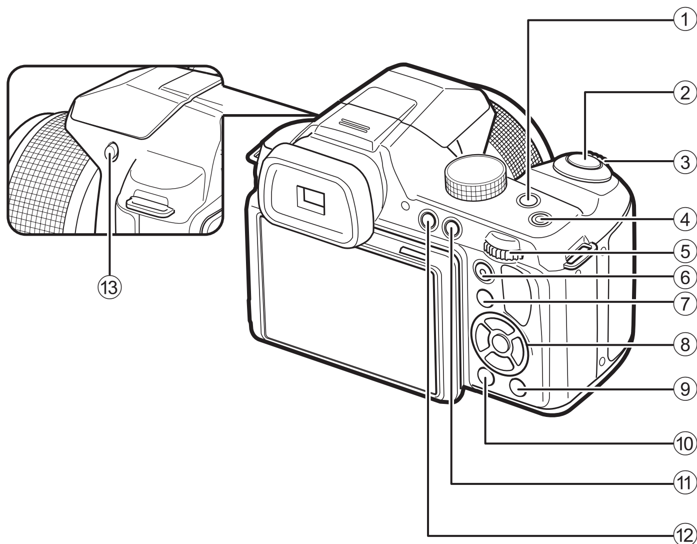
2 ファインダーをのぞきながら視度調整ダイヤルを上下に回す

ファインダー内の表示がはっきり見える位置に調整します。
白い壁などの明るくて色ムラのない方へカメラを向けると調整しやすくなります。



ボタンの機能を使用する

📷モード時



① **☒ボタン**
露出補正を行うときに押します（p.64）。
M（マニュアル）モードでは、シャッター速度調整／絞り値調整を切り替えます（p.75）。

② **シャッターボタン**
静止画撮影モードでは、半押しするとピント合わせを行います（フォーカスモードが、▲（無限遠）／**MF**のときを除く）。全押しすると、静止画を撮影します（p.57）。
動画モードでは、動画の撮影を開始／終了します（p.105）。

③ **ズームレバー**
撮影する範囲を変えます（p.61）。

④ **電源ボタン**

電源を切ります（p.34）。

⑤ **電子ダイヤル**

露出補正値／シャッター速度／絞り値を変更します。

⑥ **動画ボタン**

モードダイヤルが 以外に設定されているときに押すと、動画の撮影が始まります（p.106）。

⑦ **ボタン**

モードに切り替えます（p.46）。

⑧ **十字キー**

▲ ドライブモードを切り替えます（p.81）。
▼ モードダイヤルがSCNに設定されているときは、撮影モードパレットを表示します（p.67）。
モードダイヤルが に設定されているときは、動画モードパレットが表示されます（p.104）。
◀ ストロボモードを切り替えます（p.79）。
▶ フォーカスモードを切り替えます（p.83）。
▲▼ フォーカスモードがMFのときにピントを調整します（p.83）。

⑨ **グリーンボタン**

（グリーン）モードに移行します（p.60）。
Fn設定をしているときは、特定の機能をすばやく呼び出します（p.100）。

⑩ **MENUボタン**

静止画撮影モードのときは、「撮影」メニューを表示します（p.47）。
動画モードのときは、「動画」メニューを表示します（p.47）。

⑪ **DISPボタン**

画像モニターに表示される情報を切り替えます（p.20）。

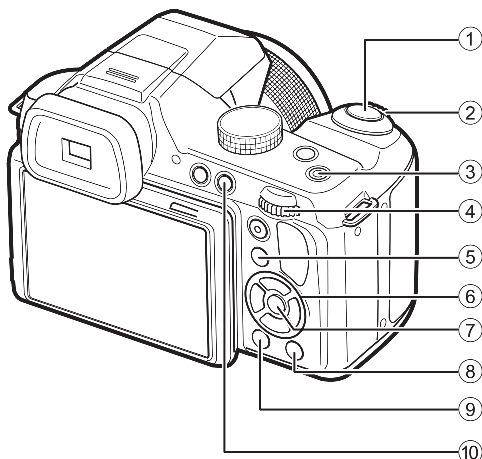
⑫ **EVFボタン**

ファインダー表示と画像モニター表示を切り替えます。

⑬ **（ストロボ）ボタン**

ストロボをポップアップします。

▶モード時



① **シャッターボタン**

📷モードに切り替えます（p.46）。

② **ズームレバー**

1画面表示時に右（**T**）に回すたび、画像が拡大表示されます（1.1～10倍）。左（**W**）に回すと前の表示に戻ります（p.61）。

③ **電源ボタン**

電源を切ります（p.34）。

④ **電子ダイヤル**

- 1画面表示時に右（🔍）に回すと画像が拡大表示（1.1～10倍）されます。左（▦）に回すと前の表示に戻ります（p.120）。
- 1画面表示時に左（▦）に回すと4画面表示になります。もう一度左に回すと9画面表示になります。右（🔍）に回すと前の表示に戻ります（p.114）。
- 9画面表示時に左（▦）に回すと、フォルダー表示またはカレンダー表示になります（p.115）。

- フォルダー表示／カレンダー表示時に右（Q）に回すと、9画面表示に戻ります（p.115）。
  動画再生中は、音量を調節します（p.113）。

⑤ ▶ボタン

📷モードに切り替えます（p.46）。

⑥ 十字キー

▲ 動画を再生／一時停止します（p.113）。

▼ 再生モードパレットを表示します（p.116）。
再生中の動画を停止します（p.114）。

◀▶ 1画面表示時は、前後の画像を表示します（p.112）。
動画再生時は、早送り／早戻し／コマ送り／コマ戻しします（p.113）。

▲▼◀▶ 4 画面表示／ 9 画面表示時は画像、フォルダー表示時はフォルダー、カレンダー表示時は日付を選択します（p.115）。
拡大表示時は、表示範囲を移動します（p.120）。
フレーム合成時は、画像の位置を調整します（p.143）。

⑦ OKボタン

4画面表示／9画面表示／拡大表示時は、1画面表示に戻ります（p.114, 120）。
フォルダー表示時は、選択フォルダーの9画面表示に変わります（p.115）。
カレンダー表示時は、選択日付の1画面表示に変わります（p.115）。

⑧ グリーン/🗑（消去）ボタン

- 1画面表示時は、消去画面に移行します（p.122）。
- 4画面表示／9画面表示時は、選択消去画面に移行します（p.122）。
- フォルダー表示時は、カレンダー表示画面に移行します（p.115）。
- カレンダー表示時は、フォルダー表示画面に移行します（p.115）。

⑨ MENUボタン

- 1画面表示時は、「🔧設定」メニューを表示します（p.47）。
  再生モードパレット表示時は、1画面表示に戻ります。
- 4画面表示／9画面表示／拡大表示時は、1画面表示に戻ります。
- カレンダー／フォルダー表示時は、最新撮影画像にカーソルを合わせた9画面表示に変わります。

⑩　**DISPボタン**
画像モニターに表示される情報を切り替えます（p.23）。

📷モードと▶モードの切り替え

本書では、静止画の撮影など記録を行うモードを「📷モード」（撮影モード）と表記します。また、撮影して記録した画像を画像モニターに表示するなど再生を行うモードを「▶モード」（再生モード）と表記します。▶モードでは、撮影した画像に簡単な画像処理を加えることもできます。
📷モードと▶モードの切り替えは、次のように行います。

📷モードから▶モードへ切り替える

1　▶ボタンを押す
▶モードに切り替わります。

▶モードから📷モードへ切り替える

1　▶ボタンを押す、またはシャッターボタンを押す
📷モードに切り替わります。

内蔵メモリー内のデータの表示について
SDメモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカード内の画像／動画が表示されます。
内蔵メモリー内の画像／動画を表示する場合は、カメラの電源を切り、SDメモリーカードを取り出してから操作してください。

注意　SDメモリーカードは、必ずカメラの電源が切れた状態で取り出してください。

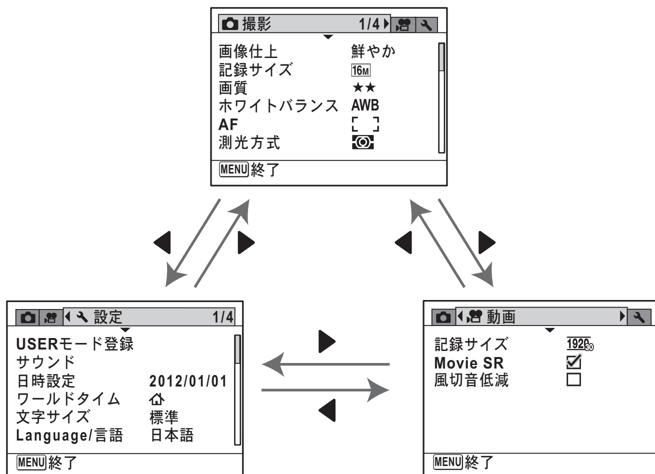
カメラの機能を設定する

カメラの設定を変更するときは、**MENU** ボタンを押して、メニューを呼び出します。画像の再生／編集に関する機能は、再生モードパレットから呼び出します（p.116）。

メニューの操作のしかた

メニューは、「撮影」／「動画」／「設定」の3種類があります。静止画撮影モードで **MENU** ボタンを押すと、「撮影」メニューが表示されます。動画モードで **MENU** ボタンを押すと、「動画」メニューが表示されます。モードで **MENU** ボタンを押すと、「設定」メニューが表示されます。

各メニューは、十字キー（◀▶）または電子ダイヤルで切り替えます。





メニュー操作中は、使用するボタンやキーの機能が画像モニターに表示されます（p.25）。

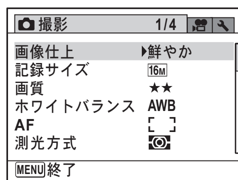
例）「📷撮影」メニューの「画質」を設定する

1 静止画撮影モードで**MENU**ボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▼）を押す

選択枠が「画像仕上」に移動します。

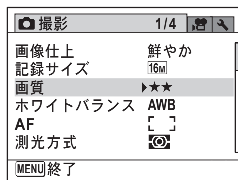


3 十字キー（▼）を2回押す

選択枠が「画質」に移動します。

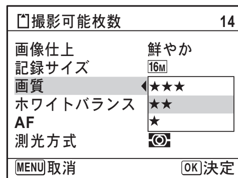
4 十字キー（▶）を押す

選べる内容がポップアップで表示されます。
ポップアップには、現在のカメラの条件で選択できる設定が表示されます。



5 十字キー（▲▼）で設定を切り替える

十字キー（▲▼）を押すたびに、画質が切り替わります。



6 OKボタンまたは十字キー（◀）を押す

設定が保存され、他の項目が設定できる状態になります。
設定を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

その他の操作をする場合は、手順6で次ページの操作をしてください。

設定を保存して撮影をしたいとき

6 シャッターボタンを半押しする

設定が保存され、撮影できる状態になります。
全押しすると、写真が撮影されます。



▶モードから「🔧設定」メニューを表示した場合は、▶ボタンを押して📷モードに移行することもできます。

設定を保存して再生をしたいとき

6 ▶ボタンを押す

静止画撮影モードから「📷撮影」メニューを表示した場合は、設定が保存され、再生できる状態になります。

変更を取り消してメニュー操作を続けたいとき

6 MENUボタンを押す

変更が取り消され、手順3に戻ります。



MENUボタンの機能は、画面の状態によって異なります。ガイド表示を参照してください。

MENU 終了	メニュー操作を終了し、元の画面に戻ります。
MENU ↩	現在の設定のまま、ひとつ前の画面に戻ります。
MENU 取消	現在の選択を保存しないでメニュー操作を終了し、ひとつ前の画面に戻ります。

メニュー一覧

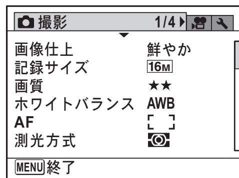
メニュー画面で設定できる項目とその内容を示します。カメラの電源を切ったときに設定を記憶するかどうか、リセットしたときに初期設定に戻るかどうかは、付録の「初期設定一覧」(p.197) をご覧ください。

「撮影」メニュー

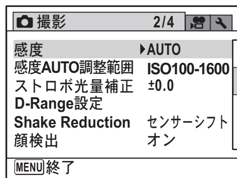
項目		内容	参照
画像仕上		静止画の仕上がりイメージを設定します。	p.87
記録サイズ		静止画の記録サイズを選びます。	p.88
画質		静止画の画質を設定します。	p.89
ホワイトバランス		撮影時の光の状態に合わせて色を調整します。	p.90
AF	AFエリア	オートフォーカスの対象となる範囲を設定します。	p.86
	オートマクロ	必要に応じてマクロ域までのピント調整を行います。	p.86
	AF補助光	被写体が暗くてオートフォーカスが正確に作動しないときにAF補助光を発光します。	p.87
測光方式		どの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。	p.91
感度		感度を設定します。	p.92
感度AUTO調整範囲		感度がAUTOのときの調整範囲を設定します。	p.93
ストロボ光量補正		ストロボの光量を調整します。	p.94
D-Range設定	ハイライト補正	明るすぎる部分を補正し、白とびを防ぎます。	p.94
	シャドー補正	暗すぎる部分を補正し、黒つぶれを防ぎます。	
Shake Reduction		静止画撮影時の手ぶれ補正を行うかどうかを設定します。	p.95
顔検出		人物の顔を検出してピントや露出を合わせます。	p.95
まばたき検出		顔検出したときに、まばたき検出を行うかどうか設定します。	p.97
デジタルズーム		デジタルズームを使うかどうかを設定します。	p.63
クイックビュー		クイックビューを表示するかどうかを設定します。	p.97
モードメモリ		電源を切ったときに撮影機能の設定値を保存するか、初期設定に戻すかを設定します。	p.110
グリーンボタン		モード時にグリーンボタンで呼び出す機能を設定します。	p.100
シャープネス		画像の境界をシャープまたはソフトにします。	p.98
彩度（調色）		色の鮮やかさを設定します。画像仕上で「モノトーン」が選択されていると、項目が「調色」になります。	p.98

項目	内容	参照
コントラスト	画像の明暗差の度合いを設定します。	p.98
日付写し込み	静止画撮影時に日付と時刻の写し込みをするかどうかを設定します。	p.99
超解像	超解像処理を行うかどうかを設定します。	p.99

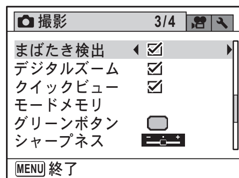
●「撮影」メニュー 1



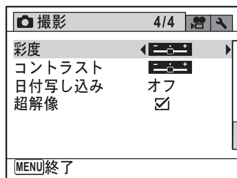
●「撮影」メニュー 2



●「撮影」メニュー 3



●「撮影」メニュー 4





- 「撮影」メニューの設定に関係なく、標準設定で手軽に撮影を楽しみたいときは、(グリーン)モードを利用してください(p.60)。
- よく使う機能は、グリーンボタンに登録しておくと、すばやく呼び出せます(p.100)。

「🎥動画」メニュー

項目	内容	参照
記録サイズ	動画の記録サイズを設定します。	p.108
Movie SR	手ぶれ補正を行うかどうかを設定します。	p.109
風切音低減	風の音を低減して録音します。	p.109



「🔧設定」メニュー

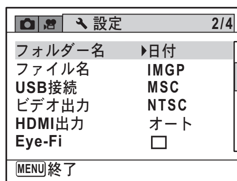
項目	内容	参照
USERモード登録	現在のカメラの設定をモードダイヤルのUSERに登録します。	p.77
サウンド	操作音量・再生音量・起動音・シャッター音・操作音・セルフタイマー音を設定します。	p.155
日時設定	日付と時刻を設定します。	p.156
ワールドタイム	現在地と目的地を設定します。	p.158
文字サイズ	メニューの文字サイズを設定します。	p.160
Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を設定します。	p.161
フォルダー名	画像を保存するフォルダーの命名方法を設定します。	p.162
ファイル名	画像ファイルの命名方法を設定します。	p.164
USB接続	パソコンへの接続方法（MSC／PTP）を設定します。	p.175
ビデオ出力	AV機器へのビデオ出力形式を設定します。	p.166
HDMI出力	HDMI端子を備えたAV機器と接続するときに設定します。	p.166
Eye-Fi	無線LAN機能内蔵SDメモリーカード（Eye-Fiカード）を使用して、画像の転送を開始するときに設定します。	p.167
LCDの明るさ	画像モニターの明るさを設定します。	p.168
エコモード	節電モードになるまでの時間を設定します。	p.168
オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	p.169
クイック拡大	画像の再生時に「クイック拡大」（p.121）を使うか使わないかを設定します。	p.170

項目	内容	参照
ガイド表示	撮影モードパレットや動画モードパレット、再生モードパレット表示時に、選択項目の説明を表示するかしないかを設定します。	p.170
バッテリー選択	使用する単3形電池の種類を設定します。	p.170
リセット	日時設定・言語・ワールドタイム・ビデオ出力以外の設定内容を工場出荷時の状態に戻します。	p.173
全画像消去	保存されているすべての画像を消去します。	p.124
ピクセルマッピング	撮像素子の画素に欠けがあった場合に、その部分を補完します。	p.172
再生起動	▶ボタンを長押しして起動を行うかどうかを設定します。	p.173
フォーマット	SDメモリーカード／内蔵メモリーをフォーマットします。	p.154

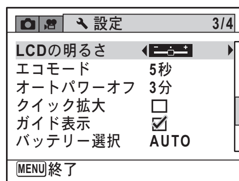
●「設定」メニュー 1



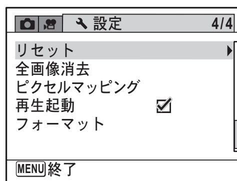
●「設定」メニュー 2



●「設定」メニュー 3



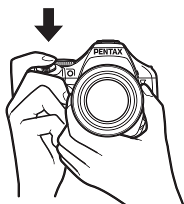
●「設定」メニュー 4



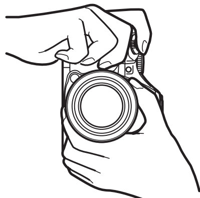
静止画を撮影する

カメラの構え方

撮影するときは、カメラの構え方が大切です。
- カメラを両手でしっかりと持ちます。
- シャッターボタンは指の腹で静かに押します。



横位置


縦位置



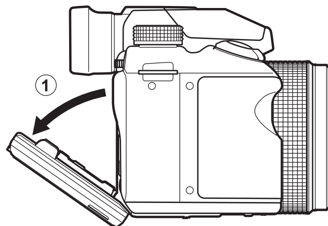
木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させると手ぶれを防ぐ効果があります。

画像モニターの位置を調節する

画像モニターは、下向きに約60度、上向きに約90度まで動かせます。低い位置での撮影や、頭上での撮影などが楽に行えます。

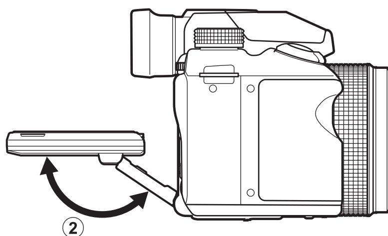


- 画像モニターを動かすときは、無理な力をかけないようご注意ください。
- 画像モニターは、左右方向には動かせません。
- 通常は画像モニターを元の位置に戻してお使いください。



① 画像モニターの上部を矢印の方向に引き出します。

3 撮影



標準的な撮影のしかた

このカメラには、撮影者の意図に的確に応じる様々な撮影モードやフォーカスモード、ドライブモードが備わっています。ここでは、基本的にシャッターボタンを押すだけの AUTO PICT（オートピクチャー）モードの撮影方法を説明します。
AUTO PICT モードでは、カメラが被写体やシーンを自動的に判別して最適な撮影モードで撮影できます。

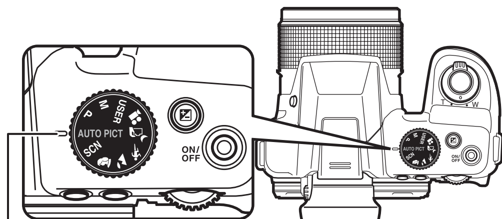
1 レンズキャップを外す

2 電源ボタンを押す

電源が入り、「撮影モード」になります。

3 モードダイヤルを AUTO PICT に合わせる

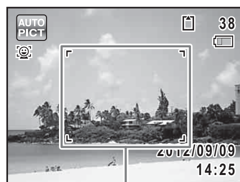
被写体に最適な撮影モードをカメラが選択します。



ダイヤル指標

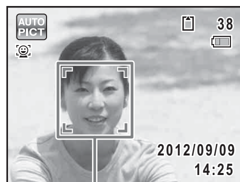
4 画像モニターを確認する

画像モニター中央のフォーカスフレームの中が、自動でピントが合う範囲です。



フォーカスフレーム

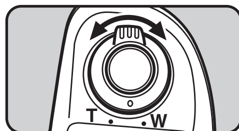
人物の顔を検出すると顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.59）。



顔検出枠

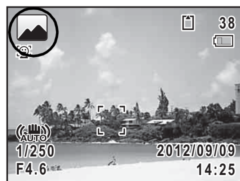
ズームレバーを回すと、被写体の写る範囲が変わります（p.61）。

右（**T**）　被写体を拡大して写す
左（**W**）　被写体を広い範囲で写す



5 シャッターボタンを半押しする

判別された撮影モードが画像モニター左上に表示されます。



標準	夜景	夜景ポートレート
風景	花	ポートレート
スポーツ	キャンドルライト	青空
人物×青空	人物×逆光	夕焼け
人物×夕焼け	集合写真	テキスト

3
撮影

ピントが合った位置で、フォーカスフレーム（または顔検出枠）が緑色に変わります。
ストロボを使用する場合は、ϟ ボタンを押して、ストロボをポップアップします（p.81）。

6 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。
ストロボは、明るさに応じて自動的に発光します。
撮影した画像は画像モニターに表示（クイックビュー、p.58）された後、SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに保存されます。



AUTO PICTモードでは以下の制限があります。

- 顔検出機能は「オフ」にできません。
- AFエリアは［　］（マルチ）固定になります。
- デジタルズーム／インテリジェントズームを使用しているときは、「花」は判別されません。
- （夜景）が判別された場合は、ストロボは（発光禁止）に固定されます。
- ドライブモードを（連写L）／（連写H）に設定している場合は、最初に判別された撮影モードのまま連続して撮影されます。

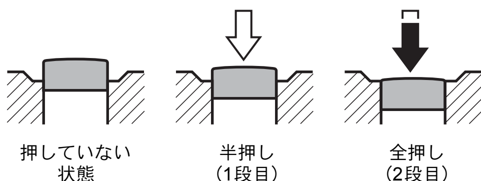
シャッターボタンの押しかた

シャッターボタンは「半押し」と「全押し」の2段階になっています。

半押し
シャッターボタンを1段目まで軽く押した状態です。ピント位置と露出がロックされます。半押しのときにピントが合うと、画像モニターに緑色の枠が表示されます。ピントが合っていないときは、白い枠が表示されます。

全押し

シャッターボタンを2段目まで押しきった状態です。撮影が行われます。



ピント合わせの苦手な条件

写したいものが下の例のような条件にある場合は、ピントが合わないことがあります。その場合はいったん撮りたいものと同じ距離にあるものにピントを固定（シャッターボタン半押し）し、その後撮りたい位置に構図を戻してシャッターを切ります。

- 青空や白壁など極端にコントラストが低いもの
- 暗い場所、あるいは真っ暗なものなど、光の反射しにくい条件
- 細かい模様の場合
- 非常に速い速度で移動しているもの
- 遠近のものが同時に存在する場合
- 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい場合）

クイックビューとまばたき検出

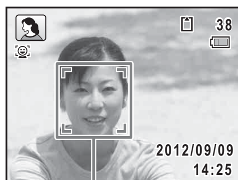
撮影直後には、撮影した画像が画像モニターに表示（クイックビュー）されます。顔検出機能が働いているときに、被写体が目を閉じたとカメラが検出すると、「目を閉じていました」というメッセージが3秒間表示されます（まばたき検出）。



- 顔検出が行われなかったときは、まばたき検出も行われません。また顔検出した場合でも、検出した顔の条件によってまばたき検出ができないことがあります。
- クイックビューを表示しないように設定することもできます (p.97)。
- まばたきを検出しないように設定することもできます（p.97）。

顔検出機能を利用する

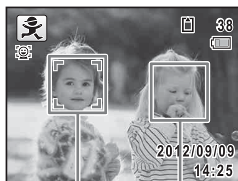
このカメラでは、すべての撮影モードで、「顔検出」機能が利用できます。
顔検出機能は、カメラが人物の顔を検出すると、画像モニター上の顔の位置に黄色の顔検出枠を表示し、ピント合わせ（顔検出AF）と露出補正（顔検出AE）を行います。
顔検出枠は、被写体の人物が動くと、顔を追尾して位置や大きさが変化します。



顔検出枠

人物の顔は最大32人まで検出できます。複数の顔を検出した場合は、メインの顔に黄色の枠が表示され、他の顔には白い枠が表示されます。枠は、メイン枠・白い枠を合わせて最大31個まで表示できます。

複数の顔を検出した場合



メイン枠　白い枠

初期状態では、顔検出機能が「オン」に設定されています。被写体が笑顔になると自動で撮影することもできます。詳しくは「顔検出機能を切り替える」（p.95）を参照してください。

お好みの設定で撮影する（プログラムモード）

P（プログラム）モードでは、シャッタースピードと絞り値をカメラが自動的に設定して撮影します。ストロボの発光方式や記録サイズなどの機能が自由に設定できます。

1 モードダイヤルをPに合わせる

2 ストロボを使用する場合は ϟ ボタンを押す

ストロボがポップアップします（p.81）。

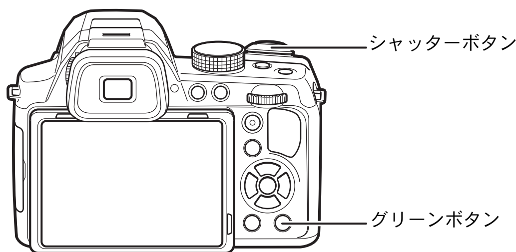
3 撮影する

簡単撮影モードで撮影する（グリーンモード）

（グリーン）モードでは、「撮影」メニューの設定に関係なく、標準設定で手軽に撮影を楽しめます。
（グリーン）モードの設定値は、以下のとおりです。

ドライブモード	□（標準）
ストロボモード	A（オート）
フォーカスモード	AF（標準）
顔検出機能	（オン）
情報表示	標準
露出補正	±0.0
画像仕上	鮮やか
記録サイズ	16M
画質	★★（ファイン）
ホワイトバランス	AWB（オート）
感度	AUTO
感度AUTO調整範囲	ISO 100-1600
AFエリア	[ ]（マルチ）
オートマクロ	☑（オン）

AF補助光	☑（オン）
測光方式	（分割測光）
ストロボ光量補正	±0.0
ハイライト補正	□（オフ）
シャドー補正	□（オフ）
Shake Reduction	センサーシフト
まばたき検出	☑（オン）
デジタルズーム	☑（オン）
クイックビュー	☑（オン）
シャープネス	（標準）
彩度	（標準）
コントラスト	（標準）
日付写し込み	オフ
超解像	☑（オン）



3 撮影

1 モードでグリーンボタンを押す



モードに切り替わります。
もう一度グリーンボタンを押すと、モードに入る前の撮影モードに戻ります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます(p.59)。
ストロボを使用する場合は、ボタンを押してストロボをポップアップします（p.81）。

2 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

3 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

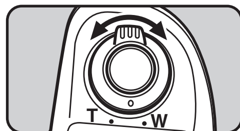


- モードを利用する場合は、「撮影」メニューの「グリーンボタン」に「グリーンモード」を登録しておきます（p.100）（初期設定では「グリーンモード」に設定されています）。
- モードでは、**DISP** ボタンを押して情報表示を切り替えることはできません。
- モードで**MENU**ボタンを押すと、「設定」メニューが表示されます。「撮影」メニューは表示できません。
- 撮影モードをモードにしたまま電源を切ると、次回もモードで起動します。

ズームを使って撮影する

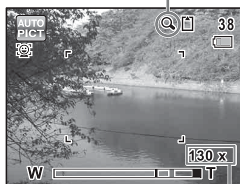
ズーム機能を使って、写る範囲を変えて撮影できます。

1 モードでズームレバーを回す

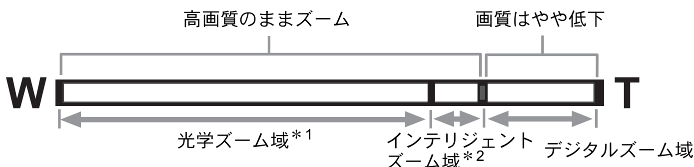


右（**T**）	望遠	被写体を拡大して写す
左（**W**）	広角	被写体を広い範囲で写す

右（**T**）に回し続けると、自動的に光学ズームからインテリジェントズームに切り替わり、デジタルズームの切り替わり点で止まります。
いったんズームレバーから指を離して、もう一度回すとデジタルズームになります。



ズームバーは、次のように表示されます。



*1 光学26倍までズームできます（4.0～104.0mm（35mm換算：約22.3～580mm））。
*2 記録サイズによってインテリジェントズーム域は変化します。次の表をご覧ください。

記録サイズと最大ズーム倍率

記録サイズ	インテリジェントズーム	デジタルズーム
16M	不可（光学26倍のみ）	約187.2倍相当
12M 16:9	不可（光学26倍のみ）	約187.2倍相当
12M 1:1	不可（光学26倍のみ）	約187.2倍相当
7M	約39倍	約187.2倍相当
5M	約46.2倍	約187.2倍相当
5M 16:9	約39倍	約187.2倍相当
4M 16:9	約46.2倍	約187.2倍相当
3M	約58.5倍	約187.2倍相当
2M	約74.9倍	約187.2倍相当
2M 16:9	約62.4倍	約187.2倍相当
1024	約117倍	約187.2倍相当
640	約187.2倍	



- 高倍率の撮影では、手ぶれを防止するため三脚などのご使用をお勧めします。
- フォーカスモードが🌷（マクロ）、🌷1cm（1cmマクロ）のときは、ズーム位置が固定されます。
- デジタルズーム領域で撮影すると、光学ズーム領域で撮影したときよりも画像があらくなります。
- 記録サイズが16M／12M 16:9／12M 1:1のときは、インテリジェントズームは使えません（光学26倍ズームとデジタルズームは使用可）。
- インテリジェントズームで高倍率に拡大すると、画像モニターの画像があらく見えることがあります。撮影した静止画の画質には、影響はありません。
- 🎥（動画）モードで撮影中は、デジタルズームのみ使えます。

3 撮影

デジタルズーム機能を設定する

初期設定では、デジタルズームは☑（オン）に設定されています。光学ズームとインテリジェントズーム領域だけを使って撮影したい場合は、□（オフ）に設定します。

1 静止画撮影モードでMENUボタンを押す

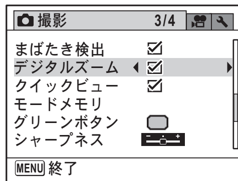
「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「デジタルズーム」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　デジタルズームを使用する
□　光学ズームとインテリジェントズームだけを使用する

設定が保存されます。



4 MENUボタンを押す

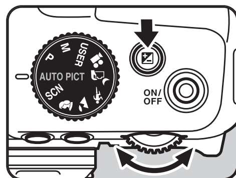
撮影できる状態になります。

デジタルズーム機能の設定を保存する ☞p.110

露出を補正する

撮影する画像全体の明るさを調整します。
意図的に露出をオーバー（明るく）やアンダー（暗く）にして撮影するときに利用します。

1　Aモードで⊡ボタンを押す



2　電子ダイヤルを回す

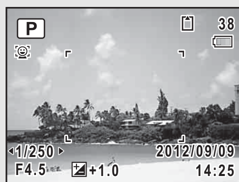
明るくする場合は＋（Q）側に、暗くする場合は－（⊞）側に設定します。
補正値は、±2.0EVの範囲を1/3EV単位で選択できます。

3　⊡ボタンを押す

露出補正が確定し、撮影できる状態になります。

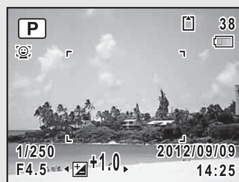


- 補正値が±0.0以外の場合は、画像モニターに常時表示されます。補正値が±0.0の場合は、⊡ボタンを押すと表示が消えます。
- ●（グリーン）／AUTO PICT（オートピクチャー）モードでは、±0.0固定になります。
- **M**（マニュアル）モードでは、使用できません。
- ⊡ボタンを押すと、露出補正値が拡大表示されます。



通常表示



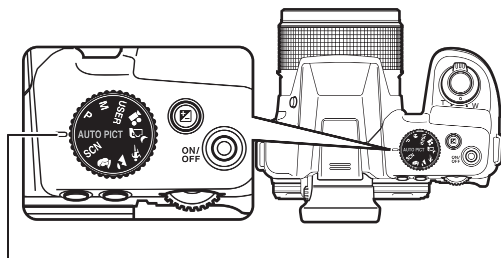


⊡ボタンを押したとき

3 撮影

撮影モードを選ぶ

モードダイヤルのアイコンをダイヤル指標に合わせて、撮影モードを切り替えます。



ダイヤル指標

このカメラには多彩な撮影モードがあります。用途に合わせて、撮影モードを選択してください。

ピクチャーモード

AUTO PICT（オートピクチャー）／（手持ち夜景）／（スポーツ）／（風景）／（ポートレート）があります。
各モードの特徴は次の通りです。

モード		特徴
AUTO PICT	オートピクチャー	カメラの標準設定から最適な撮影モードを自動的に選択します（☞p.55）。
	手持ち夜景	手ぶれの少ない夜景を撮影します。
	スポーツ	スポーツなど動きの速い被写体の撮影に適しています。撮影するまでピントを合わせ続けます。
	風景	風景の撮影に適しています。木々の緑と空の青をより鮮やかに写します。
	ポートレート	人物の撮影に適しています。肌色を健康的に仕上げます。



- 🏃 モードでは、カメラが被写体を追尾し、フォーカスを合わせ続けます。またAFエリア（p.86）を［　］（マルチ）／［ ］（スポット）に設定している場合は、シャッターボタンを半押しするとフォーカスロックすることができます。
- 撮影モードによっては、一部の機能が設定できなかったり、制限がある場合があります。詳しくは、「各撮影モードの機能対応」（p.188）をご確認ください。

SCNモード

モードダイヤルをSCN（シーン）に合わせ、次の19種類の撮影シーンから選択して撮影できます。

撮影モード		内容
❀	花	花の撮影に適しています。花の輪郭を柔らかめに表現します。
	青空	青空の彩度を強調してより鮮やかに写します。
	夕焼け	夕焼けの雰囲気を残して撮影します。
	夜景	夜景の撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。
	夜景ポートレート	夜景での人物撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。 ストロボモードを⚡A（オート）に設定しているときに顔検出された場合は、自動的に⚡（強制＋赤目）で撮影されます。
	花火	花火の撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。 シャッタースピードは4秒、感度は最低感度に固定されます。
HDR	HDRフィルター	ハイダイナミックレンジ画像のような効果のある撮影をします。
	サーフ＆スノー	砂浜や雪山など、明るい場所での撮影に適しています。
	ベビー	赤ちゃんの撮影に適しています。表情を明るく健康的に撮影します。
	キッズ	動きの多い子供を撮影するのに適しています。肌色を健康的に仕上げます。
	ペット	動き回るペットの撮影に適しています。登録したペットの検出もできます。（☞p.74）
Ψ	料理	料理の撮影に適しています。より鮮やかに仕上げます。
((👤))	高感度	ぶれを軽減して撮影するために、より高い感度を使用します。感度は「AUTO」に固定されます。

撮影モード	内容
ステージライト	記録サイズ2M固定で、暗い所で動きのある被写体を撮影するのに適しています。
テキスト	文字の撮影に適しています。白黒や反転などの効果が選択できます。
美術館	美術館などストロボを発光させたくない場所での撮影に適しています。
WIDE デジタルワイド	撮影した2枚の画像をカメラ内でつなぎ合わせて、より広い範囲の画像を作成します。（☞p.70）
パノラマ	撮影した画像をカメラ内でつなぎ合わせてパノラマ写真を作成します。（☞p.72）
フレーム合成	フレーム付きの画像を撮影します。（☞p.69）



- ／／／HDR以外の撮影モードでは、彩度・コントラスト・シャープネス・ホワイトバランスなどが各モードに最適な値に設定されています。
- ／モードでは、カメラが被写体を追尾し、フォーカスを合わせ続けます。またAFエリア（p.86）を［　］（マルチ）／［ ］（スポット）に設定している場合は、シャッターボタンを半押しするとフォーカスロックすることができます。
- 撮影モードによっては、一部の機能が設定できなかったり、制限がある場合があります。詳しくは、「各撮影モードの機能対応」（p.188）をご確認ください。

1 モードダイヤルをSCNに合わせる

前回選択したSCNモードになります。初期設定は（花）です。

2 十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で撮影モードを選択する

撮影モードパレットでアイコンを選択すると、選んだ撮影モードの説明が表示されます。



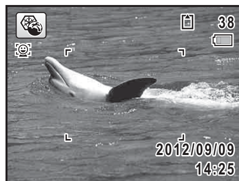


選択した撮影モードの説明を表示しないようにすることができます（p.170）。

3
撮影

4 OK ボタンを押す

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。
ストロボを使用する場合は、⚡ ボタンを押してストロボをポップアップします（p.81）。



露出モード

シャッター速度・絞りを任意に変更し、撮影者の意図に合った画像を撮影したいときに使用します。

撮影モード		内容	参照
P	プログラム	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞りが自動的に設定され、適正露出で撮影できます。	p.59
M	マニュアル	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、より撮影意図に合った画作りをしたいときに使います。	p.75
USER	ユーザー	任意に登録した設定で撮影します。	p.77

フレームをつけて撮影する（フレーム合成モード）

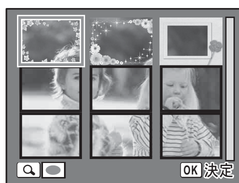
（フレーム合成）モードでは、カメラに保存されているフレームに合わせて撮影することができます。

1 撮影モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で（フレーム合成）を選ぶ

2 OK ボタンを押す

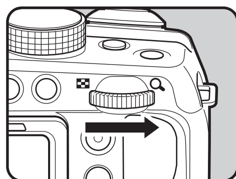
フレーム選択の9分割画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で使用するフレームを選ぶ



4 電子ダイヤルを右（Q）に回す

選んだフレームが1画面表示されます。
フレームは次の方法で選び直すことができます。



十字キー（◀▶）	別のフレームを選択
電子ダイヤル左（▦）	フレーム選択の9分割画面に戻り、手順4と同様の操作で別のフレームを選択

5 OK ボタンを押す

フレーム付きの撮影画面が表示されます。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.59）。

6 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。
ストロボを使用する場合は、ϟボタンを押してストロボをポップアップします（p.81）。

7 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

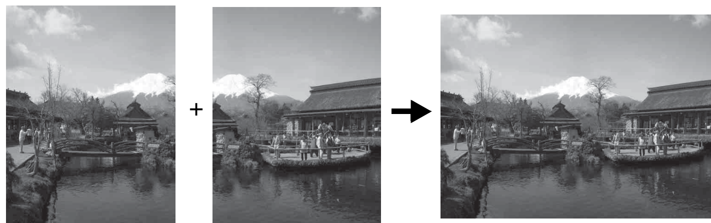


- 記録サイズは、3Mに固定されます。
- 工場出荷時には、デフォルトフレーム3種類が内蔵されています。このフレームは、内蔵メモリーをフォーマットしても削除されません。付属のCD-ROMには、オプションフレームが収録されています。オプションフレームを内蔵メモリーに登録する場合は、CD-ROMからコピーしてください（p.145）。
- ▢モード時は、**DISP**ボタンでグリッド表示に切り替えることはできません。

撮影した画像にフレームを合成する ☞p.143

デジタルワイドを使って撮影する（デジタルワイドモード）

WIDE（デジタルワイド）モードでは、縦位置の2枚の撮影画像をカメラ内で合成することで、最大で約17mm相当（35mmフィルム換算）の広角撮影ができます。



1 撮影モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で WIDE（デジタルワイド）を選ぶ

2 OKボタンを押す

WIDE モードになります。
シャッターボタンが下になるようカメラを縦位置に構え、1枚目（左半分）の構図を決めます。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます(p.59)。



3 シャッターボタンを押して撮影する

1枚目の撮影画像が記憶され、2枚目の撮影画面が表示されます。



4 2枚目を撮影する

画面左の位置合わせガイドに画像を重ねて、2枚目（右半分）の構図を決めます。手順3と同じ操作で2枚目の撮影をすると、1枚目と2枚目の撮影画面が合成されます。
合成された画像は画像モニターに表示（クイックビュー）された後、保存されます。



- 2枚目を撮影するときは、位置合わせガイドの右端を軸にしてカメラを旋回させるようにすると、ひずみの少ない写真ができます。
- 1枚目と2枚目の重ね合わせ部分に、動くものや繰り返しパターンの像があったり、逆に何もない場合は、うまく合成できないことがあります。
- 顔検出機能（p.95）が「オン」の場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。
- 合成された画像は、5M で保存されます。

1枚目で撮影をやめるとき

1 **p.71の手順4で2枚目の撮影画面が表示されているときに、OKボタンまたは十字キー（▼）を押す**

確認の画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で処理を選び、OKボタンを押す**

保存	1枚目の画像を保存し、新たに1枚目から撮影します。1枚目の画像は3Mで保存されます。
破棄	1枚目の画像を保存しないで、新たに1枚目から撮影します。
キャンセル	2枚目の撮影画面に戻ります。

パノラマ撮影をする（パノラマモード）

（パノラマ）モードでは、2枚または3枚の撮影画像をカメラ内で合成してパノラマ写真を作成します。

1 **撮影モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で（パノラマ）を選ぶ**

2 **OKボタンを押す**

モードになり、「移動する方向を指定してください」とメッセージが表示されます。

3 **十字キー（◀▶）で画像をつなげる方向を選ぶ**

1枚目を撮影する画面が表示されます。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.59）。



4 **シャッターボタンを押して撮影する**

1枚目の画像が撮影され、2枚目を撮影する画面が表示されます。

手順3で▶を選んでいる場合

画面の左端に、1枚目に撮った画像の右端部分が透過表示されます。

手順3で◀を選んでいる場合

画面の右端に、1枚目に撮った画像の左端部分が透過表示されます。

5 2枚目の画像を撮影する



実画像が1枚目の画像の透過表示に重なるようにカメラを移動し、シャッターを切ります。

6 3枚目の画像を撮影する

3枚目も手順4～5を繰り返して撮影します。
画像がパノラマ合成され、合成結果が表示されます。
クイックビュー（p.97）が□（オフ）の場合は、合成結果は表示されません。



- 1枚目と2枚目、または2枚目と3枚目の重ね合わせ部分に、動くものや繰り返しパターンの像があったり、逆に何もない場合は、うまく合成できないことがあります。
- 顔検出機能（p.95）が「オン」の場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。

1枚目または2枚目で撮影をやめるとき

1 p.72の手順4で1枚目の画像を撮影後、または手順5で2枚目の画像を撮影後に、OKボタンまたは十字キー（▼）を押す

確認の画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で処理を選び、OKボタンを押す

保存	撮影済みの画像を保存し、新たに1枚目から撮影します。2枚目の画像撮影後に選択すると、1枚目と2枚目の撮影画像がパノラマ合成され、合成結果が表示されます。
破棄	撮影済みの画像を保存しないで、新たに1枚目から撮影します。
キャンセル	直前の撮影画面に戻ります。



▮▮▮モードで撮影した合成前の画像は、2Mで保存されます。

ペットを撮影する（ペットモード）

🐶🐱（ペット）モードでは、ペットを検出すると、自動的にシャッターが切れます。また、ペットをカメラに登録することもできます。

1 **撮影モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で🐶🐱（ペット）を選ぶ**

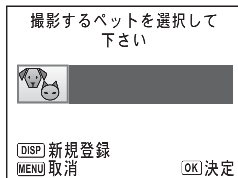
2 **OK ボタンを押す**



🐶🐱モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラがペットを検出すると、ペット検出枠を表示し、自動で撮影されます。

ペットを登録する

1 **🐶🐱モードの撮影画面で OK ボタンを押す**



ペット選択画面が表示されます。

2 **DISP ボタンを押す**



ペットを登録する画面が表示されます。ペットの顔が正面を向くようカメラを構えると、自動で撮影され、登録確認画面が表示されます。

十字キー（▲▼）で「登録」を選択し、**OK** ボタンを押すと、登録したペットの写真が画像モニター左上に表示され、撮影できる状態になります。

カメラがペットの顔を検出すると、ペット検出枠を表示し、自動的にシャッターが切れます。
シャッターボタンを押して撮影することも可能です。



撮影画面で **OK** ボタンを押すと、ペットを登録する画面が表示され、他のペットを登録することができます。ペットは合計3匹まで登録可能です。



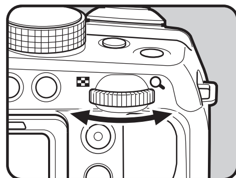
- ペットを登録する画面で**MENU**ボタンを押すと、登録が中止され、撮影できる状態になります。
- モードで登録できる動物は、犬と猫のみです。他の動物や人物の顔は登録できません。またペットの顔が小さすぎるなど、条件によっては登録できないことがあります。
- 登録されたペットでも、顔が小さすぎるなど、条件によっては検出できないことがあります。
- AFエリアは（自動追尾）に、ストロボは（発光禁止）に設定されます。変更も可能です。
- AF補助光は□（オフ）に設定されます。変更も可能です。

M（マニュアル）モードを利用する

シャッター速度と絞り値の両方を任意の値に設定し、それを組み合わせて思いどおりの画作りをするのに適しています。常に同じシャッター速度と絞り値の組み合わせで撮影したいときや、意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）にしたいときに使います。

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 電子ダイヤルを回してシャッター速度／絞り値を変更する



±ボタンを押すと、シャッター速度調整／絞り値調整が切り替わります。（初期設定：シャッター速度調整）

3 ストロボを使用する場合は⚡ボタンを押す

ストロボがポップアップします（p.81）。

4 撮影する

注意

- **M**モードでは、露出補正は使用できません。
- 感度でAUTOは選択できません。
- ストロボモードの⚡A（オート）／◉A（オート＋赤目）は選択できません。

メモ

- 現在の露出と適正露出との差が大きい場合は、警告を表示します。±2.0EVを超える場合には露出警告アイコンのみ、±2.0EV以下の場合には露出警告アイコンと現在の露出と適正露出との差を1/3EV単位で表示します。
- シャッター速度が1/4秒より遅い値になった場合には、画像のざらつきやムラを減らす処理（ノイズリダクション）が行われます。
- シャッター速度と絞り値の変更している方を大きなフォントで表示します。
- ズーム倍率を変更したときも、絞り値を保持します。ただし、選択したズーム倍率で現在の絞り値が使用できない場合には、最も近い絞り値に設定します。この場合、再度ズーム倍率を変更して元の絞り値が使用できるようになったら、元の絞り値に戻ります。

USER（ユーザー）モードを利用する

USERモードを登録する

現在のカメラの設定を登録し、モードダイヤルをUSERに合わせるだけで簡単に呼び出すことができます。
登録できる設定は以下の通りです。

- 撮影モード **P**（初期設定）／**M**
- 絞り値
- シャッタースピード
- 「撮影」メニューの設定
- ストロボモード
- ドライブモード
- フォーカスモード
- 露出補正
- MF位置
- オートブラケットの露出補正値幅
- **DISP**ボタンの情報表示
- 顔検出モード

1 モードダイヤルを**P**または**M**に合わせる

注意 モードダイヤルが**P**／**M**以外に合っているときは、USERモード登録はできません。

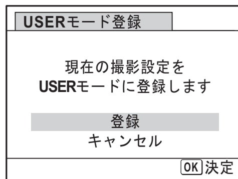
2 登録する機能を設定する

3 「設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「USERモード登録」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

「USERモード登録」画面が表示されます。

5 十字キー（▲）で「登録」を選ぶ



6 OK ボタンを押す

登録処理が開始されます。
登録が終わると、📷モードまたは▶モードに戻ります。

3 撮影

USERモードで撮影する

1 モードダイヤルをUSERに合わせる

登録されている設定が呼び出されます。

2 必要に応じて設定を変更する

3 ストロボを使用する場合は⚡ボタンを押す

ストロボがポップアップします（p.81）。

4 撮影する

注意

USERモードで変更した設定は、モードダイヤルがUSERのときだけ有効です。他の撮影モードに変更したり、電源を切ると「USER モード登録」で登録した設定に戻ります。USERモードの登録内容を変更する場合は、再度「USER モード登録」で登録してください。

ストロボの発光方法を選ぶ

⚡A	オート	暗いときや逆光のときにストロボが自動的に発光します。顔検出した場合は、自動的に👁⚡になります
⊘	発光禁止	暗いときや逆光のときでも発光しません。ストロボが使えない場所での撮影にご利用ください。
⚡	強制発光	明るさにかかわらず、常にストロボを発光します。
👁A	オート＋赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。自動的にストロボを発光します。本発光の前に予備発光を行います。
👁⚡	強制＋赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。常にストロボを発光します。本発光の前に予備発光を行います。
SLOW ⚡	スローシンクロ	夜の屋内や屋外で、人物と背景を両方とも明るく撮りたいときなどに使います。自動的にストロボを発光します。
SLOW 👁⚡	スローシンクロ＋赤目	スローシンクロで発光する前に、赤目軽減のための予備発光を行います。



- 以下のときは、⊘固定になります。
  - 撮影モードが（手持ち夜景）／（ステージライト）／（花火）／（早送り動画）／（動画）／（ハイスピードカメラ）のとき
  - ドライブモードが（連続撮影）／（連写L）／（連写H）／（オートブラケット）のとき
  - フォーカスモードが▲（無限遠）のとき
- （グリーン）モードでは、⚡A／⊘のみ選択できます。
- （夜景）モードでは、⚡A／👁Aは選択できません。

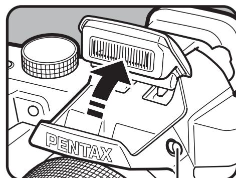
注意

近距離撮影時にストロボを発光させると、ストロボの配光にムラができる場合があります。極端な近距離になると、レンズ枠の影が写り込む場合がありますのでご注意ください。

3 撮影

1 ϟボタンを押す

ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。



ϟボタン

2 静止画撮影モードで十字キー（◀）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。



3 十字キー（◀▶）でストロボモードを選択する

4 OKボタンを押す

設定が保存され、撮影できる状態になります。

> **ストロボ撮影の赤目現象について**
> ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。赤目現象は、人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くして広角側で撮影すると、発生しにくくなります。また、ストロボの発光方法を◉A／◉ϟ／SLOW◉ϟにするのも有効です。
> それでも赤目になってしまった画像は、赤目補正機能（p.142）を使って修正できます。

ストロボ発光方法の設定を保存する ☞p.110

ストロボを使って撮影する

1 **撮影モードを選ぶ**

2 **⚡ボタンを押す**

ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。
充電中は画像モニターに⚡（赤）が点滅表示されます。
充電が終わると、画像モニターに⚡が表示されます（⚡A時は表示が消えます）。

3 **シャッターボタンを半押しする**

ピントが合った状態で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

4 **シャッターボタンを全押しする**

ストロボが発光し、撮影されます。

5 **ストロボを押し下げ、収納する**

ドライブモードを選ぶ

連続撮影	1枚撮影するごとに、画像をメモリーに書き込み、続いて次の静止画を撮影します。高画質の画像ほど、撮影間隔が長くなります。 SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになるまで、連続撮影できます。
連写（L）	記録サイズを5M／4M 16:9に固定し、連続して撮影します。撮影間隔はL→Hの順に速くなります。
連写（H）	
セルフタイマー	シャッターボタンを押してから約10 秒後に撮影されます。撮影者も含めて集合写真を撮る場合などに利用できます。
2sセルフタイマー	シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影されます。手ぶれを避けるために利用できます。
リモコン	リモコンのシャッターボタンを押すと、約3秒後にシャッターが切れます。
0sリモコン	リモコンのシャッターボタンを押すと、すぐにシャッターが切れます。
オートブラケット	シャッターボタンを押したときに、露出が異なる画像を連続して3枚撮影します。撮影した後に、写りのいい画像を選ぶことができます。 適正露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

1 モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でドライブモードを選択し、OK ボタンを押す

選んだドライブモードを使って撮影できる状態になります。



- 静止画撮影の場合、セルフタイマーランプの点滅中に構図を変えると、ピントが合わなくなります。
- ／／／では、ストロボは発光しません。
- ／／／は、以下のモードでは選択できません。
  （グリーン）／（花火）／**HDR**（HDRフィルター）／（フレーム合成）／WIDE（デジタルワイド）／（パノラマ）モードまたは動画。
- （手持ち夜景モード）を設定している場合は、ドライブモードは設定できません。

メモ

- 動画のセルフタイマー撮影のときは、シャッターボタンまたは動画ボタンを押してから10秒後または2秒後に録画が開始されます。
- セルフタイマーのカウントダウン中にシャッターボタンを半押しするとカウントダウンを中止し、全押しするとカウントダウンをやり直します。
- は（グリーン）モードの初期設定では選択できません。ただし、他の撮影モードでを選んでから、撮影モードを（グリーン）モードに切り替えると、選択できます。
- ／／で連続して撮影できる枚数と撮影コマ速度は、撮影条件により変わります。
- ／／のピント・露出・ホワイトバランスは、1枚目で固定されます。
- ／／で顔検出（p.95）が「オン」の場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。
- AUTO PICT（オートピクチャー）モードで、ドライブモードが／／の場合は、最初に判別された撮影モードのまま連続して撮影されます。
- は、クイックビューが（オン）に設定されている場合（p.97）は、撮影後に3枚目に撮影された画像がクイックビュー表示されます（p.58）。

3 撮影

ピントの合わせ方を選ぶ（フォーカスモード）

AF	標準	被写体までの距離が40cm以上のときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
🌷	マクロ	被写体までの距離が約10～50cmのときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
🌷1cm	1cmマクロ	被写体に1～20cmまで近寄って撮影できます。
▲	無限遠	遠くにあるものを撮影するときに使用します。ストロボは⊛（発光禁止）になります。
MF	マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。
▦	AFエリア選択	ピントを合わせたい位置を選びます。

1 ◘モードで十字キー（▶）を押す



「フォーカスモード」画面が表示されます。押すたびにフォーカスモードが切り替わります。十字キー（◀）でも切り替えられます。

2 OKボタンを押す

設定が保存され、撮影できる状態になります。



- ●（グリーン）モードでは、AF／🌷のみ選択できます。
- ※（花火）モードは▲に固定されます。
- 「オートマクロ」（p.86）が☑（オン）のときに🌷を選択して撮影する場合、被写体までの距離が50cmより遠いと、自動的に∞（無限遠）までのピント合わせが行われます。また、ピントが合っていなくても、シャッターを全押しすると撮影できます。

フォーカスモードの設定を保存する ☞p.110

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

1 ◘モードで十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▶）でMFを選ぶ

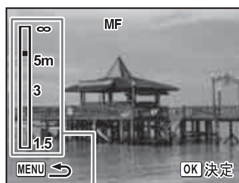
3 OKボタンを押す

画面中央部が画像モニターいっぱいに拡大して表示されます。

4 十字キー（▲▼）でピントを合わせる

画像モニターに**MF**バーが表示され、おおよその距離が表示されます。これを目安にピントを合わせます。

▲　遠くにピントが合う
▼　近くにピントが合う



MFバー

5 OKボタンを押す

フォーカス位置が決定し、撮影できる状態になります。
フォーカス位置を決定させた後、もう一度十字キー(▶）を押すと**MF**バーが表示され、ピントを合わせ直すことができます。

注意

MFバーが表示されている間は、撮影モードやドライブモードは変更できません。



MFから他のフォーカスモードに切り替えるときは、**MF**バーが表示されている間に十字キー（▶）を押します。

ピントを合わせる位置を選ぶ（AFエリア選択）

25のポイントからピントを合わせたい位置を選ぶことができます。

1 📷モードで十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▶）で▦を選ぶ

3 OKボタンを押す

中央部分が選択された状態で表示されます。



4 十字キー（▲▼◀▶）でピントを合わせたい位置を選ぶ

5 OKボタンを押す

AFエリアが決定し、撮影できる状態になります。

「📷撮影」メニューを設定する

撮影のための設定は主に「📷撮影」メニューから行います。機能の設定方法は各機能の説明を参照してください。

1 静止画撮影モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で設定する項目を選び、設定する

3 設定完了後、MENUボタンを押す

設定が保存され撮影できる状態になります。

オートフォーカス条件を設定する

オートフォーカスの範囲や方式を設定します。

1 「📷撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「AF」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「AF」画面が表示されます。

オートフォーカス範囲を設定する（AFエリア）

オートフォーカスの対象となる範囲（AFエリア）を設定します。

[ ] マルチ	画面中央部に設定し、AFエリア枠内で一番近いものにピントを合わせます。
[ ] スポット	ピントを合わせる範囲を絞込み、特定の被写体にピントを合わせやすくします。
自動追尾	シャッターボタンを半押ししている間、被写体の動きを追ってピントを合わせ続けます。

3 ### 十字キー（▲▼）でAFエリアを選ぶ

4 ### OKボタンを押す

設定が保存されます。



- （フレーム合成）／（動画）／（早送り動画）／（ハイスピードカメラ）モードでは、は選択できません。
- （グリーン）／（花火）モードでは、[ ]に固定されます。

オートマクロを設定する

被写体までの距離が50cm以下のマクロ域でのピント合わせについて設定します。

☑	フォーカスモードが **AF** ／ に設定されている場合は、必要に応じてマクロ域（被写体までの距離10～50cm）までのピント調整を行います。フォーカスモードがの場合は、必要に応じて標準域までピント調整を行います。フォーカスモードがの場合は、1cmマクロ域（1～20cm）のみピント調整を行います。（初期設定） 撮影時にオートマクロが作動すると、画像モニターにが表示されます。
□	各フォーカス域のみにピントを合わせます。

3 ### 十字キー（▲▼）で「オートマクロ」を選ぶ

4 ### 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

設定が保存されます。

AF補助光を設定する

補助光を発光させて、被写体が暗くオートフォーカスが正確に作動しない環境でピントを合わせやすくします。セルフタイマーランプ部分が発光します。

3 十字キー（▲▼）で「AF補助光」を選ぶ

4 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

設定が保存されます。

注意

- AF 補助光を直接見ても安全上の問題はありませんが、多少まぶしく感じます。発光部を至近距離から直接のぞきこまないでください。
- 次の場合、AF補助光は発光しません。
  - 撮影モードが（早送り動画）／（動画）／（ハイスピードカメラ）のとき
  - フォーカスモードが▲／MFのとき
- （ペット）モード時の初期設定は□（オフ）です。

画像仕上を設定する

静止画の仕上がりイメージを設定します。
鮮やか（初期設定）／ナチュラル／モノトーンの3種類から選択します。

1 「撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「画像仕上」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で仕上がりイメージを選ぶ

4 OKボタンを押す

設定が保存されます。



「モノトーン」を選択すると、「撮影」メニューの「彩度」の代わりに色の感じを設定する「調色」が表示されます。

記録サイズを選択する

静止画像の記録サイズ（横×縦の画素数）を11種類から選択できます。記録サイズが大きいほど、プリントしたときに、より鮮明な画像が得られます。ただし、写真の美しさ、鮮明さは画質や露出制御、使用するプリンターの解像度なども関係するので、むやみに大きくする必要はありません。はがきサイズにプリントする場合は、3M程度が目安です。記録サイズが大きくなるほど、画像が大きくなりファイルサイズも増えます。
次の表を参考に、用途に応じて適切な記録サイズを設定してください。
（初期設定：16M）

記録サイズ		用途
16M	4608×3456	↑ 鮮明、きれい　フォトプリントなどの高画質印刷、A4判以上の大判プリント、画像編集などの加工用など
12M 1:1	3456×3456	
12M 16:9	4608×2592	
7M	3072×2304	
5M 16:9	3072×1728	
5M	2592×1944	
4M 16:9	2592×1464	
3M	2048×1536	はがきサイズプリントなど
2M 16:9	1920×1080	
1024	1024×768	
640	640×480	ホームページ掲載、電子メール添付など



12M 16:9／5M 16:9／4M 16:9／2M 16:9を選ぶと、画像の横縦比が16:9（ハイビジョンテレビと同じアスペクト比）になり、撮影／再生時の画像モニターの表示は右のようになります。



3 撮影

1 「📷 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「記録サイズ」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で記録サイズを選ぶ

4 OK ボタンを押す

設定が保存されます。



- ●（グリーン）モードは、16M固定になります。
- ◎（フレーム合成）モードで撮影した画像は、3M に固定されます。
- WIDE（デジタルワイド）モードで撮影した画像は、5M に固定されます（2枚目の撮影をせずにデジタルワイドを終了した場合は 3M になります）。
- 🎭（ステージライト）モードで撮影した画像は 2M に固定されます。

静止画の画質を選択する

用途に合わせて、静止画の画質を設定します。
★が多いほど画像はきれいですが、画像データのサイズも増えます。データのサイズは、選んだ記録サイズによっても異なります（p.88）。

★★★	スーパーファイン	圧縮率が最も低く、写真用のプリントなどに適しています。
★★	ファイン	圧縮率が標準で、パソコンの画面で画像を見るときに適しています。（初期設定）
★	エコノミー	圧縮率が最も高く、電子メールへの添付やホームページ作成用に適しています。

1 「📷 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「画質」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で画質を選ぶ

上部の撮影可能枚数に、選んだ画質で撮影できる枚数が表示されます。

4　OKボタンを押す

設定が保存されます。



- ●（グリーン）モードは、★★固定になります。
- （早送り動画）／（動画）／（ハイスピードカメラ）は、★★★固定になります。

ホワイトバランスを調整する

撮影時の光の状態に応じて、画像を自然な色合いに調整します。

AWB	オート	カメラが自動的に調整します。（初期設定）
☼	太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。
	日陰	日陰で撮影するときに設定します。
	白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
D	昼光色蛍光灯	それぞれの種類の蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
N	昼白色蛍光灯	
W	白色蛍光灯	
	マニュアル	手動で調整して撮影するときに設定します。



- **AWB**に設定して撮影した画像がお好みの色合いでない場合には、**AWB**以外に設定してください。
- 撮影モードによっては、ホワイトバランスが変更できない場合があります。詳しくは「各撮影モードの機能対応」（p.188）をご覧ください。

1　「 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「ホワイトバランス」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

「ホワイトバランス」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

設定を切り替えるたびに、選んだ色合いで画像モニターが表示されます。
蛍光灯を選択する場合は、蛍光灯が選択されている状態で、十字キー（▶）を押してから十字キー（▲▼）で選びます。



4 OK ボタンを押す

設定が保存されます。

ホワイトバランスの設定を保存する ☞p.110

マニュアルで設定する

あらかじめ、白い紙などホワイトバランスの調整に用いる素材を用意しておきます。

1 「ホワイトバランス」画面で十字キー（▲▼）を押し、⊑を選ぶ

2 調整に用いる素材にレンズを向け、画像モニター中央に表示されている枠の中いっぱいに素材が入るよう、カメラを構える

3 シャッターボタンを全押しする

ホワイトバランスが自動的に調整されます。

4 OK ボタンを押す

設定が保存され、「撮影」メニューに戻ります。

測光方式を設定する

画面のどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。

分割測光	画面内を256分割して明るさを測り、露出を決めます。
中央重点測光	画面の中央に重点を置きつつ、画面全体の明るさを均等に測って露出を決めます。
スポット測光	画面の中央だけの明るさを測り、露出を決めます。

1 「📷撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「測光方式」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で測光方式を選ぶ

4 OKボタンを押す

設定が保存されます。



- シャッターボタンを半押ししたときに測光が行われ、露出が決定されます。
- 画面の中央にない被写体を [•] を利用して適正露出で撮影したいときは、いったん被写体を画面中央に置き、シャッターボタンを半押しして露出を固定してからカメラを動かし、撮りたい構図を決めます。
- 撮影モードによっては、測光方式が変更できない場合があります。詳しくは「各撮影モードの機能対応」（p.188）をご覧ください。

測光方式の設定を保存する ☞p.110

感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて、感度を設定することができます。

AUTO	設定をカメラにまかせます。	
100	↑	感度が低い（数字が小さい）ほど、ノイズの少ない画像が得られます。暗い場所ではシャッタースピードが遅くなります。
200		
400		
800		
1600		感度が高い（数字が大きい）ほど、暗い場所でもシャッタースピードを速くできます。画像にはノイズが増えます。
3200		
6400	↓	

1 「📷撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「感度」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で感度を選ぶ

4 OKボタンを押す

設定が保存されます。



- （高感度）／（グリーン）／（早送り動画）／（動画）／（ハイスピードカメラ）モードに設定されているときは、「AUTO」固定になります。
- （花火）モードに設定されているときは、最低感度に固定されます。
- **M**（マニュアル）モードでは「AUTO」は選択できません。
- D-Range設定の「ハイライト補正」が☑（オン）の場合は、感度100の代わりに200が表示されます。
- 手ぶれ補正（Shake Reduction）を「デュアル」に設定している場合は、感度3200、6400は設定できません。

感度の設定を保存する ☞p.110

感度AUTO調整範囲を設定する

感度で「AUTO」を選択した場合の感度の範囲を設定します。
100-200／100-400／100-800／100-1600／100-3200／100-6400の6種類から選択できます。

1 「撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「感度AUTO調整範囲」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で調整範囲を選ぶ

4 OKボタンを押す

設定が保存されます。



D-Range設定の「ハイライト補正」が☑（オン）の場合は、200-400／200-800／200-1600／200-3200／200-6400の5種類から選択します。

3
撮影

ストロボ光量を補正する

ストロボの光量を調整します。

1 「◘ 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「ストロボ光量補正」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で補正量を選ぶ

明るくする場合は+側に、暗くする場合は－側に設定します。
補正量は、–2.0～+2.0EVの範囲を1/3EV単位で選択できます。

明るさを補正する（D-Range設定）

表現できる階調の幅を広げて白とび・黒つぶれを防ぎます。明るすぎる部分を補正して白とびを防ぐ「ハイライト補正」と、暗すぎる部分を補正して黒つぶれを防ぐ「シャドー補正」があります。

1 「◘ 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「D-Range設定」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「D-Range設定」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「ハイライト補正」／「シャドー補正」を選ぶ

4 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

画像モニターにはD-Range設定のアイコンが表示されます。



DH	「ハイライト補正」が☑に設定されているとき
DS	「シャドー補正」が☑に設定されているとき
D	「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が☑に設定されているとき



「ハイライト補正」を☑に設定すると、最低感度は200になります。

手ぶれ補正を設定する

撮影時の手ぶれを補正します。光学補正のみ（センサーシフト）、もしくは光学補正と電子補正の両方を使って手ぶれを補正できます（デュアル）。初期設定は、センサーシフトです。

センサーシフト	光学式で手ぶれを補正します。
デュアル	光学式、電子式の両方で手ぶれを補正します。
オフ	光学手ぶれ補正も電子手ぶれ補正も行いません。

1　「撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「Shake Reduction」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す。

ポップアップが表示されます。

3　OK ボタンを押す

設定が保存されます。



- （グリーン）モードに設定されているときは、「センサーシフト」固定になります。
- 次の場合は「デュアル」は設定できません。
  - 撮影モードが（花火）／（高感度）／WIDE（デジタルワイド）／（パノラマ）／（フレーム合成）モードのとき
  - 感度が3200／6400のとき
  - ドライブモードが（セルフタイマー）／（連続連写）／（連写L）／（連写H）／（リモコン）／（0s リモコン）／（オートブラケット）のとき
  - ストロボを発光するとき
  - シャッターボタンの半押しを行わずに撮影したとき
- （動画）／（早送り動画）の手ぶれ補正は、Movie SRで設定します（p.109）。
- 「デュアル」に設定した場合、光学式で手ぶれを補正できる場合は、光学式手ぶれ補正が有効になります。

顔検出機能を切り替える

人物の顔を検出してピントや露出を合わせます。被写体が笑顔になると自動で撮影するように設定することもできます。初期設定で「顔検出」は「オン」です。

オン	カメラが人物の顔を検出します。
スマイル	被写体が笑顔になると自動で撮影します。
オフ	カメラが人物の顔を検出しません。

1 「撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「顔検出」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

4 OKボタンを押す

設定が保存されます。
画像モニターには顔検出設定のアイコンが表示されます。

	「顔検出」が「オン」に設定されているとき
	「顔検出」が「スマイル」に設定されているとき



- サングラスなどで被写体の顔の一部がさえぎられている場合や、顔の向きが正面ではない場合は、顔検出AFと顔検出AEが働かないことがあります。
- 被写体の顔が検出できない場合は、選択されているAFエリアでピントを合わせます。
- 顔検出が「スマイル」に設定されている場合、検出した顔が小さすぎるなどの条件によっては笑顔検出機能が働かず、自動で撮影できないことがあります。その場合はシャッターボタンを押すと、撮影されます。
- AUTO PICT（オートピクチャー）／（ポートレート）／（夜景ポートレート）／（キッズ）モードでは、顔検出の「オフ」は選択できません。
- （グリーン）／AUTO PICT（オートピクチャー）／（ポートレート）／（夜景ポートレート）／（キッズ）モードを選択すると、自動的に顔検出が「オン」になります。これらの撮影モードから他の撮影モードに移行すると、元の顔検出機能の設定に戻ります。
- （ペットモード）に設定している場合は、顔検出機能は「オン」に固定されます。
- 動画のときは、撮影前に顔検出を行います。撮影中は枠が表示されません。

まばたき検出を設定する

顔検出機能が働いたときに、まばたき検出を行うかどうかを設定します。

1　「📷 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「まばたき検出」を選ぶ

2　十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　まばたき検出する（初期設定）
□　まばたき検出しない

まばたき検出 ☞p.58



- 撮影時にまばたき検出が行われた場合は、クイックビュー時に「目を閉じていました」と3秒間表示されます。
- **HDR**（HDRフィルター）／WIDE（デジタルワイド）／▮▮▮（パノラマ）／（早送り動画）／（動画）／（ハイスピードカメラ）モードのときは、「まばたき検出」は設定できません。

クイックビューを設定する

撮影直後に画像を表示するクイックビューを表示するかしないかを設定します。

1　「📷 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「クイックビュー」を選ぶ

2　十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　クイックビューを表示する（初期設定）
□　クイックビューを表示しない

クイックビュー ☞p.58

シャープネスを設定する

画像の輪郭をシャープまたはソフトにします。

1 「◘ 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「シャープネス」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）でシャープネスの強さを切り替える

- ソフト
- 標準
- シャープ

彩度／調色を設定する

色の鮮やかさ（彩度）または色の感じ（調色）を設定します。
「◘撮影」メニューの「画像仕上」の設定により、表示される項目が切り替わります。

画像仕上の設定	表示される項目
鮮やか／ナチュラル	彩度
モノトーン	調色

1 「◘ 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「彩度（調色）」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で「彩度」または「調色」を切り替える

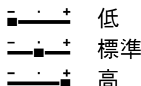
	彩度	調色
−	低	青
・	標準	白黒
＋	高	セピア

コントラストを設定する

画像の明暗差の度合いを設定します。

1 「◘ 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「コントラスト」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）でコントラストの高さを切り替える



低
標準
高

日付写し込みを設定する

静止画撮影時に日付と時刻を写し込むかどうかを設定します。

1 「📷 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「日付写し込み」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で写し込む内容を選ぶ

「日付」／「日付＆時刻」／「時刻」／「オフ」から選びます。

4 OK ボタンを押す

設定が保存されます。

注意

- 「日付写し込み」で画像に写し込んだ日付／時刻は、あとから消去できません。
- 日付／時刻を写し込んだ画像を印刷するときに、画像編集ソフトなどで日付を印刷するように設定すると、日付／時刻が重なって印刷されます。



- 「日付写し込み」を設定すると、静止画撮影モードのときに画像モニターに DATE と表示されます。
- 日付／時刻は、「日時を設定する」（p.39）で設定した表示スタイルで写し込まれます。

超解像処理を設定する

超解像技術を応用した画像処理によって、より解像感のある画像を撮影できます。

1 「📷 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「超解像」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑ 超解像処理をする（初期設定）

□ 超解像処理をしない



- ●（グリーン）モードが設定されているときは、超解像は☑（オン）に固定されます。
- 以下のときは、超解像は□（オフ）固定になります。
  - 撮影モードが（パノラマ）／WIDE（デジタルワイド）／（手持ち夜景）／**HDR**（HDRフィルター）／（ハイスピードカメラ）のとき
  - ドライブモードが（連続撮影）／（連写L）／（連写H）のとき

3

撮影

グリーンボタンを設定する

グリーンボタンに●（グリーン）モード（p.60）または、Fn設定のいずれかの機能を登録します。グリーンボタンを押すだけで、登録されている機能に切り替わります。

グリーンモード	グリーンボタンを押すと、●（グリーン）モードで撮影できます。（初期設定）
Fn設定	グリーンボタンを押すと、十字キー（▲▼◀▶）に割り当てた機能が利用できます。よく使う機能を十字キーに割り当てておくと、撮影時に簡単に設定が変更できます。 **MENU** ボタンを押す前の撮影モードによって、設定できる機能が異なります。 • 静止画撮影モードで **MENU** ボタンを押したとき：静止画撮影時の機能を割り当て • 動画撮影モードで **MENU** ボタンを押したとき：動画撮影時の機能を割り当て

Fn設定の初期設定

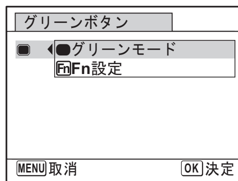
十字キー	静止画撮影時	動画撮影時
▲	記録サイズ	Movie SR
▼	画質	記録サイズ
◀	ホワイトバランス	ホワイトバランス
▶	感度	AFエリア

1 「撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「グリーンボタン」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

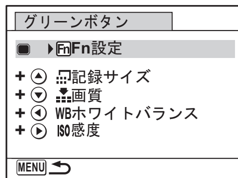
「グリーンボタン」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で登録する機能を選ぶ



- 「グリーンモード」を選んだ場合は、**OK**ボタンを押して設定を保存します。
- 「**Fn**設定」を選んだ場合は、**OK**ボタンを押して**Fn**設定画面を表示します。

4 十字キー（▲▼）で登録するキーを選ぶ



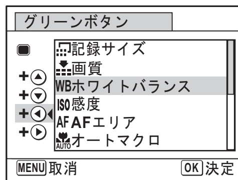
Fn設定画面

5 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6 十字キー（▲▼）で登録する機能を選ぶ

以下の機能が登録できます。



静止画撮影時機能	記録サイズ／画質／ホワイトバランス／感度／AF エリア／オートマクロ／測光方式／ハイライト補正／シャドー補正／シャープネス／彩度 (調色) *1／コントラスト
動画撮影時機能	記録サイズ／Movie SR／ホワイトバランス／AF エリア／シャープネス／彩度（調色）*／コントラスト

*1「📷 撮影」メニューの「画像仕上」の設定が「鮮やか」「ナチュラル」のときは「彩度」、「モノトーン」のときは「調色」が表示されます。

3

撮影

7　OKボタンを押す

設定が保存されます。
他のキーも登録する場合は、手順4～7を繰り返します。



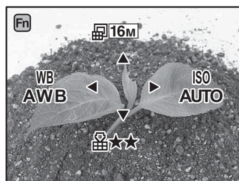
各キーに登録できる機能は、ひとつだけです。

登録した機能の変更方法

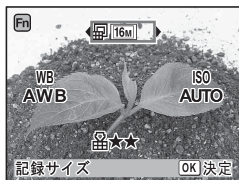
1　モードでグリーンボタンを押す

Fn画面にFn設定で登録した機能が表示されます。
グリーンボタンを押す前の状態が静止画撮影モードか動画撮影モードかによって、表示される機能が異なります。

2　変更したい機能が登録されている十字キー（▲▼◀▶）を選ぶ



3　十字キー（▲▼）または十字キー（◀▶）で設定を変更する



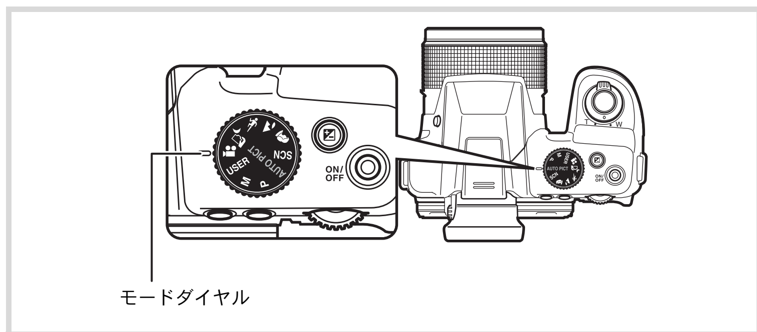
4　OKボタンを押す

設定が保存され、撮影できる状態になります。

3
撮影

動画を撮影する

モードダイヤルの🎥アイコンをダイヤル指標に合わせて、動画モードに切り替えます。



動画モードを選択する

このカメラには3種類の動画モードがあります。用途に合わせて選択してください。

モード	特徴
早送り動画	早送りで再生される動画を撮影します。
🎥 動画	標準スピードで動画を撮影します。
ハイスピードカメラ	スローモーションの動画を再生します。

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

前回選択した動画モードになります。初期設定は🎥（動画）です。

2 十字キー（▼）を押す

動画モードパレットが表示されます。

3 十字キー（◀▶）で動画モードを選択する

動画モードパレットでアイコンを選択すると、選んだ動画モードの説明が表示されます。



動画モードパレット



選択した動画モードの説明を表示しないようにすることができます（p.170）。

4 OKボタンを押す

動画モードが選択され、撮影できる状態になります。
選択した動画モードは保持され、モードダイヤルを🎥に合わせると、選択した動画モードになります。



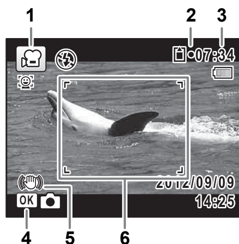
🎥(早送り動画)／🎥(動画)／🎥(ハイスピードカメラ)共通の注意事項

- ストロボは使用できません。
- フォーカスモードは撮影開始前に設定してください。撮影中は変更できません。
- フォーカスモードをMF（マニュアルフォーカス）に設定している場合は、撮影開始前にピントを調整することができます。撮影中は調整できません。
- 動画撮影中は、**DISP** ボタンを使って画像モニターの表示を切り替えることはできません。
- モードダイヤルを🎥に切り替えると、顔検出機能が自動的に「オン」に設定されます。顔検出機能を「スマイル」または「オフ」に設定したい場合は、動画撮影開始前に撮影メニューで設定を変更してください（p.95）。
- 顔検出機能を「スマイル」に設定した場合、フォーカスモードが「標準」または🌷のとき、笑顔を検出すると自動的に動画の撮影を開始します。ただし、検出した顔の条件によってはスマイル機能が働かず、動画の撮影が開始しないことがあります。その場合は、シャッターボタンを押して撮影してください。

動画を撮影する

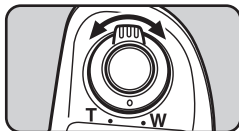
動画を撮影します。音声も同時に記録されます。

1 動画モードパレットから、十字キー（◀▶）で 🎥（動画）を選ぶ



画像モニターに次の情報が表示されます。

1 動画モードアイコン
2 録画中アイコン（録画中に点滅）
3 撮影可能時間
4 静止画撮影可能アイコン（録画中に表示）
表示中に**OK**を押すと、静止画を撮影します。
5 手ぶれ補正アイコン
6 フォーカスフレーム（録画中は表示されません）



ズームレバーを左右に回すと、被写体の写る範囲が変わります。

右（**T**）　被写体を拡大して写す
左（**W**）　被写体を広い範囲で写す

2 シャッターボタンを全押しする

録画が開始されます。
録画は連続で**25**分まで可能です。

動画撮影中の静止画保存機能について

- 動画撮影中に**OK**ボタンを押すと、ボタンを押したときの映像を静止画として記録できます（動画撮影開始時のフォーカス固定、記録サイズ16M固定、**1**回の動画撮影で静止画**3**枚まで）。静止画として切り抜いた画像は、動画撮影終了後に保存されます。
- 動画記録サイズにより、画角が変わる場合があります。
- 撮影条件により、画像がひずむ場合があります。

3 シャッターボタンを全押しする

録画が終了します。

動画を再生する ☞p.113



撮影中のズームはデジタルズームのみ有効です。光学ズーム域で撮影したい場合は、撮影前に操作してください。インテリジェントズームは使用できません。

シャッターボタンを押し続けて撮影する

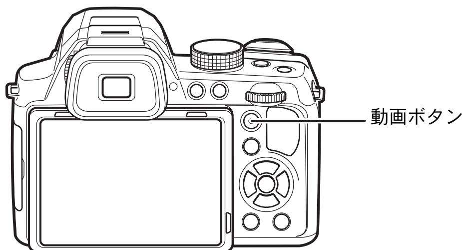
シャッターボタンを1秒以上押し続けると、シャッターボタンを押し続けている間だけ動画が撮影されます。シャッターボタンから指を離すと撮影が終了します。

動画ボタンで簡単に動画を撮影する

このカメラでは、モードダイヤルを 🎥 に合わせなくても、動画ボタンを押すだけで簡単に動画撮影を開始／終了することができます。撮りたいものをすぐに撮影したいときに便利です。



- 動画ボタンは、静止画撮影モードのときのみ有効です。動画モードや ▶ モードでは動画ボタンは使用できません。
- 動画ボタンで撮影しているときは、シャッターボタンは使用できません。



1 動画ボタンを押す

録画が開始されます。

2 動画ボタンを押す

録画が終了します。



- 動画ボタンで撮影した動画は、記録サイズ1920×1080、フレームレート 30fpsで録画されます。
- 動画の記録範囲は、横縦とも撮影開始前の表示画像より狭くなります。

早送り動画を使用する

早送りで再生される動画を撮影します。

1 動画モードパレットから、十字キー（◀▶）で（早送り動画）を選ぶ

2 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

3 シャッターボタンを全押しする

録画が開始されます。録画は連続で25分まで可能です。

4 シャッターボタンを全押しする

録画が終了します。



- 記録サイズ640×480、フレームレート15fpsで録画されます。
- 撮影中はズームは使用できません。

ハイスピードカメラを使用する

スローモーションの動画を再生します。

1 動画モードパレットから、十字キー（◀▶）で（ハイスピードカメラ）を選ぶ

2 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

3 シャッターボタンを全押しする

録画が開始されます。録画は連続で15秒まで可能です。

4 シャッターボタンを全押しする

録画が終了します。



- 記録サイズ640×480、フレームレート120fpsで録画されます。
- 「Movie SR」（手ぶれ補正）は□（オフ）固定になります。

「動画」メニューを設定する

1 動画モードでMENUボタンを押す

「動画」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で設定する項目を選び、設定する

3 設定完了後、MENUボタンを押す

設定が保存され撮影できる状態になります。

動画の記録サイズとフレームレートを選択する

モードでは、動画の記録サイズとフレームレートを選択できます。「記録サイズ」が大きいほど鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが増えます。また、「フレームレート」が大きい方が滑らかな動きになりますが、ファイルサイズが増えます。

設定	記録サイズ	フレームレート	用途
1920 30	1920×1080	30fps	フルハイビジョンサイズ（16：9）で記録されます。動きが滑らかに記録されます。（初期設定）
1280 60	1280×720	60fps	ハイビジョンサイズ（16：9）で記録されます。すばやい動きも滑らかに記録されます。
1280 30	1280×720	30fps	ハイビジョンサイズ（16：9）で記録されます。動きが滑らかに記録されます。
640 30	640×480	30fps	テレビやパソコンの画面で見るときに適しています。動きが滑らかに記録されます。

※ フレームレート（fps）は1秒あたりの画面数を表します。

1 「🎥 動画」メニューから、十字キー（▲▼）で「記録サイズ」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で記録サイズとフレームレートを選ぶ

4 OK ボタンを押す

設定が保存されます。

動画の手ぶれ補正を設定する（Movie SR）

🎥（動画）／🎞（早送り動画）では、Movie SR（動画手ぶれ補正）で動画撮影中の手ぶれを補正することができます。

1 「🎥 動画」メニューから、十字キー（▲▼）で「Movie SR」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　手ぶれを補正する（初期設定）
□　手ぶれを補正しない

設定が保存されます。

動画撮影時の風切音を低減する（風切音低減）

風切音を低減して録音します。

1 「🎥 動画」メニューから、十字キー（▲▼）で「風切音低減」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　風切音を低減します
□　風切音低減を設定しない（初期設定）

設定を保存する（モードメモリ）

カメラの電源を切っても、カメラの設定を記憶しておく機能を「モードメモリ」と呼びます。
撮影のための設定には、モードメモリが常にオンのもの（電源を切っても常に設定を記憶するもの）と、モードメモリのオン／オフが選べるもの（電源を切ったときに設定を記憶するかどうかを選べるもの）があります。モードメモリのオン／オフが選べる項目を表に示します（ここに示した項目以外は、電源を切っても常に設定が保存されます）。
☑（オン）を選ぶと、電源を切る直前の設定状態が保存されます。□（オフ）を選ぶと、電源を切ったときにその項目の設定が工場出荷時の状態に戻ります。表では、モードメモリの初期設定がオンかオフかも示しています。

項目	内容	初期設定	参照
顔検出モード	「📷撮影」メニューの「顔検出」の設定	□	p.59
ストロボモード	十字キー（◀）で設定したストロボモード	☑	p.79
ドライブモード	十字キー（▲）で設定したドライブモード	□	p.81
フォーカスモード	十字キー（▶）で設定したフォーカスモード	□	p.83
ズーム位置	ズームレバーで設定したズーム位置	□	p.61
MF位置	十字キー（▲▼）で設定したマニュアルフォーカスでのピントの合う距離	□	p.83
ホワイトバランス	「📷撮影」メニューの「ホワイトバランス」の設定	□	p.90
感度	「📷撮影」メニューの「感度」で設定した値	□	p.92
露出補正	露出補正で設定した値	□	p.64
測光方式	「📷撮影」メニューの「測光方式」の設定	□	p.91
デジタルズーム	「📷撮影」メニューの「デジタルズーム」の設定	☑	p.63
DISPLAY	**DISP** ボタンで選択した画像モニターの情報表示状態	□	p.20
ファイルNo.	☑（オン）にすると、SDメモリーカードを入れ替えた場合でも連続したファイル番号を使用	☑	—

1 **「📷 撮影」メニューから、十字キー（▲▼）で「モードメモリ」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

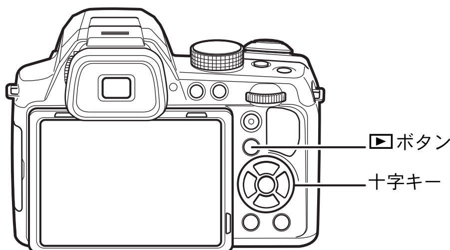
「モードメモリ」画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で項目を選ぶ**

4 **十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える**

再生する

静止画を再生する



1　撮影後に▶ボタンを押す

▶モードになり、撮影した画像が画像モニターに表示されます（1画面表示）。



2　十字キー（◀▶）を押す

前後の画像が表示されます。

表示した画像を消去する

画像表示中に🗑ボタンを押すと、表示中の画像を消去する画面が表示されます。十字キー（▲）を押して「消去」を選び**OK**ボタンを押すと、表示中の画像を消去できます。

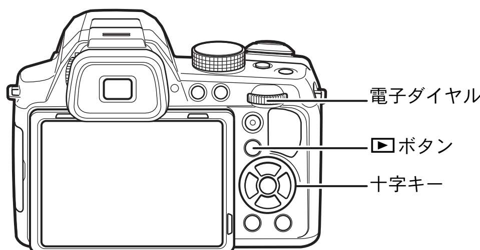


その他の消去のしかた ☞p.122

4 画像の再生と消去

動画を再生する

動画を再生します。動画再生時には、音声も同時に再生されます。



1 モードで十字キー（◀▶）を押し、再生したい動画を選ぶ

2 十字キー（▲）を押す

再生が開始します。



再生中にできる操作

電子ダイヤル 右（Q）	音量を大きくする
電子ダイヤル 左（⊞）	音量を小さくする
十字キー（▲）	一時停止
十字キー（▶）長押し	押している間、早送り再生
十字キー（◀）長押し	押している間、早戻し再生

一時停止中にできる操作

十字キー（▲）	再生を再開
十字キー（▶）	コマ送り
十字キー（◀）	コマ戻し*1

*1 コマ戻しで戻るコマの位置は、30コマごとの先頭のコマになります。例えば、1～31コマ目からコマ戻しした場合は1コマ目に、32～61コマ目からは31コマ目に戻ります。

3 十字キー（▼）を押す

再生が停止します。

複数の画像を表示する

4画面表示／9画面表示

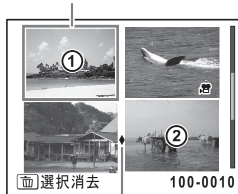
複数の画像を同時に4枚または9枚ずつ画像モニターに表示します。

1 ▶モードで電子ダイヤルを左（⊞）に回す

4画面表示になり、画像が4コマずつ1ページに表示されます。もう一度電子ダイヤルを左（⊞）に回すと、9画面表示になります。

画像は4コマまたは9コマずつ1ページに表示され、ページ単位で表示される画像が切り替わります。
十字キー（▲▼◀▶）で選択枠が移動します。1ページに表示されていない画像がある場合は、①の画像を選択しているときに十字キー（▲◀）を押すと前のページが表示され、②の画像を選択しているときに十字キー（▼▶）を押すと次のページが表示されます。
◆はその前後の画面が、別のフォルダーに格納されていることを示しています。

4画面表示



9画面表示



画像に表示される記号の意味は次のとおりです。

(無印)	静止画
🎥	動画（1コマ目の画像を表示）
🎥▶▶	早送り動画（1コマ目の画像を表示）
🎥HS	ハイスピードカメラ（1コマ目の画像を表示）

OK ボタンを押すと、選択した画像の1画面表示に切り替わります。
▶ボタンを押すと、📷モードに切り替わります。

フォルダー表示／カレンダー表示

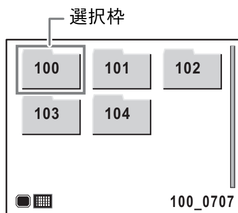
9画面表示で電子ダイヤルを左（⊞）に回すと、フォルダー表示またはカレンダー表示に切り替わります。フォルダー表示とカレンダー表示は、グリーンボタンで切り替えます。

1 ▶モードで電子ダイヤルを左（⊞）に3回回す

画面がフォルダー表示またはカレンダー表示に切り替わります。

フォルダー表示

画像が記録されているフォルダーが一覧表示されます。



十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
電子ダイヤル右（🔍）／**OK**ボタン	フォルダー内の画像を9画面表示
MENUボタン	9画面表示に戻る
グリーンボタン	カレンダー表示に切り替え

カレンダー表示

画像が日付ごとにカレンダー形式で表示されます。
カレンダーには、各日付で撮影された最初の画像が表示されます。



十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
電子ダイヤル右（🔍）	その日付で撮影した画像を9画面表示
OKボタン	その日付で最初に撮影した画像を1画面表示
MENUボタン	9画面表示に戻る
グリーンボタン	フォルダー表示に切り替え

再生機能を使う

1 ▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でアイコンを選ぶ

選択した機能の説明が下に表示されます。



3 OKボタンを押す

再生機能が呼び出されます。



選択した機能の説明を表示しないようにすることができます（p.170）。

再生モードパレット一覧

再生モード		内容	参照
スライドショウ		撮影した画像を連続で再生します。切り替わりの画面効果や効果音の設定もできます。	p.118
画像回転		撮影した画像を回転させます。縦位置写真をTVなどで見る際に便利です。	p.120
のび～るフィルター		4：3の画像の一部を横に伸ばして16：9の画像として保存します。	p.133
小顔フィルター		検出した顔が小さくなるように画像を加工します。	p.134
コラージュ		撮影した複数の画像を1枚の画像にします。	p.139
デジタルフィルター		撮影した画像にカラーフィルターやソフトフィルターなどをかけて仕上げます。	p.135
HDR HDRフィルター		ハイダイナミックレンジ画像のような加工をします。	p.138
フレーム合成		撮影した画像にフレームを付けて保存します。上書きまたは新規保存が選べます。	p.143
動画編集	静止画保存	動画の1コマを静止画として保存します。	p.146
	動画分割	1つの動画を2つに分割します。	
	タイトル画像追加	動画にタイトル画像を追加します。	
赤目補正		赤目になった画像を修正します。元画像によっては正しく補正できない場合があります。	p.142
リサイズ		撮影した画像の記録サイズと画質を変更して、ファイルサイズを小さくします。	p.131
トリミング		画像の不要な部分を削除して好みの大きさに変更します。新規保存されます。	p.132
画像コピー		内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像のファイルをコピーします。	p.149
プロテクト		消したくない画像を保護します。ただしフォーマットを行うと、消去されます。	p.124
DPOF		撮影した画像の印刷設定をします。お店でプリントする際に便利です。	p.151
起動画面設定		撮影した画像をカメラの起動時に表示するよう設定します。	p.171

スライドショウで連続再生する

保存されている画像を連続して再生します。

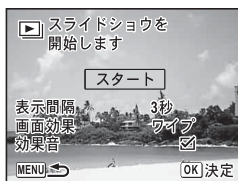
1 **▶モードで十字キー（◀▶）を押し、スライドショウを開始する画像を選ぶ**

2 **再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で▶（スライドショウ）を選ぶ**

3 **OKボタンを押す**

スライドショウの設定画面が表示されます。

4 **十字キー（▲▼）で「スタート」を選ぶ**



5 **OKボタンを押す**

スライドショウが始まります。
スライドショウの途中で**OK**ボタンを押すと、一時停止します。もう一度**OK**ボタンを押すと再開します。

6 **OKボタン以外のどれかのボタンを押す**

スライドショウが終了します。

スライドショウの条件を設定する

再生時の表示間隔と画像切り替え時の画面効果・効果音を設定します。

1 **p.118の手順4の画面で十字キー（▲▼）を押し、「表示間隔」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で表示間隔を選び、OKボタンを押す

「3秒」／「5秒」／「10秒」／「20秒」／「30秒」から選択します。

4 十字キー(▲▼)で「画面効果」を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6 十字キー(▲▼)で画面効果を選び、OKボタンを押す

ワイプ	左から右へ画面が流れる効果
チェッカー	小さな四角のモザイク状のブロックで画面が切り替わる効果
フェード	現在の画像が徐々に消え、そこに次の画像が浮かび上がってくる効果
ランダム	さまざまな効果をランダムに
オフ	切り替え効果なし

7 十字キー（▲▼）で「効果音」を選ぶ

8 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

画面効果を「オフ」または「ランダム」以外に設定すると、画面が切り替わるときに流れる音のオン／オフを切り替えることができます。

9 十字キー（▲▼）で「スタート」を選び、OKボタンを押す

設定した表示間隔と画面効果でスライドショウが始まります。



- スライドショウは、OKボタン以外のどれかのボタンを押して終了するまで何度も繰り返します。
- 動画は表示間隔の設定にかかわらず、すべて再生されてから次の画像に移ります。ただし、動画の再生中に十字キー（▶）を押すと、すぐに次の画像へ移ります。
- 画面効果を「ランダム」に設定したときには、表示間隔は固定され、効果音も□（オフ）になります。
- スライドショウの再生にパノラマ画像が含まれる場合は、パノラマ画像は表示間隔や画面効果の設定にかかわらず、4秒間かけて左から右へスライド表示されます。

AV機器と接続する ☞p.127

画像を回転表示する

1 撮影後に▶ボタンを押す

撮影した画像が画像モニターに表示されます。

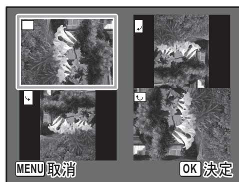
2 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で◇（画像回転）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

回転方向を4種類（0°／右90°／左90°／180°）から選ぶ画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で回転方向を選び、OK ボタンを押す

回転した状態で画像が保存されます。





- パノラマ撮影された画像や動画は、回転表示できません。
- プロテクトされた画像は、回転表示はできますが、回転された状態は保存されません。

再生画像を拡大する

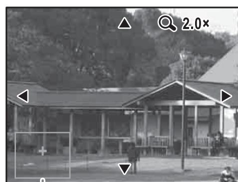
画像を再生するときに、最大10倍まで拡大表示できます。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、拡大表示したい画像を選ぶ

2 電子ダイヤルを右（Q）に回す、またはズームレバーを右（T）に回す。

画像が大きく（1.1～10倍）表示されます。
電子ダイヤルを右（Q）に回すたびに連続的に大きさが変わります。
ズームレバーは、右（**T**）に回して保持すると連続的に大きさが変わります。

画像のどの部分を拡大しているかを画面左下のガイド表示の＋マークで確認できます。



ガイド表示

拡大表示中にできる操作

十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動する
電子ダイヤル右（Q）／ズームレバー右（**T**）	画像を拡大する（最大10倍まで）
電子ダイヤル左（⊞）／ズームレバー左（**W**）	画像を縮小する（最小1.1倍まで）

3 OKボタンを押す

1画面表示に戻ります。



- 「クイック拡大」（p.170）を☑（オン）に設定していると、電子ダイヤルを右（Q）に1回、またはズームレバーを右（**T**）に1回回すだけで10倍に拡大します。
- 動画は拡大表示できません。

4 画像の再生と消去

消去する

失敗したり、不要になった画像を消去します。

1画像ずつ消去する

1画像ずつ消去します。

注意 プロテクトされている画像は消去できません（p.124）。

1 **▶モードで十字キー（◀▶）を押し、消去したい画像を選ぶ**

2 **🗑ボタンを押す**

消去を確認する画面が表示されます。

3 **十字キー（▲）で「消去」を選ぶ**



4 **OKボタンを押す**

消去されます。

選択して消去する

4画面表示／9画面表示で複数の画像を選択し、まとめて削除します。

注意 プロテクトされている画像は消去できません（p.124）。

1 **▶モードで電子ダイヤルを左（⊞）に1回、または2回回す**

4画面表示または9画面表示になります。

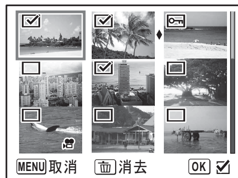
2 🗑ボタンを押す

画像に選択枠が表示されます。



3 十字キー（▲▼◀▶）で削除する画像に移動し、OKボタンを押す

画像が選択され、☑が表示されます。
電子ダイヤルを右（🔍）に回すと、選択した画像が1画面表示され、削除したい画像かどうかを確認できます（左に回すと、4画面表示／9画面表示に戻ります）。ただし、プロテクトされた画像は1画面表示できません。



4 🗑ボタンを押す

消去を確認する画面が表示されます。

5 十字キー（▲）で「選択消去」を選ぶ



6 OKボタンを押す

選択した画像が消去されます。

まとめて消去する

保存されているすべての画像を消去します。

注意 プロテクトされている画像は消去できません（p.124）。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

2 十字キー（▲▼）で「全画像消去」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「全画像消去」画面が表示されます。

4 十字キー（▲）で「全画像消去」を選ぶ

5 OKボタンを押す

すべての画像が消去されます。

消去できないようにする（プロテクト）

記録した画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）します。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、プロテクトする画像を選ぶ

2 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）でO━π（プロテクト）を選ぶ

3 OKボタンを押す

1画像／全画像を選択する画面が表示されます。

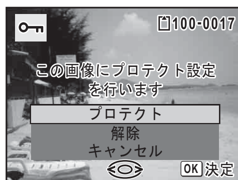
4 十字キー（▲▼）で「1画像」を選ぶ



5 OKボタンを押す

「この画像にプロテクト設定を行います」とメッセージが表示されます。
別の画像をプロテクトする場合は、十字キー（◀▶）で画像を選びます。

6 十字キー（▲▼）で「プロテクト」を選ぶ



7 OKボタンを押す

選択した画像がプロテクトされ、手順4の画面に戻ります。
他の画像をプロテクトする場合は、手順4～7を繰り返します。終了する場合は「キャンセル」を選びます。



- プロテクトを解除するときは、手順6で「解除」を選びます。
- プロテクトされている画像には、再生時に🔑が表示されます。
- 「1画像」で続けてプロテクトできる画像は99個までです。

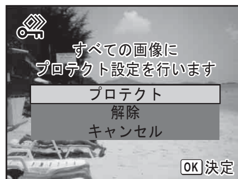
すべての画像をプロテクトするには

1 p.124の手順4で「全画像」を選ぶ



2 OKボタンを押す

3 十字キー（▲▼）で「プロテクト」を選ぶ



4 OK ボタンを押す

すべての画像がプロテクトされ、手順1の画面に戻ります。

5 十字キー（▲▼）で「キャンセル」を選び、OK ボタンを押す

再生モードパレットに戻ります。



SDメモリーカード／内蔵メモリーをフォーマットすると、プロテクトされている画像も消去されます（p.154）。

メモ

手順3で「解除」を選ぶと、すべての画像のプロテクト設定が解除されます。

4 画像の再生と消去

AV機器と接続する

ビデオ端子またはHDMI端子を備えたテレビなどと接続し、画像を再生することができます。



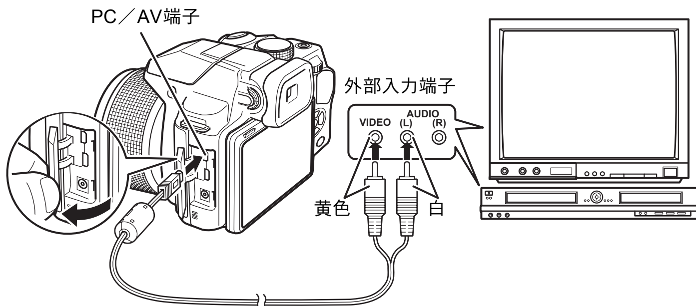
- 長時間使用するときは、ACアダプターキットK-AC129（別売）のご使用をお勧めします（p.30）。
- 複数の映像入力端子があるAV機器で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続する映像入力端子を選択してください。
- ビデオ出力とHDMI出力を同時に行うことはできません。
- AV機器と接続した場合、カメラで音量調節はできません。AV機器側で音量を調節してください。

ビデオ端子に接続する

別売のAVケーブル（I-AVC7）を使用し、ビデオ入力端子を備えた機器に接続します。

1 AV機器とカメラの電源を切る

2 カメラの端子カバーを開き、AVケーブルの矢印をカメラの▲印の方向に向け、PC/AV端子に接続する



3 AVケーブルのもう一方の端子を、AV機器の映像入力端子に接続する

ステレオ音声の機器に接続するときは、音声端子をL（白）に差し込んでください。

4 AV機器の電源を入れる

カメラを接続した機器と画像を映し出す機器が別の場合は、両方の電源を入れます。
複数の映像入力端子があるAV機器（テレビなど）で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続している映像入力端子を選択してください。

5 カメラの電源を入れる



- ビデオ出力方式は地域によって異なります。「ワールドタイム」(p.158)を✈（目的地）に切り替えると、その都市の出力方式に切り替わります。日本国内では、NTSC方式です。
- 国や地域によってはビデオ出力方式が初期設定（「NTSC」）になっていると画像や音声を再生できない場合があります。その場合は、出力方式を「PAL」に切り替えてください（p.166）。
- AV 機器に接続している間は、カメラの画像モニターは表示されません。また、カメラのズームレバーで音量調整はできません。

注意

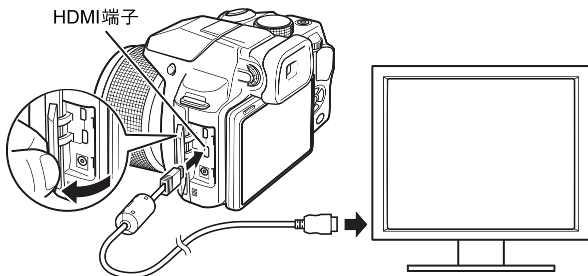
AV機器と接続して再生した場合は、通常の解像度で出力されます。1920 30や1920 30、1280 30で撮影した動画をハイビジョンで見たいときは、パソコンへ転送して再生してください（p.176）。

HDMI端子に接続する

市販のHDMIケーブルを使用し、HDMI端子を備えた機器に接続します。

1 AV機器とカメラの電源を切る

2 カメラの端子カバーを開き、HDMIケーブルをHDMI端子に接続する



3 HDMIケーブルのもう一方の端子を、AV機器のHDMI入力端子に接続する

4 AV機器とカメラの電源を入れる

AV機器にカメラの情報が表示されます。



- カメラのHDMI端子はタイプD（Micro）です。ご使用の機器に合った市販のHDMIケーブルをご用意ください。
- HDMI出力中は、カメラの画像モニターは表示されません。
- HDMI端子の出力信号方式の初期設定は､「オート」に設定されています。接続しているAV機器やカメラが対応する最大サイズで表示されます。AV機器、カメラの出力方式に合わせて設定を変更することもできます（p.166）。
- HDMI 端子の出力信号方式を「1080i」または「720p」に設定した場合、接続しているAV機器やカメラでは16：9の縦横比で表示されます。このカメラで表示する縦横比と異なるため見えかたに差がでます。

編集する

画像のサイズを変更する（リサイズ）

選択した画像の記録サイズと画質を変更して、元の画像よりもファイルサイズを小さくすることができます。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになって撮影できなくなったとき、画像をリサイズして上書きすれば、空き容量が増え、続けて撮影ができます。

注意
- 記録サイズが12M 1:1／640で撮影された画像、またはパノラマ撮影された画像や動画はリサイズできません。
- 元の画像よりも大きいサイズ／高い画質（★が多い画質）は選択できません。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、リサイズする画像を選ぶ

2 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で（リサイズ）を選ぶ

3 OKボタンを押す

記録サイズを選択する画面が表示されます。

4 「記録サイズ」と「画質」を選択する

それぞれ、十字キー（◀▶）で選択します。
「記録サイズ」と「画質」の切り替えは、十字キー（▲▼）で行います。



5 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

6 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

7 OKボタンを押す

リサイズされた画像が保存されます。

画像をトリミングする

画像周囲の不要な部分をカットして、別の画像として保存します。

注意 記録サイズが12M 1:1／640で撮影された画像、またはパノラマ撮影された画像や動画はトリミングできません。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、トリミングする画像を選ぶ

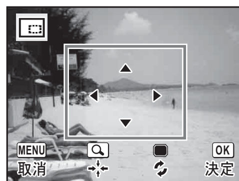
2 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で⬚（トリミング）を選ぶ

3 OKボタンを押す

トリミングを行う画面が表示されます。
画面にはトリミングできる最大の範囲が緑の枠で表示されます。この範囲を越えてトリミングはできません。

4 トリミング範囲を決める

以下の操作で緑の枠を動かして、画面のどの部分をトリミングするか決めます。



電子ダイヤル	トリミングサイズの変更
十字キー（▲▼◀▶）	トリミング位置の移動
グリーンボタン	トリミング範囲の回転 • 回転できるサイズのときだけボタンが表示されます。

5 画像の編集と印刷

5 OK ボタンを押す

トリミングされた画像が新しいファイル名で保存されます。
トリミング後の記録サイズは、トリミングサイズに応じて自動的に設定されます。

画像の一部を左右に伸ばす（のび～るフィルター）

4：3の画像の一部を横に伸ばして16：9の画像として保存します。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、編集する画像を選ぶ

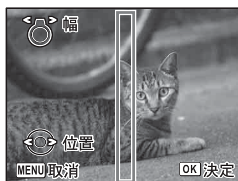
2 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で⇔（のび～るフィルター）を選ぶ

3 OKボタンを押す

「引き伸ばす位置と幅を指定してください」のメッセージが表示された後、引き伸ばす位置と幅を調整する画面が表示されます。

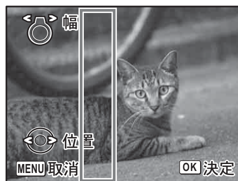
4 十字キー（◀▶）で　引き伸ばす位置を左右に移動させる

◀キー	引き伸ばし位置が左へ動く
▶キー	引き伸ばし位置が右へ動く



5 ズームレバーを左右に回して引き伸ばす幅を調整する

左（**W**）	引き伸ばす幅が狭くなる
右（**T**）	引き伸ばす幅が広くなる



6 OK ボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

8 OKボタンを押す

加工された画像が保存されます。
新しい画像の記録サイズは、元の画像が16Mのときは12M 16:9に、7Mのときは5M 16:9に、5Mのときは4M 16:9に、それ以下のときは2M 16:9となります。



顔が小さく見えるように加工する

撮影時に顔検出機能（p.95）で検出された人物の顔を小さく見えるように加工します。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、編集する画像を選ぶ

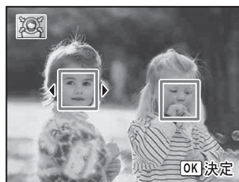
2 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で（小顔フィルター）を選ぶ

3 OKボタンを押す

補正できる顔に顔検出枠が表示されます。
検出枠が1つのみの場合は、手順6に進みます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で加工する顔を選択する

緑色の枠が加工の対象となる顔です。



5 OKボタンを押す

6 十字キー（◀▶）で縮小率を切り替える

■—·—+	約5%
—■—+	約7%
—·—■	約10%



5
画像の編集と印刷

7 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

8 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

9 OKボタンを押す

▶モードに戻り、加工した画像が表示されます。

注意
以下の場合は、加工できないことがあります。
- 画像に対して顔の占める割合が大きすぎる、または小さすぎる
- 顔の位置が、画像の中心から外れている

デジタルフィルターを使う

選択した画像の色調を変えたり、特殊な加工を施します。

白黒	白黒写真のような画像に加工します。
セピア	セピア写真のような画像に加工します。
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像に加工します。
レトロ	古い写真のような画像に加工します。
カラー	選択したカラーフィルターをかけた画像にします。赤／桃／紫／青／緑／黄の6種類のフィルターがあります。
色抽出	特定の色だけを抽出し、他の部分を白黒に加工します。赤／緑／青の3種類のフィルターがあります。
色強調	青空／新緑／花見／紅葉の色彩を強調します。
ハイコントラスト	撮った写真のコントラストを調整します。
ソフト	全体をぼかしたようなやわらかい画像に加工します。
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような画像にします。
明るさ	明るさを調整します。
ミニチュア	画像のボケ具合を操作してミニチュア風の写真に加工します。

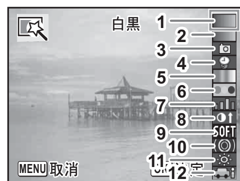
注意
パノラマ撮影された画像や動画、他のカメラで撮影した画像は、デジタルフィルターで加工できません。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、編集する画像を選ぶ

2 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で（デジタルフィルター）を選ぶ

3 OKボタンを押す

フィルターを選択する画面が表示されます。



1 白黒
2 セピア
3 トイカメラ
4 レトロ
5 カラー
6 色抽出
7 色強調
8 ハイコントラスト
9 ソフト
10 フィッシュアイ
11 明るさ
12 ミニチュア

選択するフィルターによって、以下に進んでください。

白黒／セピア／ソフトの場合

4 十字キー（▲▼）でフィルターを選ぶ

フィルターに応じた加工結果がプレビュー表示されます。

5 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

6 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

7 OKボタンを押す

フィルターで加工された画像が保存されます。

レトロ／カラー／色抽出／色強調の場合

4　十字キー（▲▼）でフィルターを選ぶ

フィルターに応じた加工結果がプレビュー表示されます。

5　十字キー（◀▶）で色を選択する

十字キー（▶）を押すたびに、次のように色が切り替わります。

レトロ	元画像→アンバー→ブルー
カラー	赤→桃→紫→青→緑→黄
色抽出	赤→緑→青
色強調	青空→新緑→花見→紅葉

6　OK ボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

7　十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

8　OK ボタンを押す

フィルターで加工された画像が保存されます。

トイカメラ／ハイコントラスト／フィッシュアイ／明るさ／ミニチュアの場合

4　十字キー（▲▼）でフィルターを選ぶ

フィルターに応じた加工結果がプレビュー表示されます。

5　十字キー（◀▶）で効果を調整する

	十字キー（◀）	初期設定	十字キー（▶）
トイカメラ	弱	標準	強
ハイコントラスト	弱	標準	強
フィッシュアイ	弱	中	強
明るさ	暗い	標準	明るい
ミニチュア	上部をぼかす	上下をぼかす	下部をぼかす

6 OK ボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

7 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

8 OK ボタンを押す

フィルターで加工された画像が保存されます。

HDRフィルターで加工する

画像の中の明るすぎたり暗すぎたりする部分を調整して、ハイダイナミックレンジ画像のような加工をします。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、編集する画像を選ぶ

2 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で HDR（HDRフィルター）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

加工結果がプレビュー表示されます。

4 OK ボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

5 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

6 OK ボタンを押す

加工された画像が保存されます。

コラージュ画像を作成する

複数の撮影済み画像をレイアウトパターンに配置して、1つのコラージュ画像を作ります。

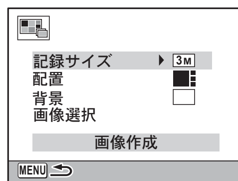
注意

（パノラマ）モードで撮影された画像や記録サイズが12M 1:1、1024、640で撮影された画像、または動画、他のカメラで撮影された画像はレイアウト編集できません。

1 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で（コラージュ）を選ぶ

2 OKボタンを押す

項目選択画面が表示されます。



記録サイズを選ぶ

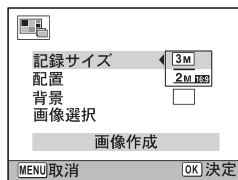
3 十字キー（▲▼）で「記録サイズ」を選ぶ

4 OKボタンまたは十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

5 十字キー（▲▼）で記録サイズを選ぶ

3Mと2M 16:9から選びます。



6 OKボタンを押す

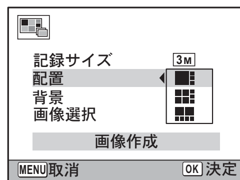
設定が保存され項目選択画面に戻ります。

レイアウトパターンを選ぶ

7 十字キー（▲▼）で「配置」を選ぶ

8 OK ボタンまたは十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。



9 十字キー（▲▼）でレイアウトパターンを選ぶ

■⁞／■■⁞／■■の3種類のレイアウトから選びます。

10 OK ボタンを押す

設定が保存され項目選択画面に戻ります。

背景を選ぶ

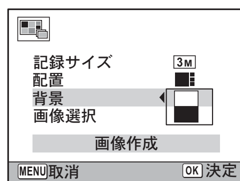
11 十字キー（▲▼）で「背景」を選ぶ

12 OK ボタンまたは十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

13 十字キー（▲▼）で背景を選ぶ

白い背景か黒い背景を選びます。



14 OK ボタンを押す

設定が保存され項目選択画面に戻ります。

画像を配置する

注意
- パノラマ撮影された画像や記録サイズが12M 1:1、1024、640で撮影された画像、または動画、他のカメラで撮影された画像はレイアウト編集できないため、選択候補として表示されません。
- アスペクト比16：9の画像を選択した場合、選択した各画像の上下に黒い帯が表示されます。

15 十字キー（▲▼）で「画像選択」を選ぶ

16 OK ボタンまたは十字キー（▶）を押す

選択可能な画像が表示されます。

17 十字キー（◀▶）でレイアウトする画像を選び、OK ボタンを押す

画像モニター左上に表示されるガイドでハイライト表示されている位置に、選択した画像が配置されます。



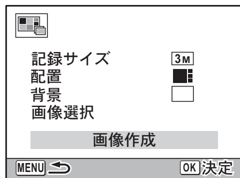
18 手順 17 を繰り返してレイアウトで指定されている枚数分配置する

19 グリーンボタンを押す

項目選択画面に戻ります。

レイアウト編集した画像を保存する

20 十字キー（▲▼）で「画像作成」を選ぶ



21 OK ボタンを押す

保存するか確認する画面が表示されます。

22 十字キー（▲）で「保存」を選ぶ

23 OKボタンを押す

レイアウト編集した画像が保存されます。



保存された画像の画質は★★★ (S.ファイン)になります。

赤目を補正する

ストロボ撮影で人物の目が赤く写った画像を補正します。



赤目補正できるのは、このカメラで撮影した静止画のみです。パノラマ撮影された画像や動画、他のカメラで撮影した画像、およびカメラ側で赤目が特定できなかった画像は赤目補正できません。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、赤目補正する画像を選ぶ

2 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で（赤目補正）を選ぶ

3 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

4 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

5 OKボタンを押す

赤目補正された画像が保存されます。

フレームを合成する

撮影した静止画に、フレーム（飾り枠）を合成します。あらかじめ3種類のフレームが登録されています。

注意

記録サイズが 12M 16:9 ／ 12M 1:1 ／ 5M 16:9 ／ 4M 16:9 ／ 2M 16:9 で撮影された画像、4：3で 3M より小さいサイズの画像、またはパノラマ撮影された画像や動画はフレームを合成できません。

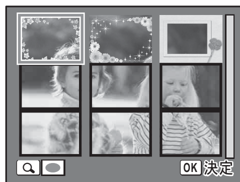
1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、フレーム合成する画像を選ぶ

2 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で ◯（フレーム合成）を選ぶ

3 OKボタンを押す

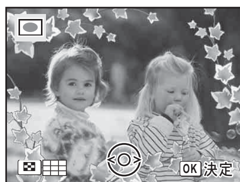
フレーム選択の9分割画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で使用するフレームを選ぶ



5 電子ダイヤルを右（Q）に回す

選んだフレームが1画面表示されます。
フレームは次の方法で選び直すことができます。



十字キー（◀▶）	別のフレームを選択
電子ダイヤル左（⊞）	フレーム選択の9分割画面に戻り、手順4と同様の操作で別のフレームを選択

5 画像の編集と印刷

6 OKボタンを押す

画像の位置調整と拡大／縮小を行う画面が表示されます。
次の方法で調整ができます。



十字キー（▲▼◀▶）	画像の位置を調整
電子ダイヤル	画像の拡大／縮小

7 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

8 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

9 OKボタンを押す

フレームが合成された画像が、3M の記録サイズで保存されます。

オプションのフレーム画像について
このカメラに内蔵されているフレームのほか、付属のCD-ROMにオプションフレームが収録されています。オプションフレームは内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに登録できます。内蔵メモリーに登録する場合は、SDメモリーカードを取り出してから操作してください。

フレーム画像のコピーのしかた

1 付属のUSBケーブルでパソコンとカメラを接続する
接続のしかたは、「パソコンと接続する」(p.175)をご覧ください。

2 パソコンにデバイス検出の画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックする

3 CD-ROMをパソコンにセットする

4 インストール画面が表示されたら、「EXIT」をクリックする

5 CD-ROM のルートディレクトリにある FRAME フォルダーから、コピーしたいファイルをカメラ(リムーバブルディスク)のFRAMEフォルダーにコピーする
パソコンのファイル操作については、お使いのパソコンの説明書などをご覧ください。

6 パソコンとカメラからUSBケーブルを外す
「パソコンと接続する」(p.175)を参考にしてください。

- 内蔵メモリーとSDメモリーカードの両方にフレームを登録できますが、数が多くなると処理に時間がかかる場合があります。

新しく入手したフレームを使う

ペンタックスのホームページなどから入手したフレームを合成することもできます。



- ダウンロードしたフレームは、解凍して内蔵メモリーやSDメモリーカードのFRAMEフォルダーにコピーしてください。
- FRAMEフォルダーは、SDメモリーカードをこのカメラでフォーマットすると作成されます。
- ダウンロードの手順などの詳細は、当社ホームページをご覧ください。

動画を編集する

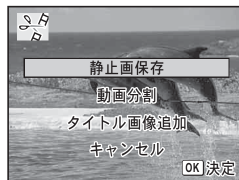
撮影した動画中のひとコマを切り出して静止画として保存したり、動画を分割したり、動画に静止画のタイトル画像を入れたりすることができます。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、編集する動画を選ぶ

2 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で✂（動画編集）を選ぶ

3 OKボタンを押す

編集方法を選択する画面が表示されます。
編集方法によって、以下に進んでください。



動画の1コマを静止画として保存する

4 編集方法を選択する画面で「静止画保存」を選ぶ

5 OKボタンを押す

静止画として保存するコマを選択する画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼◀▶）で保存するコマを選ぶ



- ▲　再生／一時停止
- ▼　停止して最初のコマに戻る
- ◀　コマ戻し*1
- ▶　コマ送り

*1 コマ戻しで戻るコマの位置は、30 コマごとの先頭のコマになります。例えば、1～31コマ目からコマ戻しした場合は1コマ目に、32～61コマ目からは31コマ目に戻ります。

7 OKボタンを押す

選択したコマが静止画として保存されます。

動画を分割する

4 編集方法を選択する画面で「動画分割」を選ぶ

5 OKボタンを押す

分割位置を選択する画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼◀▶）で分割位置を決める

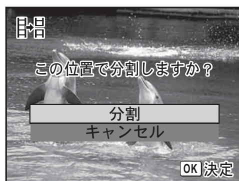


- ▲　再生／一時停止
- ▼　停止して最初のコマに戻る
- ◀　コマ戻し
- ▶　コマ送り

7 OKボタンを押す

分割位置を確認する画面が表示されます。

8 十字キー（▲▼）で「分割」を選ぶ



9 OK ボタンを押す

指定位置で分割された動画がそれぞれ新しいファイル名で保存され、元の動画は削除されます。



プロテクトされている動画は分割できません。

メモ

- 分割できるのは、2秒（31コマ）以上の動画です。
- 分割位置は、30コマ単位（31、61、91・・・コマ目）での選択になります。

動画にタイトル画像を入れる

4 編集方法を選択する画面で「タイトル画像追加」を選ぶ

5 OK ボタンを押す

タイトル画像を選択する画面が表示されます。

6 十字キー（◄►）でタイトル画像を選ぶ

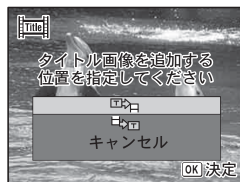
タイトル画像に設定できる画像だけが表示されます。

7 OK ボタンを押す

タイトル画像の位置を確認する画面が表示されます。

8 十字キー（▲▼）で「位置」を選ぶ

- 動画の前にタイトル画像を入れる
- 動画の後ろにタイトル画像を入れる



9 OK ボタンを押す

選択した静止画がタイトル画像として保存されます。

注意

- プロテクトされている動画には、タイトル画像は入れられません。
- タイトル画像追加後の動画ファイルが26分以上となる場合には、タイトル画像を追加できません。



- 動画の前にタイトル画像を入れた場合: 動画再生時には、静止画が3秒間再生され、そのあとで動画が再生されます。サムネイルは登録した静止画が使用されます。
  動画の後ろにタイトル画像を入れた場合: 動画再生時には、動画が再生され、そのあとで静止画が3秒間再生されます。サムネイルは元の動画のサムネイルが使用されます。
- 静止画は、動画サイズに合わせて自動的にリサイズされます。
- 動画と同じアスペクト比の静止画のみタイトル画像に設定できます。

画像をコピーする

内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像をコピーします。カメラにSDメモリーカードが入っていないと、この機能は選択できません。



SDメモリーカードをセットするときや取り出すときは、必ず電源を切ってください。

1 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で（画像コピー）を選ぶ

2 OKボタンを押す

コピー方法を選択する画面が表示されます。
コピー方法によって、以下に進んでください。

内蔵メモリーからSDメモリーカードにコピーする場合

内蔵メモリー内のすべての画像をSDメモリーカードにコピーします。画像をコピーする前に、SDメモリーカードに充分な空き容量があることを確認してください。

3 十字キー（▲▼）で「➡SD」を選ぶ



5 画像の編集と印刷

4 OKボタンを押す

すべての画像がSDメモリーカードにコピーされます。

SDメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする場合

SDメモリーカード内の画像を1つずつ選んで、内蔵メモリーにコピーします。

3 十字キー（▲▼）で「SD➡●」を選ぶ

4 OKボタンを押す

5 十字キー（◀▶）でコピーする画像を選ぶ



6 OKボタンを押す

選択した画像が内蔵メモリーにコピーされます。
他の画像をコピーする場合は、手順3～6を繰り返します。終了する場合は「キャンセル」を選びます。



SDメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする場合は、新しいファイル名で画像がコピーされます。

DPOFを設定する

DPOF（Digital Print Order Format）とは、デジタルカメラで撮影した静止画に、プリントのための情報を記録するためのフォーマットです。撮影した静止画にDPOFを設定すると、DPOF対応プリンターやプリントサービス店でDPOFの設定に従ったプリントができます。

印刷について

このカメラで撮影した画像を印刷するには、次の方法があります。

1 プリントサービス店を利用する

2 SDメモリーカードスロットのあるプリンターを利用して、SDメモリーカードから直接印刷する

3 お手持ちのパソコンのソフトウェアを利用して印刷する

注意

- DPOFが設定できるのは、静止画のみです。動画には設定できません。
- 「日付写し込み」(p.99) で日付／時刻を写し込んだ画像には、DPOF設定で「日付」を☑（オン）にしないでください。☑にすると、日付が重なって印刷されます。

1画像ずつ設定する

各画像ごとに、以下の項目を設定します。

枚数	プリントする枚数を設定します。99枚まで設定できます。
日付	画像に日付をプリントするかしないかを設定します。

1 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で DPOF（DPOF）を選ぶ

2 OKボタンを押す

設定方法を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「1画像」を選ぶ



4 OKボタンを押す

「この画像にDPOF設定を行います」とメッセージが表示されます。

5 十字キー（◀▶）で画像を選択する

すでにDPOFが設定されている画像は、設定された枚数と日付の☑（オン）／□（オフ）が表示されます。

6 十字キー（▲▼）でプリント枚数を設定する



7 グリーンボタンで日付の☑／□を切り替える

☑　日付をプリントする
□　日付をプリントしない

他の画像にもDPOFを設定する場合は、手順5～7を繰り返します。



8 OKボタンを押す

設定が保存され、手順3の画面に戻ります。

注意

プリンターやプリントサービス店のプリント機器によっては、DPOF設定で「日付」を☑（オン）にしても日付がプリントされないことがあります。



DPOF設定を解除する場合は、手順6で枚数を「00」に設定して、**OK**ボタンを押します。

全画像を設定する

カメラに保存されているすべての画像に同じ枚数／日付の設定を適用します。

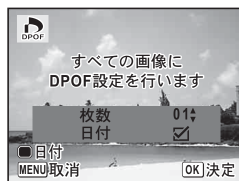
1　p.152の手順3の画面で「全画像」を選ぶ

2　OK ボタンを押す

「すべての画像にDPOF設定を行います」とメッセージが表示されます。

3　プリント枚数と日付の ☑ ／ □ を設定する

設定のしかたは「1画像ずつ設定する」の手順6〜7（p.152）をご覧ください。



4　OK ボタンを押す

設定した値で全画像の設定が保存され、設定方法を選択する画面に戻ります。

注意

- 「全画像」では、すべての画像に同じプリント枚数が設定されます。プリントをする前に、必ず枚数の設定が正しいか確認してください。
- 「全画像」で設定を行うと、1画像ずつの設定は解除されます。

カメラを設定する

「🔧設定」メニューを設定する

カメラの設定は主に「🔧設定」メニューから行います。機能の設定方法は各機能の説明を参照してください。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で設定する項目を選び、設定する

3 設定完了後、MENUボタンを押す

▶モードに戻り、設定が保存されます。

📷モードと▶モードの切り替え ☞p.46

フォーマットする

SDメモリーカード／内蔵メモリーに保存されているすべてのデータを消去します。
未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマットしてからご使用ください。

注意

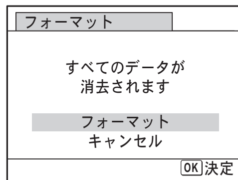
- SD メモリーカードのフォーマット中は、バッテリー／カードカバーを開けないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行うと、プロテクトされた画像や、このカメラ以外で記録したデータも消去されます。ご注意ください。
- パソコンなどこのカメラ以外の機器でフォーマットされたSDメモリーカードはそのままでは使用できません。必ずカメラでフォーマットしてください。
- SDメモリーカードが挿入されていると、SDメモリーカードがフォーマットされます。内蔵メモリーをフォーマットする場合は、必ずSDメモリーカードを抜いてから操作してください。
- フォーマットすると、付属のCD-ROMからコピーされたオプションフレームも消去されます（デフォルトフレーム3種類は消去されません）。

1 **「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「フォーマット」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

「フォーマット」画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で「フォーマット」を選ぶ**



4 **OK ボタンを押す**

フォーマットが開始されます。
フォーマットが終わると、▶モードに戻ります。

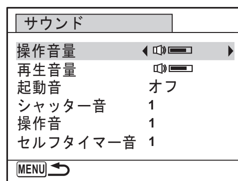
サウンドの設定を変更する

操作音の音量と音の種類を変更できます。

1 **「🔧 設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「サウンド」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

「サウンド」画面が表示されます。
設定する項目によって、以下に進んでください。



操作音量／再生音量を変更する

3 **十字キー（▲▼）で「操作音量」を選ぶ**

6 設定

4 **十字キー（◀▶）で音量を調節する**

音量を🔇にすると起動音・シャッター音・操作音・セルフタイマー音は鳴りません。

5 **手順3～4と同様の操作で「再生音量」を設定する**

6 **MENUボタンを2回押す**

▶モードに戻ります。

音の種類を変更する

3 **十字キー（▲▼）で「起動音」を選ぶ**

4 **十字キー（▶）を押す**

ポップアップが表示されます。

5 **十字キー（▲▼）で音の種類を選ぶ**

「1」／「2」／「3」／「オフ」から選択します。

6 **OKボタンを押す**

7 **手順3～6と同様の操作でシャッター音／操作音／セルフタイマー音を設定する**

8 **MENUボタンを2回押す**

▶モードに戻ります。

日時を変更する

初期設定（p.39）で設定した日付と時刻を変更します。また、カメラに表示する日付の表示形式を設定します。

1 **「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「日時設定」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

「日時設定」画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。
初期設定や、前回の設定によっては、月/日/年／日/月/年で表示されていることもあります。

日時設定	
表示スタイル	▶年/月/日 24h
日付	2012/01/01
時刻	00:00
設定完了	
MENU 取消	

4 十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを選ぶ

「年/月/日」／「月/日/年」／「日/月/年」から選択します。

5 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

6 十字キー（▲▼）で「24h」（24 時間表示）／「12h」（12 時間表示）を選ぶ

7 十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

8 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

9 十字キー（▶）を押す

手順4で設定した表示スタイルに従って、選択枠が下記の項目に移動します。

「年/月/日」の場合　西暦年
「月/日/年」の場合　月
「日/月/年」の場合　日

以下の操作手順は、「年/月/日」に設定した場合です。他の表示スタイルに設定した場合でも、操作方法は同様です。

10 十字キー（▲▼）で西暦年を設定する

11 十字キー（▶）を押す

選択枠が「月」に移動します。十字キー（▲▼）で月を設定します。
月を設定後は、同様の操作で日を設定します。

12 手順7～11と同様の操作で時刻を設定する

手順6で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

13 十字キー（▼）で「設定完了」を選ぶ

14 OKボタンを押す

日時の設定が保存されます。



手順14で**OK**ボタンを押すと、0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確に日時が設定できます。

ワールドタイムを設定する

「日時を設定する」（p.39）や「日時を変更する」（p.156）で設定した日時は、現在地の日時として設定されます。「ワールドタイム」を設定しておくと、海外で使用するとき、画像モニターに目的地として設定した国や地域の日時を表示できます。

目的地を設定する

1 「設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「ワールドタイム」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「✈目的地」を選ぶ

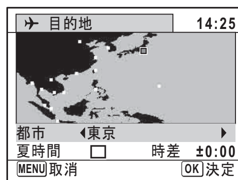
ワールドタイム	
時刻切替	▶ ⌂
✈目的地	DST OFF
東京	14:25
⌂現在地	DST OFF
東京	14:25
MENU ↩	

4 十字キー（▶）を押す

「✈目的地」画面が表示されます。現在設定されている都市が地図上で点滅表示されます。

5 十字キー（◀▶）で目的地の都市名を選ぶ

選択した都市の現在時刻・位置・時差が表示されます。



6 十字キー（▲▼）で「夏時間」を選ぶ

7 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

目的地が夏時間を採用している場合は、☑にします。

8 OK ボタンを押す

目的地の設定が保存され、「ワールドタイム」画面に戻ります。

9 MENU ボタンを2回押す

▶モードに戻ります。



手順3で「⌂現在地」を選ぶと現在地の都市と夏時間を設定できます。

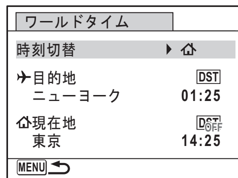
目的地の日時をカメラに表示させる（時刻切替）

1 「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「ワールドタイム」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「時刻切替」を選ぶ



6
設定

4 **十字キー（▶）を押す**

ポップアップが表示されます。

5 **十字キー（▲▼）で✈／⌂を切り替える**

✈　目的地の都市の時刻を表示

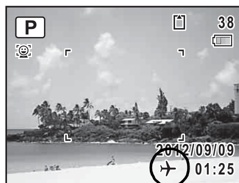
⌂　現在地の都市の時刻を表示

6 **OK ボタンを押す**

設定が保存されます。

7 **MENUボタンを2回押す**

▶モードに戻ります。
ワールドタイムに切り替えた場合は、📷モードにしたときに画像モニターに目的地の日時が表示されていることを示す✈アイコンが表示されます。



メニューの文字サイズを設定する

カーソルで選んでいるメニュー項目の文字サイズを、「標準」（通常表示）／「大きい」（拡大表示）から設定できます。

1 **「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「文字サイズ」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

ポップアップが表示されます。

3 **十字キー（▲▼）でメニューの文字サイズを選ぶ**

「標準」／「大きい」から選択します。

4 **OK ボタンを押す**

設定が保存されます。

表示言語を変更する

メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。

1 **「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「Language/言語」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

「Language/言語」画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼◀▶）で言語を選ぶ**

4 **OK ボタンを押す**

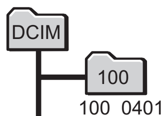
選択した言語でメニューやメッセージが表示されるようになります。

フォルダー名の付け方を変更する

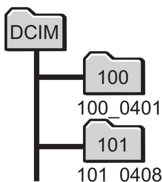
画像が保存されるフォルダー名の付け方を変更できます。「日付」に設定すると写真は撮影日ごとに違うフォルダーに保存されます。

選択項目	作成されるフォルダー名称
日付 （初期値）	xxx_mmdd（3桁のフォルダー番号_月日） ※ 日付の表示スタイルが「日/月/年」に設定されている場合は、 xxx_ddmm（3桁のフォルダー番号_日月）になります。 撮影日ごとにフォルダーが作成され、その日付の撮影データが保存されます。
PENTX	xxxPENTX（xxxは3桁のフォルダー番号） フォルダーがいっぱい（9999枚）になるまで同じフォルダーに保存されます。
_USER	xxxAAAAA（xxxは自動で付与される3桁のフォルダー番号、AAAAAは入力した5文字の英数字） フォルダーがいっぱい（9999枚）になるまで同じフォルダーに保存されます。

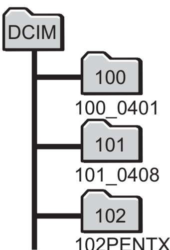
「日付」で4/1に撮影
100_0401
フォルダーを作成
100_0401
フォルダーに保存



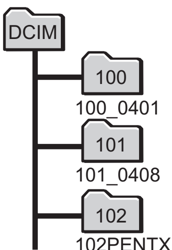
「日付」で4/8に撮影
101_0408
フォルダーを作成
101_0408
フォルダーに保存



4/10に「PENTX」に変更
102PENTX
フォルダーを作成
102PENTX
フォルダーに保存



「PENTX」で4/15に撮影
新しいフォルダは作成されない
102PENTX
フォルダーに保存





- フォルダーは最大900個まで作成されます。
- １個のフォルダーには最大9999個まで画像が保存されます。

フォルダー名の付け方を選択する

1　「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「フォルダー名」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3　十字キー（▲▼）でフォルダー名の付け方を選ぶ

「日付」／「PENTX」／「_USER」から選択します。

4　OKボタンを押す

設定が保存されます。

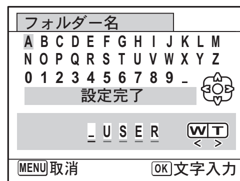
フォルダー名を自分で作る

画像を保存するフォルダー名を作ることができます。
入力できるのはアンダーバーを含む半角英数字5文字です。
作成されるフォルダー名は、3桁のフォルダー番号の後に、入力した5文字の英数字が表示される形になります。

1　「フォルダー名の付け方を選択する」の手順3で、「_USER」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

フォルダー名入力画面が表示されます。
「_USER」と初期表示されています。



3　十字キー（▲▼◀▶）で入力する文字を選び、OKボタンを押す

1文字目が確定し、2文字目にカーソルが移動します。

4　手順3を繰り返して、5文字すべてを入力する

5 「A」を選択している状態で、十字キー（◀）を押すか、「_」を選択している状態で、十字キー（▼▶）を押す

選択枠が「設定完了」に移動します。



6 OKボタンを2回押す

フォルダー名が設定され、「🔧設定」メニューに戻ります。



- ズームレバーを使って、入力する文字列の位置を変更できます。
- 設定したフォルダー名が「🔧設定」メニューに表示されます。

ファイル名の付け方を変更する

保存される画像のファイル名の付け方を変更できます。

選択項目	作成されるファイル名
IMGP (初期値)	IMGPxxxx (xxxxは自動で付与される4桁の通し番号) カメラ固有の設定番号の後ろに通し番号が続きます。
USER	AAAAxxxx (xxxxは自動で付与される4桁の通し番号) 入力した4文字の英数字の後ろに通し番号が続きます。

ファイル名の付け方を選択する

1 「🔧設定」メニューから、十字キー(▲▼）で「ファイル名」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）でファイル名の付け方を選ぶ

「IMGP」／「USER」から選択します。

4 OKボタンを押す

設定が保存されます。

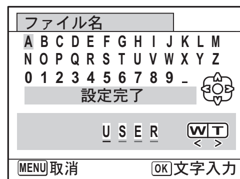
ファイル名を自分で設定する

撮影する画像ファイルの命名方法を自分で設定することができます。入力できるのはアンダーバーを含む半角英数字4文字です。撮影された画像ファイル名は、入力した4桁の英数字の後ろに4桁の通し番号が表示されます。

1 「ファイル名の付け方を選択する」の手順3で、「USER」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ファイル名入力画面が表示されます。
「USER」と初期表示されています。



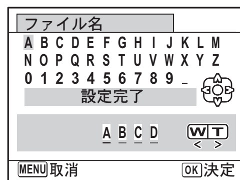
3 十字キー（▲▼◀▶）で入力する文字を選び、OK ボタンを押す

1文字目が確定し、2文字目にカーソルが移動します。

4 手順3を繰り返して、4文字すべてを入力する

5 「A」を選択している状態で、十字キー（◀）を押すか「_」を選択している状態で、十字キー（▼▶）を押す

選択枠が「設定完了」に移動します。



6 OK ボタンを2回押す

ファイル名が設定され、「🔧設定」メニューに戻ります。



- ズームレバーを使って、入力する文字列の位置を変更できます。
- 設定したファイル名はリセットをしても初期化されません。

ビデオ出力方式を選択する

カメラとAV機器を接続して撮影や再生をするときのビデオ出力方式を、NTSCとPALから選択します。

1 **「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「ビデオ出力」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

ポップアップが表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で出力方式を選ぶ**

接続するAV機器のビデオ出力方式に合わせて選択します。

4 **OKボタンを押す**

設定が保存されます。



国や地域によってはビデオ出力方式が初期設定（「NTSC」）になっていると画像や音声を再生できない場合があります。その場合は、出力方式を「PAL」に切り替えてください。

AV機器と接続する ☞p.127
都市別のビデオ出力方式 ☞p.202

HDMI出力形式を選択する

カメラとAV機器をHDMIケーブルで接続して再生するときの出力解像度を設定します。初期設定はオートです。

1 **「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「HDMI出力」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

ポップアップが表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で出力方式を選ぶ**

接続するAV機器のHDMI仕様に合わせて選択します。

4 OKボタンを押す

設定が保存されます。



選択されているビデオ出力方式でポップアップの表示内容が一部変わります。
変更が必要な場合、先にビデオ出力方式を変更してからHDMI出力を設定してください。
以下にビデオ出力方式と選択できるHDMI出力の組み合わせを示します。

	ビデオ出力方式	
	NTSC	PAL
設定できる解像度	オート（AV機器とカメラ双方で対応する最大のサイズを自動選択）	
	1080i（1920×1080i）	
	720p（1280×720p）	
	480p（1920×1080i）	576p（720×576p）

Eye-Fiを設定する

市販のEye-Fiカードを使って、画像を無線LAN経由で自動的にパソコンなどに転送することができます。転送のしかたについては、「Eye-Fiカードを使って画像を転送する」（p.186）をご覧ください。初期設定は□（オフ）です。

1 「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「Eye-Fi」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　Eye-Fiカードを使った通信を開始する
□　Eye-Fiカードを使った通信をしない

3 OKボタンを押す

設定が保存されます。



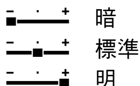
Eye-Fi通信を行うためには、Eye-Fiカードに無線LANアクセスポイントや転送先を設定しておく必要があります。設定のしかたについては、Eye-Fiカード付属の使用説明書をご覧ください。

画像モニターの明るさを設定する

画像モニターの明るさを設定できます。

1 **「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「LCDの明るさ」を選ぶ**

2 **十字キー（◀▶）で明るさを調整する**


暗
標準
明

3 **MENUボタンを押す**

▶モードに戻ります。
画像モニターは、設定した明るさになります。

節電機能を使う（エコモード）

一定時間操作しないときに、画像モニターの明るさが自動的に暗くなるように設定することで、電池の消耗を軽減します。節電機能が働き、画像モニターが暗くなった場合は、いずれかのボタン操作をすると、元の明るさに戻ります。

1 **「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「エコモード」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

ポップアップが表示されます。

3 **十字キー（▲▼）でエコモードに切り替わるまでの時間を選ぶ**

「2分」／「1分」／「30秒」／「15秒」／「5秒」／「オフ」から選択します。

4 **OKボタンを押す**

設定が保存されます。



- 以下の場合は、エコモードになりません。
  - ▢（連続撮影）／▢（連写L）／▢（連写H）で撮影中
  - ACアダプター接続時
  - 再生モード中
  - 動画撮影中
  - パソコン接続中
  - メニュー表示中
- 「5秒」に設定されている場合、電源を入れた後に何も操作しないと、15秒後にエコモードになります。

オートパワーオフを設定する

一定時間操作しないときに、自動的に電源が切れるように設定できます。

1 「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「オートパワーオフ」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）でオートパワーオフになるまでの時間を選ぶ

「5分」／「3分」／「オフ」から選択します。

4 OKボタンを押す

設定が保存されます。



以下の場合は、オートパワーオフになりません。
- ▢（連続撮影）／▢（連写L）／▢（連写H）で撮影中
- 動画撮影中
- スライドショウ／動画再生中
- パソコン接続中
- Eye-Fiカードで画像転送中

クイック拡大を設定する

▶モードで画像を再生中に、電子ダイヤルを右（Q）に回すかズームレバーを右（T）に回すだけで再生画像を最大倍率の10倍まで拡大する「クイック拡大」を使用するかどうかを設定します。

1 「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「クイック拡大」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　クイック拡大を使用する
□　クイック拡大を使用しない（初期設定）

3 MENUボタンを押す

▶モードに戻ります。

ガイド表示を設定する

撮影モード確定時と撮影モードパレット／動画モードパレット／再生モードパレットのガイドの表示をする／しないを設定します。

1 「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「ガイド表示」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　説明を表示する（初期設定）
□　説明を表示しない

3 MENUボタンを押す

▶モードに戻ります。

電池の種類を設定する

使用する単3形電池の種類を設定します。

1 「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「バッテリー選択」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で電池の種類を選ぶ

AUTO	電池の種類を自動判別します（初期値）
Li	リチウム電池
Ni-MH	ニッケル水素電池
AL	アルカリ電池

4 OKボタンを押す

設定が保存されます。

起動画面を変更する

カメラの電源を入れたときに表示する起動画面を設定します。
起動画面には、次の画像が選択できます。

- プリインストール画面（3種）
- 撮影モードとボタンのガイドを表示する「ガイド表示起動画面」
- 撮影した画像（設定が可能な画像のみ）

1 再生モードパレットから、十字キー（▲▼◀▶）で PENTAX（起動画面設定）を選ぶ

2 OKボタンを押す

起動画面を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で起動画面を選ぶ

起動画面に設定できる画像だけが表示されます。その他に、ガイド表示起動画面と3種類のPENTAXロゴ画面が選択できます。



4 OKボタンを押す

起動画面が設定されます。



- 設定した起動画面は、元の画像を消去したり、SD メモリーカード／内蔵メモリーをフォーマットしても消去されません。
- 「オフ」に設定すると起動画面は表示されません。
- 再生起動モードで電源を入れたときは、起動画面は表示されません。
- 記録サイズが12M 16:9／12M 1:1／5M 16:9／4M 16:9／2M 16:9で撮影された画像、4：3で3M より小さいサイズの画像、またはパノラマ撮影された画像や動画は起動画面には使えません。

センサー画素の欠けを補完する（ピクセルマッピング）

ピクセルマッピングは、撮像素子の画素に欠けがあった場合に補完処理をする機能です。画像のドットがいつも同じ所で欠けるようになったら、ピクセルマッピングを実行してください。



ピクセルマッピングを実行するときは、◘モードから「🔧設定」メニューを表示して操作してください。カメラが▶モードの状態で「🔧設定」メニューを表示しても、ピクセルマッピングは選択できません。

6
設定

1 ◘モードでMENUボタンを押し、十字キー（▶）を2回押す

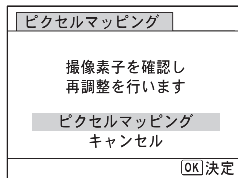
「🔧設定」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「ピクセルマッピング」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「ピクセルマッピング」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「ピクセルマッピング」を選ぶ



5 OKボタンを押す

補完処理が行われます。

注意

電池の容量が少ない場合、「電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません」と画像モニターに表示されます。ACアダプターキットK-AC129（別売）を使用するか、容量が十分残っている電池に交換してください。

再生起動を設定する

▶ボタンを長押しするだけで電源を入れることができます。

1 **「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「再生起動」を選ぶ**

2 **十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える**

☑ 再生起動をする
□ 再生起動をしない

3 **OKボタンを押す**

設定が保存されます。

設定をリセットする

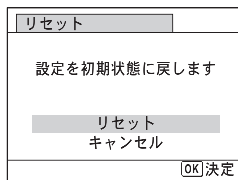
カメラの設定内容を工場出荷時の状態に戻します。リセットされる項目については「初期設定一覧」（p.197）をご覧ください。

1 **「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「リセット」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

「リセット」画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で「リセット」を選ぶ**



4 OKボタンを押す

設定がリセットされます。

パソコンと接続する

カメラのUSB接続モードを設定する

カメラをUSBケーブルで接続するときの接続先を設定します。

注意

必ずパソコンと接続する前に設定してください。USBケーブルでカメラとパソコンが接続された状態では設定できません。

1　カメラの電源を入れる

2　「🔧設定」メニューから、十字キー（▲▼）で「USB接続」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「MSC」を選ぶ

5　OKボタンを押す

設定が保存されます。

MSCとPTP

MSC（Mass Storage Class／マスストレージクラス）

パソコンにUSB接続された機器を、記憶装置として扱うための汎用のドライバプログラムです。USB機器をそのドライバで制御するための規格のことを指すこともあります。
USB Mass Storage Class対応の機器は、接続するだけで、専用のドライバをインストールせずにパソコンからファイルのコピーや読み書きを行うことができます。

PTP（Picture Transfer Protocol／ピクチャートランスファープロトコル）

USBを通じてデジタル画像の転送やデジタルカメラの制御を行うためのプロトコルで、ISO 15740として国際標準化されています。
PTP対応の機器同士では、デバイスドライバをインストールせずに、画像データの転送を行うことができます。

このカメラでは、特に指定がない限り「MSC」を選択した状態でパソコンと接続してください。

カメラとパソコンを接続する

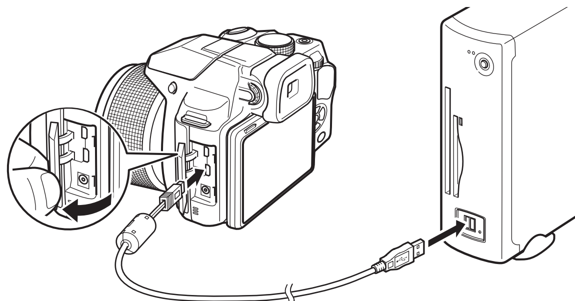
付属のUSBケーブルで、カメラとパソコンを接続します。

1 パソコンの電源を入れる

2 カメラの電源を切る

3 USBケーブルでカメラとパソコンを接続する

USBケーブル端子の➡と、カメラのPC/AV端子の◀マークを合わせて接続してください。



4 カメラの電源を入れる

カメラがパソコンに認識されます。



画像の転送中に電池が消耗すると、画像データが壊れることがあります。カメラをパソコンに接続するときはACアダプターキットK-AC129（別売）のご使用をお勧めします（p.30）。

メモ

- カメラとパソコンの通信中は、電源ランプが点滅します。
- カメラと接続できるパソコンについては、p.178を参照してください。

パソコンからカメラを取り外す

MediaImpressionなどのアプリケーションでカメラを使用中の場合は、アプリケーションを終了しないとカメラを取り外すことはできません。

Windows

1 デスクトップ右下のタスクバーの（ホットプラグアイコン）をクリックする

2 接続されているカメラの取り出しをクリックする

メッセージが表示されます。

デバイスとプリンターを開く(O)
の取り出し
- リムーバブル ディスク (L:)

3 USBケーブルをパソコンとカメラから取り外す

Macintosh

1 デスクトップの「NO NAME」をゴミ箱にドラッグする

SDメモリーカードにボリュームラベル名が付いている場合は、その名称のアイコンをゴミ箱にドラッグします。

2 USBケーブルをMacintoshとカメラから取り外す

メモ

カメラまたはパソコンからUSBケーブルを取り外すと、カメラは自動的に再生モードに切り替わります。

付属ソフトウェアを使用する

付属のCD-ROMには、次のソフトウェアが収録されています。

画像閲覧・管理・編集ソフト
「MediaImpression 3.5 for PENTAX」（Windows）
「MediaImpression 2.1 for PENTAX」（Macintosh）

対応言語：英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／ポルトガル語／イタリア語／オランダ語／スウェーデン語／ロシア語／韓国語／中国語［繁体字／簡体字］／日本語



Windows版のMediaImpressionは、動画の編集ができます。

システム環境

カメラで撮影した画像や動画をパソコンで楽しむには、以下のシステム環境が必要です。

注意 これらの環境は、動画の再生・編集をするのに必要な最低環境であり、すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

Windows®

OS	Windows XP（SP3）／Windows Vista®／Windows 7 • 対象OSがプリインストールされたパソコンで、最新のバージョンにアップデートされているもの
CPU	Pentium® 4 1.6GHzまたは同等のAMD Athlon （Intel® Core™ 2 Duo 2.0GHzまたは同等のAMD Athlon X2以上のプロセッサを推奨）
メモリ	512MB以上（1GB以上推奨）
ハードディスク空き容量	300MB以上
その他	CD／DVDドライブ USBポート標準搭載 1024×768ピクセル、16ビットカラーモニターまたはそれ以上

注意

Windows 95／Windows 98／Windows 98SE／Windows Me／Windows NT／Windows 2000には対応していません。

Macintosh

OS	Mac OS X（Ver.10.4, 10.5, 10.6, 10.7） • 対象OSがプリインストールされたパソコンで、最新のバージョンにアップデートされているもの
CPU	PowerPC G4 800MHz プロセッサまたは同等のCPU（Intel® Core™ 2 Duo以上のプロセッサを推奨）
メモリ	512MB以上（1GB以上推奨）
ハードディスク空き容量	300MB以上
その他	CD／DVDドライブ USBポート標準搭載 1024×768ピクセル、16ビットカラーモニターまたはそれ以上

ソフトウェアのインストール

画像閲覧・管理・編集ソフト「MediaImpression」をインストールします。

注意

- お使いのパソコンに必要なシステム環境を整えてから、インストールしてください。
- 複数のアカウントを設定している場合は、管理者権限でログオンしてからインストールしてください。

Windows

ここでは、Windows 7でのインストール手順を例に説明しています。

1　パソコンの電源を入れる

2　付属のCD-ROMをパソコンのCD／DVDドライブにセットする

インストール画面が表示された場合は、手順5へ進みます。

3 スタートメニューから「コンピュータ」をクリックする

4 CD／DVDドライブのアイコンをダブルクリックする

インストール画面が表示されます。

5 「MediaImpression 3.5 for PENTAX」をクリックする



6 「設定言語の選択」画面で「日本語」を選択し、「OK」をクリックする

セットアップ画面が表示されます。画面の指示に従い、インストール作業を進めてください。

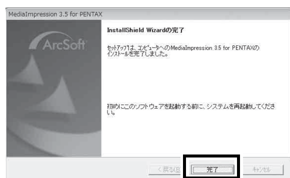
7 関連付けるファイル形式を選択し、「次へ」をクリックする

チェックを付けると、その形式のファイルはすべてMediaImpressionで開きます。他のアプリケーションで開く場合は、クリックしてチェックを外してください。



8 「完了」をクリックする

インストールが完了します。



9 インストール画面の「Exit」をクリックする

パソコンからCD-ROMを取り出し、再起動してください。

Macintosh

1 **Macintoshの電源を入れる**

2 **付属の CD-ROM を、Macintosh の CD ／ DVD ドライブにセットする**

3 **CD-ROMのアイコンをダブルクリックする**

4 **「Pentax Software Installer」のアイコンをダブルクリックする**

インストール画面が表示されます。

5 **「MediaImpression 2.1 for PENTAX」をクリックする**

セットアップ画面が表示されます。画面の指示に従い、インストール作業を進めてください。



6 **「閉じる」をクリックする**

インストールが完了します。



7 **インストール画面の「Exit」をクリックする**

画面が閉じます。

ユーザー登録する

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

パソコンがインターネットに接続できる環境にあれば、インストール画面で、「ユーザー登録」をクリックします。
右図のような地図画面が表示された場合は、「Japan」をクリックしてください。弊社ホームページのユーザー登録画面が表示されます。画面の指示に従って、登録の作業を行ってください。
ユーザー登録画面が表示されない場合は、下記アドレスから直接アクセスしてください。



https://service.pentax.jp/pentax/customer/menu.aspx

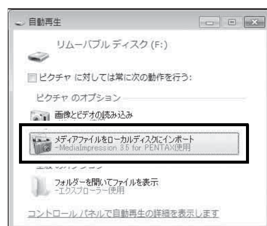
WindowsでMediaImpressionを使用する

1　カメラとパソコンを接続する

p.176の手順2～4を参照してください。
「自動再生」画面が表示されます。

2　「メディアファイルをローカルディスクにインポート」をクリックする

MediaImpressionが起動し、インポート画面が表示されます。

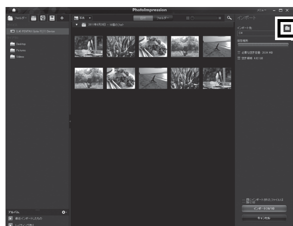


「自動再生」画面が表示されない場合

1 デスクトップの「MediaImpression 3.5 for PENTAX」のアイコンをダブルクリックする
2 「PhotoImpression」をクリックする
3 「インポート」をクリックする

3 「インポート先」のフォルダーマークをクリックし、保存する場所を指定する

すべての画像を転送する場合は、手順5に進みます。

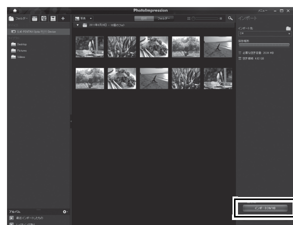


4 転送する画像を選択する

複数選択する場合は、Ctrlキーを押しながら選択します。

5 「インポート」をクリックする

転送が完了するとメッセージが出ます。
転送された画像は、転送されたことを表す矢印マークが表示されます。





MediaImpressionの詳しい使い方は、ヘルプで調べることができます。画面右上の「メニュー」から「ヘルプ」をクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。

MacintoshでMediaImpressionを使用する

1 カメラとMacintoshを接続する

p.176の手順2～4を参照してください。

2 「アプリケーション」フォルダー内の「MediaImpression 2.1 for PENTAX」アイコンをダブルクリックする

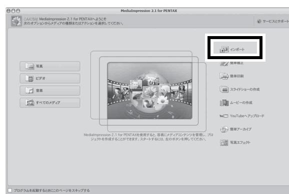


MediaImpression 2.1 for
PENTAX.app

MediaImpression 2.1 for PENTAXが起動し、スタートページが表示されます。

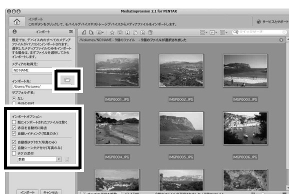
3 「インポート」をクリックする

インポート画面が表示されます。

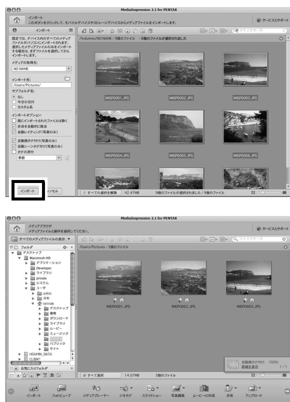


4 転送する画像を選択する

複数選択する場合は、コマンドキーを押しながら選択します。
転送先を指定する場合は、フォルダーマークをクリックして指定します。
「インポートオプション」にチェックが付いていると、転送した画像にマークが表示されます。



5 「インポート」をクリックする



画像がパソコンに転送され、メディアブラウザ画面が表示されます。
転送が完了するとメッセージ画面が出るので、「終了」をクリックします。



- インポート画面でカメラの画像が表示されない場合は、「メディアの取得元」で「NO NAME」（またはボリュームラベル名）を指定します。
- MediaImpressionの詳しい使い方は、ヘルプで調べることができます。メニューバーの「ヘルプ」から「ArcSoft MediaImpressionヘルプ」をクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。

Eye-Fiカードを使って画像を転送する

無線LAN内蔵メモリーカード（Eye-Fiカード）をカメラにセットすると、画像を無線LAN経由で自動的にパソコンなどに転送することができます。

1　Eye-Fiカードに無線LANアクセスポイントや転送先などを設定する

設定のしかたについては、Eye-Fiカード付属の取扱説明書をご覧ください。

2　カメラの電源を切る

3　設定したEye-Fiカードをカメラにセットする

4　カメラの電源を入れる

5　「設定」メニューの「Eye-Fi」を☑（オン）にする

画像が、自動的に転送されます。カメラの設定のしかたは「Eye-Fiを設定する」（p.167）をご覧ください。
画像モニターには次のアイコンが表示されます。

Eye-Fi ■))	通信中 「Eye-Fi」が☑に設定されていて、通信中かアクセスポイントを探しているとき
Eye-Fi ●--	通信待機中 「Eye-Fi」が☑に設定されていて、通信していないとき
Eye-Fi 🔇	Eye-Fi通信禁止 「Eye-Fi」が□に設定されているとき
Eye-Fi ⚠	バージョンエラー Eye-Fiカードのバージョンが古いか、ライトプロテクトされているとき



- エンドレスモードには非対応です。
- Eye-Fiカードは、最新のファームウェアに更新してご使用ください。

注意

- 新しいEye-Fiカードを始めて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内のEye-Fi Managerのインストールファイルをパソコンにコピーしてからフォーマットしてください。
- 画像は無線LANにより転送されるので、航空機内など無線通信の使用が制限または禁止されている場所では、Eye-Fiカードを使用しないか、Eye-Fi設定を□（オフ）にしてください。
- バージョンの古いEye-Fiカードをカメラにセットすると、エラーメッセージが表示されます。
- 以下の場合は、画像は転送されません。
  - 使用可能な無線LANアクセスポイントが見つからないとき
  - 電池の容量が少ないとき（残量表示が赤色）
- 大量の画像を転送すると、転送に時間がかかる場合がありますので、別売のACアダプターキット（K-AC129）のご使用をお勧めします。
- 画像の転送中は、オートパワーオフ機能は働きません。
- 大きな動画ファイルなどを転送すると、カメラ内が高温となり、回路保護のために、強制的に電源がオフになることがあります。
- 無線LANによる画像転送を行うには、アクセスポイントの利用とインターネット環境および設定が必要です。詳しくは、ホームページをご覧ください。（http://www.eyefi.co.jp）
- Eye-Fiカードの使用方法は、Eye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。
- Eye-Fiカードに関する不具合は、カードの製造元へお問い合わせください。
- このカメラにはEye-Fiカードの通信機能をON／OFFする機能がありますが、Eye-Fiカードのすべての機能を保証するものではありません。
- Eye-Fiカードの使用が認められているのは、カードをご購入された国のみです。使用する国の法律を遵守してください。

各撮影モードの機能対応

機能 ＼ 撮影モード		AUTO PICT							
ズームレバー	ズーム	○*1	○	○	○	○	○	○	○
ストロボモード	（オート）	○	○	○	○	×	○	○	○
	（発光禁止）	○	○	○	○	○	○	○	○
	（強制発光）	○	○	○	○	×	○	○	○
	（オート＋赤目）	○	○	○	○	×	○	○	○
	（強制＋赤目）	○	○	○	○	×	○	○	○
	（スローシンクロ）／（スローシンクロ＋赤目）	○	○	○	○	×	○	○	○
ドライブモード	（標準）	○	○	○	○	×	○	○	○
	（連続撮影）	○	○	○	○	×	○	○	○
	（連写L／H）	○	○	○	○	×	○	○	○
	（セルフタイマー）／（2秒セルフタイマー）	○	○	○	○	×	○	○	○
	（リモコン）（0sリモコン）	○	○	○	○	×	○	○	○
	（オートブラケット）	○	○	○	○	×	○	○	○
フォーカスモード	AF（標準）／（マクロ）	○	○	○	○	○	○	○	○
	（1cmマクロ）	○	○	○	○	○	○	○	○
	（無限遠）	○	○	○	○	○	○	○	○
	MF（マニュアルフォーカス）	○	○	○	○	○	○	○	○
	（AFエリア選択）	×	○	○	○	○	○	○	○
「撮影」メニュー	画像仕上	×*2	×*2	×*2	×*2	○	×*2	×*2	×*2
	記録サイズ	○*3	○*3	○*3	○*3	○	○*3	○	○
	画質	○	○	○	○	○	○	○	○
	ホワイトバランス	×*4	×*4	×*4	×*4	○	×*4	×*4	×*4
	AF AFエリア	×*5	○	○	○	○	○	○	○
	AF オートマクロ	○	○	○	○	○	○	○	○
	AF AF補助光	○	○	○	○	○	○	○	○
	測光方式	×*6	×*6	×*6	×*6	○	×*6	×*6	×*6
	感度	○	○	○	○	○*7	○	○	○
	感度AUTO調整範囲	○	○	○	○	○*7	○	○	○
	ストロボ光量補正	○	○	○	○	○	○	○	○
	D-Range設定	×*9	○	○	○	○*10	○	○	○
	Shake Reduction	○	○	○	○	×*11	○	○	○
	顔検出オン／スマイル／オフ	○*13	○*13	○	○	○	○	○	○
	まばたき検出	○	○	○	○	○	○	○	○
	クイックビュー	○	○	○	○	○	○	○	○
	シャープネス／彩度（調色）／コントラスト	×*15	×*15	×*15	×*15	○	×*15	×*15	×*15
	日付写し込み	○	○	○	○	○	○	○	○
	超解像	○	○	○	○	×*9	○	○	○

○：設定・変更できます　×：設定・変更できません　－：設定・変更が反映されません

			HDR					撮影モード／機能		
○	○	○	○	○	○	○	○	ズーム		ズームレバー
×	○	×	○	○	○	○	○	（オート）		ストロボモード
○	○	○	○	○	○	○	○	（発光禁止）		
○	○	×	○	○	○	○	○	（強制発光）		
×	○	×	○	○	○	○	○	（オート＋赤目）		
○	○	×	○	○	○	○	○	（強制＋赤目）		
○	○	×	○	○	○	○	○	（スローシンクロ）／（スローシンクロ＋赤目）		
○	○	○	○	○	○	○	○	（標準）		ドライブモード
○	○	×	×	○	○	○	○	（連続撮影）		
○	○	×	×	○	○	○	○	（連写L／H）		
○	○	○	○	○	○	○	○	（セルフタイマー）／（2秒セルフタイマー）		
○	○	○	○	○	○	○	○	（リモコン）（0sリモコン）		
○	○	×	×	○	○	○	○	（オートブラケット）		
○	○	×	○	○	○	○	○	AF（標準）／（マクロ）		フォーカスモード
○	○	×	○	○	○	○	○	（1cmマクロ）		
○	○	○	○	○	○	○	○	（無限遠）		
○	○	×	○	○	○	○	○	MF（マニュアルフォーカス）		
○	○	×	○	○	○	○	○	（AFエリア選択）		
○	×*2	×*2	×*2	×*2	×*2	×*2	×*2	画像仕上		「撮影」メニュー
○*3	○*3	○	○	○*3	○*3	○*3	○*3	記録サイズ		
○	○	○	○	○	○	○	○	画質		
○	×*4	×*4	○	×*4	×*4	×*4	×*4	ホワイトバランス		
○	○	×*5	○	○	○	○	○	AFエリア	AF	
○	○	×	○	○	○	○	○	オートマクロ		
○	○	×	○	○	○	○	○	AF補助光		
○	×*6	×*6	○	×*6	×*6	×*6	×*6	測光方式		
○	○	×*8	○	○	○	○	○	感度		
○	○	–	○	○	○	○	○	感度AUTO調整範囲		
○	○	○	○	○	○	○	○	ストロボ光量補正		
○	○	○	×	○	○	○	○	D-Range設定		
○	○	○*12	○	○	○	○	○	Shake Reduction		
○	○*13	○	○	○	○*13	○*13	×*14	顔検出オン／スマイル／オフ		
○	○	○	×*9	○	○	○	○	まばたき検出		
○	○	○	○	○	○	○	○	クイックビュー		
○	×*15	×*15	○	×*15	×*15	×*15	×*15	シャープネス／彩度（調色）／コントラスト		
○	○	○	○	○	○	○	○	日付写し込み		
○	○	○	×*9	○	○	○	○	超解像		

機能	撮影モード						WIDE		
ズームレバー	ズーム	○	○	○	○	○	×	○	○
ストロボモード	(オート)	○	○	×	○	○	○	○	○
	(発光禁止)	○	○	○	○	○	○	○	○
	(強制発光)	○	○	×	○	○	○	○	○
	(オート+赤目)	○	○	×	○	○	○	○	○
	(強制+赤目)	○	○	×	○	○	○	○	○
	SLOW (スローシンクロ)/SLOW (スローシンクロ+赤目)	○	○	×	○	○	○	○	○
ドライブモード	(標準)	○	○	○	○	○	○	○	○
	(連続撮影)	○	○	○	○	○	×	×	×
	(連写L/H)	○	○	○	○	○	×	×	×
	(セルフタイマー)/(2秒セルフタイマー)	○	○	○	○	○	○	○	○
	3s (リモコン)/(0sリモコン)	○	○	○	○	○	○	○	○
	(オートブラケット)	○	○	○	○	○	×	×	×
フォーカスモード	AF (標準)/(マクロ)	○	○	○	○	○	○	○	○
	1cm (1cmマクロ)	○	○	○	○	○	×	○	○
	(無限遠)	○	○	○	○	○	○	○	○
	MF (マニュアルフォーカス)	○	○	○	○	○	○	○	○
	(AFエリア選択)	○	○	○	○	○	○	○	○
「撮影」メニュー	画像仕上	×*2	○	×*2	×*2	×*2	○	○	○
	記録サイズ	○*3	○*3	×*20	○*3	○*3	×*21	×*22	×*23
	画質	○	○	○	○	○	○	○	○
	ホワイトバランス	×*4	○	×*4	×*4	×*4	○	○	○
	AF AFエリア	○	○	○	○	○	○	○	○*30
	AF オートマクロ	○	○	○	○	○	○	○	○
	AF AF補助光	○	○	○	○	○	○	○	○
	測光方式	×*6	○	×*6	×*6	×*6	○	○	○
	感度	○	×*32	○	○	○	○	○	○
	感度AUTO調整範囲	○	×*34	○	○	○	○	○	○
	ストロボ光量補正	○	○	○	○	○	○	○	○
	D-Range設定	○	○	○	○	○	○	○	○
	Shake Reduction	○	○*12	○	○	○	○*12	○*12	○*12
	顔検出オン/スマイル/オフ	○	○	○	○	○	○	○	○
	まばたき検出	○	○	○	○	○	×*9	×*9	○
	クイックビュー	○	○	○	○	○	○	○	○
	シャープネス/彩度(調色)/コントラスト	×*15	○	×*15	×*15	×*15	○	○	○
	日付写し込み	○	○	○	○	○	○	○	○
	超解像	○	○	○	○	○	×*9	×*9	○

8 付録

○：設定・変更できます　×：設定・変更できません　－：設定・変更が反映されません

P	M	*16	*16	*16		撮影モード＼機能		
○	○	○*17	○*18	○*18	○*19	ズーム		ズームレバー
○	×	×	×	×	○	（オート）		ストロボモード
○	○	○	○	○	○	（発光禁止）		
○	○	×	×	×	×	（強制発光）		
○	×	×	×	×	×	（オート＋赤目）		
○	○	×	×	×	×	（強制＋赤目）		
○	○	×	×	×	×	（スローシンクロ）／（スローシンクロ＋赤目）		
○	○	○	○	○	○	（標準）		ドライブモード
○	○	×	×	×	×	（連続撮影）		
○	○	×	×	×	×	（連写L／H）		
○	○	×	○	○	○	（セルフタイマー）／（2秒セルフタイマー）		
○	○	×	○	○	×	（リモコン）（0sリモコン）		
○	○	×	×	×	×	（オートブラケット）		
○	○	○	○	○	○	AF（標準）／（マクロ）		フォーカスモード
○	○	○	○	○	×	（1cmマクロ）		
○	○	○	○	○	×	（無限遠）		
○	○	○	○	○	×	MF（マニュアルフォーカス）		
○	○	○	○	○	×	（AFエリア選択）		
○	○	○	○	○	×*2	画像仕上		「撮影」メニュー
○*3	○*3	○*24	×*25	×*26	×*27	記録サイズ		
○	○	×*28	×*28	×*28	×*29	画質		
○	○	○	○	○	×*4	ホワイトバランス		
○	○	○*30	○*30	○*30	×*5	AFエリア	AF	
○	○	○	○	○	×*31	オートマクロ		
○	○	×*9	×*9	×*9	×*31	AF補助光		
○	○	×*6	×*6	×*6	×*6	測光方式		
○	○*33	×*32	×*32	×*32	×*32	感度		
○	－	×*35	×*35	×*35	×*36	感度AUTO調整範囲		
○	○	－	－	－	×*37	ストロボ光量補正		
○	○	○	○	○	×*9	D-Range設定		
○	○	○*38	×*9	×*9	×*39	Shake Reduction		
○	○	○	○	○	×*14	顔検出オン／スマイル／オフ		
○	○	×*9	×*9	×*9	×*31	まばたき検出		
○	○	×*9	×*9	×*9	×*31	クイックビュー		
○	○	○	○	○	×*15	シャープネス／彩度（調色）／コントラスト		
○	○	×*9	×*9	×*9	×*9	日付写し込み		
○	○	○	○	×*9	×*31	超解像		

8 付録

*1 デジタルズーム／インテリジェントズームを使用しているときは、「花」は判別されません。
*2 「鮮やか」固定
*3 (連写L)／(連写H)設定時は、5M／4M 16:9 固定
*4 AWB固定
*5 (マルチ)固定
*6 (分割測光)固定
*7 上限感度1600
*8 最低感度固定
*9 □(オフ)固定
*10 ハイライト補正は□(オフ)固定
*11 「デュアル」固定
*12 「デュアル」は選択不可
*13 「オフ」は選択不可
*14 「オン」固定
*15 標準に固定
*16 「動画」メニューの「風切音低減」設定可、動画ボタンを使用した録画の開始／停止不可(動画ボタンは静止画撮影モード時のみ有効)
*17 撮影前は光学ズーム／デジタルズームのみ可、撮影中はデジタルズームのみ可
*18 撮影前は光学ズーム／デジタルズームのみ可、撮影中はズーム不可
*19 光学ズーム、デジタルズームのみ可
*20 2M固定
*21 1枚撮影時3M固定、合成画像は5M固定
*22 1枚撮影時2M固定
*23 3M固定
*24 「動画」メニューの「記録サイズ」で設定
*25 記録サイズ640×480、フレームレート15fps固定
*26 記録サイズ640×480、フレームレート120fps固定
*27 16M固定
*28 ★★★(スーパーファイン)固定
*29 ★★(ファイン)固定
*30 (自動追尾)不可
*31 (オン)固定
*32 「AUTO」固定
*33 「AUTO」選択不可
*34 100-6400に固定
*35 「100-800」に固定
*36 「100-1600」に固定
*37 ±0.0固定
*38 「動画」メニューの「Movie SR」で設定
*39 「センサーシフト」固定

メッセージ一覧

カメラを使用中に、画像モニターに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

メッセージ	内容
電池容量がなくなりました	電池の残量がありません。電池を交換してください（p.28）。
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードに容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。 新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください（p.32、p.122）。 撮影済み画像の記録サイズまたは画質を変えると、保存できる可能性があります（p.131）。
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコン上では画像を表示またはコピーできる場合もあります。
内蔵メモリーがフォーマットされていません	内蔵メモリーの内容が壊れています。内蔵メモリーをフォーマットしてください。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、パソコンなどでフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています（p.154）。
カードがロックされています	SDメモリーカードがライトプロテクトされています（p.6）。
圧縮に失敗しました	画像の圧縮に失敗しました。画質／サイズを変えて、もう一度撮影または保存してください。
動画記録を中止します	動画撮影時にカメラ内部の温度上昇が限界を超えた場合に表示されます。
カメラが高温になりました 電源をオフします	カメラが高温になったため、電源が切れました。しばらくしてから電源を入れてください。
消去中です	画像を消去中に表示されます。
画像がありません	再生できる静止画、動画が1つもない場合に表示されます。
再生できません	このカメラでは再生できない画像を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
フォルダーが作成できません	最大のフォルダー番号(999)で最大のファイル番号(9999)が使用されているため、画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください（p.154）。
プロテクトされています	プロテクトされた画像を消去しようとした場合に表示されます。

メッセージ	内容
記録中です	画像がまだ記録中に▶モードに切り替えたときや、プロテクト／DPOF設定記録中に表示されます。画像または設定の記録が終了したら表示が消えます。
処理中です	画像処理などに時間がかかり5秒以上スルー画像が表示できないとき、またはSDメモリーカード／内蔵メモリーをフォーマット中に表示されます。
内蔵メモリーの空き容量がありません	ファイルを保存するときに、内蔵メモリーの空き容量がない場合に表示されます。
処理できる画像がありません	画像が1つもない場合に表示されます。
この画像を処理できません	実行できないファイルの場合に表示されます。
カードが入っていません	SDメモリーカードが挿入されていない場合に表示されます。
カードの空き容量が足りません 画像をコピーできません	SDメモリーカードにコピーに必要な空き容量が残っていない場合に表示されます。
内蔵メモリーの空き容量が足りません 画像をコピーできません	内蔵メモリーにコピーに必要な空き容量が残っていない場合に表示されます。
正しく処理できませんでした	赤目補正処理に失敗した場合に表示されます。
ストロボをポップアップしてください	⚡ボタンを押して、ストロボが使える状態にしてください。
レンズキャップを確認してください	レンズキャップを付けたままで電源をオンにした場合に表示されます。レンズキャップを外してから電源を入れ直してください。
電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません	ピクセルマッピング時に電池容量が足りない場合に表示されます。新品の電池に交換するか、ACアダプターキットK-AC129（別売）を使用してください（p.30）。
このカードには対応していません Eye-Fiバージョンエラーです	Eye-Fiカードのバージョンが古いため、カメラが対応できない場合に表示されます（p.186）。

こんなときは？

現象	原因	対処方法
電源が入らない	電池が入っていない	電池が入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	電池の入れかたを間違えている	電池の挿入方向を確認してください。⊕⊖表示に従って電池を入れ直してください（p.28）。
	電池の残量がない	電池を交換してください。
画像モニターに何も表示されない	パソコンに接続している	パソコンに接続しているときは、画像モニターは常にオフになります。
	テレビに接続している	テレビに接続しているときは、画像モニターは常にオフになります。
	ファインダーが選択されている	**EVF** ボタンを押してください。
画像モニターの表示が見にくい	画像モニターの明るさが暗く設定されている	「🔧設定」メニューの「LCDの明るさ」で明るさを調整してください（p.168）。
	節電機能（エコモード）が働いている	節電機能が働いていると、一定時間操作しないときに、画像モニターの明るさが自動的に暗くなります。いずれかのボタン操作をすると、元の明るさに戻ります。 「🔧設定」メニューの「エコモード」で「オフ」に設定することで、節電機能が働かないようにすることもできます（p.168）。
シャッターが切れない	ストロボが充電中	ストロボ充電中は撮影できません。充電が完了すると撮影できます。
	SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください（p.122）。
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
撮影した写真が暗い	夜景などの暗い場所で撮るものまでの距離が遠い	被写体までの距離が遠すぎると、撮影した画像が暗くなります。ストロボの光が届く範囲で撮影してください。

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります（p.57）。またはマニュアルフォーカスを使用してください（p.83）。
	AFエリアに被写体が入っていない	画像モニター中央のAFエリアに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、AFエリアにない場合は、いったん撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。または、（AFエリア選択）モードで、ピントを合わせたい被写体にAFエリアを設定して撮影してください（p.84）。
ストロボが発光しない	ストロボがポップアップされていない	ストロボをポップアップしてください。
	ストロボの発光方法がになっている	（オート）または（強制発光）に設定してください（p.79）。
	ドライブモードが／／／、フォーカスモードが、撮影モードが／／／／になっている	これらのモードではストロボは発光しません。
ストロボモードが設定できない	ストロボがポップアップされていない	ストロボをポップアップしてください。



静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、電池を入れ直してみてください。入れ直してから再度、電源を入れてカメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
各メニュー項目の中で、初期設定値があるものの表示内容を示します。

ラストメモリ設定

する　：カメラの電源を切っても現在の設定（ラストメモリ）が保存される
しない：カメラの電源を切ると初期設定に戻る
※　　：する／しないは「モードメモリ」（p.110）の設定による
—　　：該当なし

リセット設定

する　：リセット（p.173）で初期設定に戻る
しない：リセットしても設定が保存される
—　　：該当なし

●「撮影」メニュー項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
画像仕上		鮮やか	する	する	p.87
記録サイズ		16M（4608×3456）	する	する	p.88
画質		★★（ファイン）	する	する	p.89
ホワイトバランス		**AWB**（オート）	※	する	p.90
AF	AFエリア	[ ]（マルチ）	する	する	p.86
	オートマクロ	☑（オン）	する	する	p.86
	AF補助光	☑（オン）	する	する	p.87
測光方式		（分割測光）	※	する	p.91
感度		AUTO	※	する	p.92
感度AUTO調整範囲		100～1600	※	する	p.93
ストロボ光量補正		±0.0	する	する	p.94
D-Range設定	ハイライト補正	□（オフ）	する	する	p.94
	シャドー補正	□（オフ）	する	する	
Shake Reduction		センサーシフト	する	する	p.95
顔検出		オン	※	する	p.95
まばたき検出		☑（オン）	する	する	p.97
デジタルズーム		☑（オン）	※	する	p.63
クイックビュー		☑（オン）	する	する	p.97

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
モードメモリ	顔検出モード	□（オフ）	する	する	p.110
	ストロボモード	☑（オン）	する	する	
	ドライブモード	□（オフ）	する	する	
	フォーカスモード	□（オフ）	する	する	
	ズーム位置	□（オフ）	する	する	
	MF位置	□（オフ）	する	する	
	ホワイトバランス	□（オフ）	する	する	
	感度	□（オフ）	する	する	
	露出補正	□（オフ）	する	する	
	測光方式	□（オフ）	する	する	
	デジタルズーム	☑（オン）	する	する	
	DISPLAY	□（オフ）	する	する	
	ファイルNo.	☑（オン）	する	する	
グリーンボタン		グリーンモード	する	する	p.100
シャープネス		（標準）	する	する	p.98
彩度		（標準）	する	する	p.98
調色*1		（白黒）	する	する	p.98
コントラスト		（標準）	する	する	p.98
日付写し込み		□（オフ）	する	する	p.99
超解像		☑（オン）	する	する	p.99

*1「画像仕上」が「モノトーン」の場合に、「彩度」の代わりに表示される

●「動画」メニュー項目

名称	初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
記録サイズ	1920 30（1920×1080・30fps）	する	する	p.108
Movie SR	☑（オン）	する	する	p.109
風切音低減	□（オフ）	する	する	p.109

●「🔧設定」メニュー項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
USERモード登録		キャンセル	する	する	p.77
サウンド	操作音量	3	する	する	p.155
	再生音量	3	する	する	
	起動音	オフ	する	する	
	シャッター音	1	する	する	
	操作音	1	する	する	
	セルフタイマー音	1	する	する	
日時設定	表示スタイル（日付）	初期設定による	する	しない	p.156
	表示スタイル（時刻）	24h	する	しない	
	日付	2012/1/1	する	しない	
	時刻	初期設定による	する	しない	
ワールドタイム	時刻切替	⌂（現在地）	する	する	p.158
	目的地（都市）	初期設定による	する	しない	
	目的地（夏時間）	オフ	する	しない	
	現在地（都市）	初期設定による	する	しない	
	現在地（夏時間）	オフ	する	しない	
文字サイズ		標準	する	しない	p.160
Language/言語		初期設定による	する	しない	p.161
フォルダー名		日付	する	する	p.162
ファイル名		IMGP	する	する	p.162
USB接続		MSC	する	する	p.175
ビデオ出力		初期設定による	する	しない	p.166
HDMI出力		オート	する	する	p.166
Eye-Fi		□（オフ）	する	する	p.167
LCDの明るさ		-‒▪‒+（標準）	する	する	p.168
エコモード		5秒	する	する	p.168
オートパワーオフ		3分	する	する	p.169
クイック拡大		□（オフ）	する	する	p.170
ガイド表示		☑（オン）	する	する	p.170
バッテリー選択		AUTO	する	する	p.170
リセット		キャンセル	—	—	p.173
全画像消去		キャンセル	—	—	p.124
ピクセルマッピング		キャンセル	—	—	p.172
再生起動		☑（オン）	する	する	p.173
フォーマット		キャンセル	—	—	p.154

● 再生モードパレット項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
スライドショウ	表示間隔	3秒	する	する	p.118
	画面効果	ワイプ	する	する	
	効果音	☑（オン）	する	する	
画像回転		正位置	—	—	p.120
のび〜るフィルター		中心、8%	しない	しない	p.133
小顔フィルター		約7%	しない	しない	p.134
コラージュ	記録サイズ	3M（2048×1536）	する	する	p.139
	配置	■	する	する	p.140
	背景	白	する	する	p.140
	画像選択	—	—	—	p.141
デジタルフィルター		白黒	しない	—	p.135
HDRフィルター		—	しない	しない	p.138
フレーム合成		デフォルト1	する	する	p.143
動画編集		静止画保存	—	—	p.146
赤目補正		—	—	—	p.142
リサイズ	記録サイズ	元画像による	—	—	p.131
	画質	元画像による	—	—	
トリミング		元画像による	—	—	p.132
画像コピー		内蔵メモリー→SDカード	—	—	p.149
プロテクト	1画像	画像による	—	—	p.124
	全画像	画像による	—	—	
DPOF設定	1画像	枚数：0枚 日付：□（オフ）	—	—	p.151
	全画像		—	—	
起動画面設定		起動画面1	する	する	p.171

● キーによる操作

名称		機能	初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
▶ボタン		動作モード	▶モード	—	—	—
動画ボタン		動作モード	動画撮影を開始	—	—	p.106
ズームレバー		ズーム位置	広角端	※	しない	p.61
十字キー	▲	ドライブモード	□（標準）	※	する	p.81
	◀	ストロボモード	⚡A（オート）	※	する	p.79
	▶	フォーカスモード	AF（標準）	※	する	p.83
MENUボタン		メニュー表示	📷メニュー	—	—	p.47
DISPボタン		情報表示	標準	※	する	p.20
EVFボタン		モニター表示切替	画像モニター	する	する	—
グリーンボタン		撮影モード	グリーンモード	する	する	p.100

都市名一覧

都市名：「初期設定」(p.36) やワールドタイム (p.158) で設定できる都市
ビデオ出力方式：「初期設定」で設定した都市のビデオ出力方式

地域	都市名	ビデオ出力方式
北米	ホノルル	NTSC
	アンカレジ	NTSC
	バンクーバー	NTSC
	サンフランシスコ	NTSC
	ロサンゼルス	NTSC
	カルガリー	NTSC
	デンバー	NTSC
	シカゴ	NTSC
	マイアミ	NTSC
	トロント	NTSC
	ニューヨーク	NTSC
	ハリファックス	NTSC
中南米	メキシコシティ	NTSC
	リマ	NTSC
	サンティアゴ	NTSC
	カラカス	NTSC
	ブエノスアイレス	PAL
	サンパウロ	PAL
	リオデジャネイロ	NTSC
ヨーロッパ	リスボン	PAL
	マドリード	PAL
	ロンドン	PAL
	パリ	PAL
	アムステルダム	PAL
	ミラノ	PAL
	ローマ	PAL
	コペンハーゲン	PAL
	ベルリン	PAL
	プラハ	PAL
	ストックホルム	PAL
	ブダペスト	PAL
	ワルシャワ	PAL
	アテネ	PAL
	ヘルシンキ	PAL
	モスクワ	PAL
アフリカ・西アジア	ダカール	PAL
	アルジェ	PAL
	ヨハネスブルグ	PAL

地域	都市名	ビデオ出力方式
アフリカ・西アジア	イスタンブール	PAL
	カイロ	PAL
	エルサレム	PAL
	ナイロビ	PAL
	ジッダ	PAL
	テヘラン	PAL
	ドバイ	PAL
	カラチ	PAL
	カブール	PAL
	マーレ	PAL
	デリー	PAL
	コロンボ	PAL
	カトマンズ	PAL
	ダッカ	PAL
東アジア	ヤンゴン	NTSC
	バンコク	PAL
	クアラルンプール	PAL
	ビエンチャン	PAL
	シンガポール	PAL
	プノンペン	PAL
	ホーチミン	PAL
	ジャカルタ	PAL
	香港	PAL
	北京	PAL
	上海	PAL
	マニラ	NTSC
	台北	NTSC
	ソウル	NTSC
	東京	NTSC
	グアム	NTSC
オセアニア	パース	PAL
	アデレード	PAL
	シドニー	PAL
	ヌーメア	PAL
	ウェリントン	PAL
	オークランド	PAL
	パゴパゴ	NTSC

主な仕様

型式	ズームレンズ内蔵全自動コンパクトタイプデジタルスチルカメラ	
有効画素数	約1600万画素	
撮像素子	1/2.33型CMOS	
記録画素数	静止画	16M（4608×3456）、12M 1:1（3456×3456）、 12M 16:9（4608×2592）、7M（3072×2304）、 5M 16:9（3072×1728）、5M（2592×1944）、 4M 16:9（2592×1464）、3M（2048×1536）、 2M 16:9（1920×1080）、1024（1024×768）、 640（640×480）（ピクセル） ※ フレーム合成モード時は3M固定 ※ デジタルワイドモード時は5M固定（合成後） ただし1枚撮影時（合成前）は3M固定 ※ パノラマモード撮影時は1枚2M固定 ※ （連写L）／（連写H）時は5M／4M 16:9固定 ※ ステージライトモード時は2M固定
	動画	1920 30（1920×1080・30fps）、1280 60（1280×720・60fps） 1280 30（1280×720・30fps）、640 30（640×480・30fps）
感度	オート、マニュアル（ISO 100、200、400、800、1600、3200、6400） ※高感度モード時はAUTO（100～6400）に固定	
記録方式	静止画	JPEG（Exif2.3準拠）、DCF2.0準拠、DPOF対応、 PRINT Image Matching III対応
	動画	MPEG-4 AVC/H.264、約60fps／約30fps（フレーム／秒）、PCM方式・モノラル音声付、Movie SR（動画手ぶれ補正）
画質	静止画	★★★（S.ファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）
	動画	★★★（S.ファイン）固定　※変更不可
記録媒体	内蔵メモリー（約75.3MB）、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCカード　※UHS-1対応	

撮影枚数と時間

静止画

記録サイズ		内蔵メモリー			2GB SDメモリーカード		
		★★★	★★	★	★★★	★★	★
16M	（4608×3456）	14枚	25枚	42枚	370枚	654枚	1078枚
12M 1:1	（3456×3456）	17枚	33枚	51枚	436枚	854枚	1308枚
12M 16:9	（4608×2592）	17枚	33枚	51枚	436枚	854枚	1308枚
7M	（3072×2304）	25枚	47枚	76枚	654枚	1205枚	1921枚
5M 16:9	（3072×1728）	30枚	58枚	84枚	778枚	1499枚	2120枚
5M	（2592×1944）	30枚	58枚	84枚	778枚	1499枚	2120枚
4M 16:9	（2592×1464）	40枚	76枚	109枚	1024枚	1921枚	2795枚

3M （2048×1536）	47枚	94枚	137枚	1205枚	2365枚	3416枚
2M 16:9 （1920×1080）	69枚	126枚	185枚	1756枚	3236枚	4730枚
1024 （1024×768）	166枚	283枚	371枚	4099枚	6832枚	8784枚
640 （640 ×480）	344枚	536枚	603枚	8784枚	12298枚	15372枚

- 撮影枚数は目安です。SDメモリーカードや被写体により実際の撮影枚数は異なることがあります。

動画

記録サイズ	内蔵メモリー	2GB SDメモリーカード
1920 30 （1920×1080・30fps）	29秒	16分51秒
1280 60 （1280×720・60fps）	29秒	16分34秒
1280 30 （1280×720・30fps）	47秒	27分11秒
640 30 （640 ×480・30fps）	2分3秒	1時間10分24秒

- この数値は、当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。
- 動画で連続記録できるのは1回につき25分までです。

ホワイトバランス	オート、太陽光、日陰、白熱灯、蛍光灯（昼光色／昼白色／白色）、マニュアル	
レンズ	焦点距離	4.0～104.0mm（焦点距離の35mm換算値：約22.3～580mm相当）
	F値	F3.1（W）～F5.9（T）
	レンズ構成	9群12枚（非球面レンズ3枚使用）
	ズーム方式	電動式
光学ズーム	26倍	
インテリジェントズーム	7M、5M 16:9：約39倍、5M、4M 16:9：約46.2倍、3M：約58.5倍、2M 16:9：約62.4倍、2M：約74.9倍、1024：約117倍、640：約187.2倍 （光学ズームと合わせたズーム倍率）	
デジタルズーム	最大約7.2倍（光学26倍ズームと合わせ、最大約187.2倍ズーム相当のズーム倍率）	
手ぶれ軽減	静止画	センサーシフト方式（SR : Shake Reduction）、デュアル（SR × 電子式併用）、高感度によるぶれ軽減（高感度モード）
	動画	電子式（Movie SR）
画像モニター	3.0型 約46万ドットLCD、上下チルト機構付（上方約90度、下方約60度可動）	
ファインダー	電子ビューファインダー 約23万ドット 視度調整機能付き	
再生機能	1コマ、4画面、9画面、拡大（最大10倍まで、スクロール可）、フォルダー表示、カレンダー表示、ヒストグラム表示、グリッド表示、選択消去、スライドショウ、画像回転、のび～るフィルター、小顔フィルター、コラージュ、デジタルフィルター、HDRフィルター、フレーム合成、動画再生・編集（静止画保存、分割、タイトル画像追加）、赤目補正、リサイズ、トリミング、画像コピー、プロテクト、DPOF、起動画面設定	

フォーカスモード	オートフォーカス、マクロ、1cmマクロ、無限遠、マニュアルフォーカス、AFエリア選択（25点より選択可）	
フォーカス	方式	撮像素子によるTTLコントラスト検出方式 マルチ（9点AF）／スポット／自動追尾切替可
	フォーカス範囲	標準　：0.4m～∞（広角時） 1.5m～∞（望遠時） マクロ　：0.1m～0.5m 1cmマクロ　：0.01m～0.2m ※ 遠景、マニュアルフォーカス切替可、AF エリア選択 ※ 顔検出中のみ、顔検出AF可
	フォーカスロック	シャッターボタン半押しによる
露出制御	測光方式	撮像素子によるTTL 測光（分割、中央重点、スポット）
	露出補正	±2EV（1/3EVステップで設定可能）
顔検出	最大32人まで検出可（画像モニターに表示される顔検出枠は最大31個)、スマイルキャッチ、まばたき検出 ※顔検出中のみ、顔検出AE可	
ペット検出	登録数：3、検出数：1	
撮影モード	モードダイヤル：オートピクチャー、プログラム、マニュアル、ユーザー、動画、手持ち夜景、スポーツ、風景、ポートレート シーンモードパレット：花、青空、夕焼け、夜景、夜景ポートレート、花火、HDRフィルター、サーフ＆スノー、ベビー、キッズ、ペット、料理、高感度、ステージライト、テキスト、美術館、デジタルワイド、パノラマ、フレーム合成 グリーンボタン：グリーンモード、Fn設定 動画モードパレット：動画、早送り動画、ハイスピードカメラ	
デジタルフィルター	白黒、セピア、トイカメラ、レトロ（ブルー、アンバー）、カラー（赤、桃、紫、青、緑、黄）、色抽出（赤、緑、青）、色強調（晴天、新緑、花見、紅葉)、ハイコントラスト、ソフト、フィッシュアイ、明るさ、ミニチュア	
動画	連続録画時間	動画／早送り動画：約1秒～25分（ただし内蔵メモリー／SD メモリーカードの容量いっぱいまで) ハイスピードカメラ：約1秒～15秒（ただし内蔵メモリー／SD メモリーカードの容量いっぱいまで)
	動画撮影中の静止画保存機能	動画撮影開始時のフォーカス固定、記録サイズ16M固定、1回の動画撮影で静止画3枚まで、動画記録サイズにより画角が変わる場合があります。撮影条件により画像がひずむ場合があります。
シャッタースピード	1/1500～1/4秒、最長4秒（マニュアル、夜景モード）	
絞り	NDフィルター方式	
内蔵ストロボ	発光モード	自動発光、発光禁止、強制発光、自動発光+赤目軽減、強制発光+赤目軽減、スローシンクロ、スローシンクロ+赤目軽減
	調光範囲	広角時 約0.2～11.6m (感度オートの条件において) 望遠時 約1.5～6.1m (感度オートの条件において)

ドライブモード	1コマ撮影、連続撮影、連写（L／H)、セルフタイマー撮影（約10秒後、約2秒後)、リモコン撮影（即、約3秒後)、オートブラケット撮影	
セルフタイマー	電子制御式、制御時間：約10秒、約2秒	
時計機能	ワールドタイム	世界75都市に対応（28タイムゾーン）
電源	単3形電池4本（アルカリ、リチウム、ニッケル水素充電池)、ACアダプターキット（別売）	
電池寿命	撮影可能枚数	約330枚（単3形アルカリ電池使用)、約500枚（単3形ニッケル水素充電池使用)、約950枚（単3形リチウム電池使用） ※ 撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。(CIPA規格抜粋：画像モニター ON、ストロボ使用率50％、23℃）
	再生時間	約420分（単3形アルカリ電池使用)、約500分（単3形ニッケル水素充電池使用)、約950分（単3形リチウム電池使用） ※ 時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。
	動画撮影時間	約75分（単3形アルカリ電池使用)、約150分（単3形ニッケル水素充電池使用)、約280分（単3形リチウム電池使用） ※ 時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。
外部インターフェイス	USB 2.0（ハイスピード対応）／PC/AV端子／HDMI端子（タイプD (Micro)）／外部電源端子	
ビデオ出力方式	NTSC／PAL（モノラル音）	
外形•寸法	約120（幅）×86.5（高）×106.5（厚）mm（操作部材、突起部を除く）	
質量（重さ）	本体約507g（電池、SDメモリーカード含まず） 約599g（電池、SDメモリーカード含む）	
主な付属品	単3形アルカリ電池（4本)、USBケーブル、ソフトウェア（CD-ROM)、レンズキャップ、ストラップ、使用説明書、簡単ガイド、保証書	

索引

8
付録

か行

さ行

8
付録

た行

な行

は行

8 付録

ま行

や行

ら行

わ行

8
付録

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2. 保証期間中［ご購入後 1 年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。

3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。

4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。

5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後 5 年間を目安に保有しております。従って本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。

6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］

7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

メモ

ペンタックスホームページアドレス　**http://www.pentax.jp/**

本製品に関するお問い合わせは・・・

http://www.pentax.jp/japan/support/

＜PENTAX　お客様相談センター＞　営業時間　**9：00～18：00**（平日）
10：00～17：00（土・日・祝日）

ナビダイヤル　**0570-001313**
［市内通話料金でご利用いただけます］　休業日　年末年始およびビル点検日

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、
TEL 03-3960-3200（代）にお掛け下さい。
FAXでのお問い合わせ　03-3960-4976

修理のご相談受付窓口　　宅配便・郵送による修理受付は・・・

http://www.pentax.jp/japan/support/repair.html

＜**PENTAX**　東京サービスセンター＞　営業時間　**9：00～17：30**
〒174-0041　東京都板橋区舟渡1-12-11
ヘリオスⅡビル3Ｆ
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）
TEL　03-3960-5140　FAX　03-3960-5147

＜**PENTAX**　大阪サービスセンター＞　営業時間　**9：00～17：00**
〒542-0081　大阪市中央区南船場1-17-9
パールビル2Ｆ
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）
TEL　06-6271-7996　FAX　06-6271-3612

ショールーム・ギャラリー・修理受付

＜ペンタックスフォーラム＞　営業時間　**10：30～18：30**
〒163-0690　東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービルMB（中地下１階）
休業日　毎週火曜日、年末年始およびビル点検日
TEL　03-3348-2941（代）　FAX　03-3345-8076

ペンタックスリコーイメージング株式会社
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-35-7

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

54636
R03AYI12
Printed in Indonesia